

第2章 統計

第1節 実績の概要

第1項 産科部門診療実績

産科部門については、県内全ての分娩取扱医療機関（病院、診療所、助産所）に周産期情報の提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにしている。

対象医療機関は10病院、15診療所、7助産所となっているが、1診療所については本年5月31日に分娩取扱を休止した。

本調査による本年の総分娩数は8,551例であった。うち病院が3,211例で37.6%、診療所が5,147例で60.2%、助産所が193例で2.2%となっている。全国の傾向と同様に県内でも分娩数は減少している。

早産と定義される37週未満の分娩は475例で全体の5.5%となっている。また低出生体重児は743例で8.6%となっている。診療所でも233例（全低出生体重児のうちの31.4%）の低出生体重児を扱っている。高年出産とされる35歳以上での出産は2,465例あり、全体の28.8%となっている。

合併症妊娠では子宮筋腫が最も多く264例となっている。産科合併症は弛緩出血が624例で最も多い（表23）。

表23 2021年産科部門診療実績

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数(例)	714	603	150	311	1,433	5,147	193	8,551
	経膈分娩	441	379	100	255	1,070	4,229	193	6,667
	帝王切開	273	224	50	56	363	918	-	1,884
	うち予定	123	113	29	31	232	509	-	1,037
	うち緊急	150	111	21	25	131	409	-	847
	帝王切開率(%)	38.2	37.1	33.3	18.0	25.3	17.8	-	22.0
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	58	52	6	-	-	2	-	118
	35週	43	30	8	3	5	26	-	115
	36週	41	34	3	11	29	124	-	242
	37週	108	112	16	29	182	407	8	862
	38週	205	136	34	75	354	1,146	30	1,980
	39週	165	129	36	84	364	1,634	74	2,486
	40週	96	112	38	92	401	1,350	73	2,162
	41週	38	37	11	19	94	426	8	633
	42週以上	3	-	-	-	3	14	-	20
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	26	8	1	1	-	-	-	36
	1,500-1,999g	46	45	3	1	6	7	-	108
	2,000-2,499g	131	102	20	22	93	226	5	599
	2,500g以上	554	487	128	289	1,333	4,896	188	7,875
出産時年齢	35歳未満	493	332	84	204	1,020	3,839	114	6,086
	35-39歳	163	192	43	84	329	1,118	64	1,993
	40-44歳	56	77	23	22	81	189	15	463
	45歳以上	2	2	-	1	3	1	-	9

次ページへ続く

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
合併症妊娠	子宮筋腫	73	42	8	24	25	90	2	264
	子宮筋腫（核出術後）	5	14	1	6	11	6	-	43
	卵巣嚢腫（腫瘍）	23	10	3	2	13	14	-	65
	子宮頸癌（含円錐切除後）	1	10	3	-	10	8	-	32
	子宮形態異常	-	5	-	2	3	-	-	10
	甲状腺機能亢進症	17	7	1	4	9	16	-	54
	甲状腺機能低下症	34	30	12	7	19	31	-	133
	糖尿病（含GDM）	72	59	16	18	43	15	-	223
	喘息	15	19	2	13	25	48	-	122
	慢性腎炎	1	3	-	1	4	-	-	9
	本態性高血圧	13	4	-	-	2	-	-	19
	特発性血小板減少性紫斑病（ITP）	-	-	1	-	-	-	-	1
	自己免疫疾患	7	2	1	4	3	-	-	17
	循環器疾患	11	10	1	4	9	-	-	35
	精神科疾患（含てんかん）	48	33	5	6	9	13	-	114
	ウイルス性肝炎（※1）	4	1	-	-	4	1	-	10
	消化器疾患（※2）	9	6	1	1	11	4	-	32
	その他	44	35	7	-	11	5	-	102
産科合併症 （重複あり）	切迫早産（※3）・前期破水（※4）	123	126	21	19	142	188	-	619
	妊娠高血圧症候群	86	65	4	8	64	69	-	296
	胎児発育不全	40	35	4	3	8	12	-	102
	多胎妊娠	46	42	2	2	2	4	-	98
	前置胎盤	14	6	1	1	3	2	-	27
	子癇	1	4	-	-	8	-	-	13
	弛緩出血（※5）	131	81	23	60	177	148	4	624
	常位胎盤早期剥離	5	7	-	2	3	6	-	23
	HELLP症候群	4	6	1	-	2	1	-	14
	低置胎盤	12	7	-	-	13	4	-	36
	血液型不適合	3	5	2	3	4	7	-	24
	羊水過多	11	5	2	1	-	17	-	36
	羊水過少	16	7	3	2	9	37	-	74
	先天異常	30	2	6	1	3	15	-	57
	その他	77	38	-	-	1	3	-	119
産科手術他	子宮頸管縫縮術	14	6	-	-	5	11	-	36
	卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	6	2	-	-	4	3	-	15
	産道血腫除去術	5	-	-	-	2	5	-	12
	子宮動脈塞栓術	7	3	-	1	1	-	-	12
	子宮摘出術	1	3	-	-	2	-	-	6
	胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	-
	羊水除去	2	-	-	-	-	-	-	2
	その他	-	4	-	-	1	14	-	19
輸血治療症例		17	11	2	1	4	3	-	38

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など／※3 入院のみ／※4 早産期／※5 羊水を含む出血量800ml以上、帝王切開1500ml以上

※ 参考

1 医療機関別特定妊婦数および未受診妊婦数

各医療機関において分娩を取り扱った患者のうち、市町村が認定した特定妊婦の数について集計を行った。また未受診妊婦（受診回数3回以下、または最終受診日から3ヵ月以上の受診がない）についても

集計した。

医療機関等において特定妊婦と思われる者を把握したときには、支援につなげるため、市町村に情報提供することが児童福祉法において努力義務として求められている。県内医療機関においても関係機関との連携に努めているところである（表 24）。

表 24 医療機関別特定妊婦および未受診妊婦数報告内訳

		奈良 医大	県総合	近大 奈良	天理 よろづ	市立 奈良	大和 郡山	大和 高田	高井	桜井	生駒 市立	診療所	助産所	計
2021年	特定妊婦数	36	21	-	1	7	2	17	-	1	8	38	-	131
	未受診妊婦数	3	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7
	計	39	24	-	2	7	2	17	-	1	8	38	-	138
2020年	特定妊婦数	37	22	-	7	8	-	18	2	1	6	29	-	130
	未受診妊婦数	1	3	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	7
	計	38	25	-	8	8	-	18	2	1	7	30	-	137

※各医療機関において分娩を取り扱った患者が対象

＜妊娠の届出（母子健康手帳の交付）等の状況＞

市町村への妊娠届出数のうち保健師が面談、アセスメント等を行い支援が必要となった妊婦の数および特定妊婦数について県内市町村分をとりまとめて集計している。妊娠届の遅滞は減少傾向にあるが要支援妊婦や特定妊婦数の減少は見られない（表 25）。

表 25 令和 3 年度妊娠の届出状況

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総数	妊娠届出数	9,447	9,445	8,901	8,411	8,160	7,748
	支援が必要となった妊婦の数	1,384	1,995	1,803	1,817	1,808	1,768
	特定妊婦数	151	203	209	218	177	174
満11週以内 （3ヶ月以内）	妊娠届出数	8,971	9,034	8,526	8,032	7,891	7,521
	支援が必要となった妊婦の数	1,206	1,830	1,650	1,634	1,673	1,638
	特定妊婦数	104	158	155	157	138	137
満12週～19週以内 （第4月～第5月以内）	妊娠届出数	335	302	268	275	188	173
	支援が必要となった妊婦の数	106	103	101	115	81	90
	特定妊婦数	26	24	32	31	19	25
満20週～27週以内 （第6月～第7月以内）	妊娠届出数	55	53	44	50	32	32
	支援が必要となった妊婦の数	40	37	29	33	27	25
	特定妊婦数	8	16	10	12	8	6
満28週～分娩まで （第8月～分娩まで）	妊娠届出数	28	16	17	21	18	10
	支援が必要となった妊婦の数	22	14	17	20	16	9
	特定妊婦数	12	3	9	13	9	4
分娩後	妊娠届出数	1	7	2	5	1	5
	支援が必要となった妊婦の数	1	6	2	5	1	4
	特定妊婦数	-	2	1	2	-	2
不詳	妊娠届出数	57	33	44	28	30	7
	支援が必要となった妊婦の数	9	5	4	10	10	2
	特定妊婦数	1	-	2	3	3	-

※支援が必要な妊婦：各市町村がアセスメントにより支援が必要と認められる妊婦

（県健康推進課調べ）

※特定妊婦：出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

第2項 新生児部門診療実績

新生児部門については、奈良医大、県総合、近大奈良および天理よろづからデータ集計を行った。

本調査による本年の新生児入院数は901例で、うち院内出生が764例、院外出生が137例であった。

入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、273例であった。人工呼吸器管理症例数は205例で全体の22.6%であった。早期新生児死亡は3例、後期新生児死亡は2例で、死亡症例の詳細は下表のとおりである。新生児搬送症例数は134例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が56例と最も多かった（表26、27）。

表26 2021年新生児部門診療実績

		(例)				
施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	合計
入院数	院内出生	297	355	39	73	764
	院外出生	40	70	27	-	137
主病名	呼吸器疾患	52	181	13	27	273
	心・循環器疾患	36	11	1	1	49
	消化管疾患	8	5	15	-	28
	脳・神経疾患	5	5	-	-	10
	染色体異常 形態異常症候群	36	7	2	-	45
	感染症	9	11	4	12	36
	代謝内分泌	15	-	-	7	22
	その他	259	207	31	53	550
人工呼吸器管理症例	入院数	344	425	66	73	908
	人工呼吸器管理症例数	96	82	16	11	205
後期新生児死亡数		1	-	1	-	2
新生児搬送収容数		39	68	27	-	134
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	10	40	6	-	56
	心・循環器疾患	10	7	-	-	17
	消化管疾患	3	2	7	-	12
	脳・神経疾患	-	4	-	-	4
	染色体異常 形態異常症候群	6	6	1	-	13
	感染症	3	3	4	-	10
	その他	7	16	9	-	32

表27 2021年新生児部門死亡例一覧

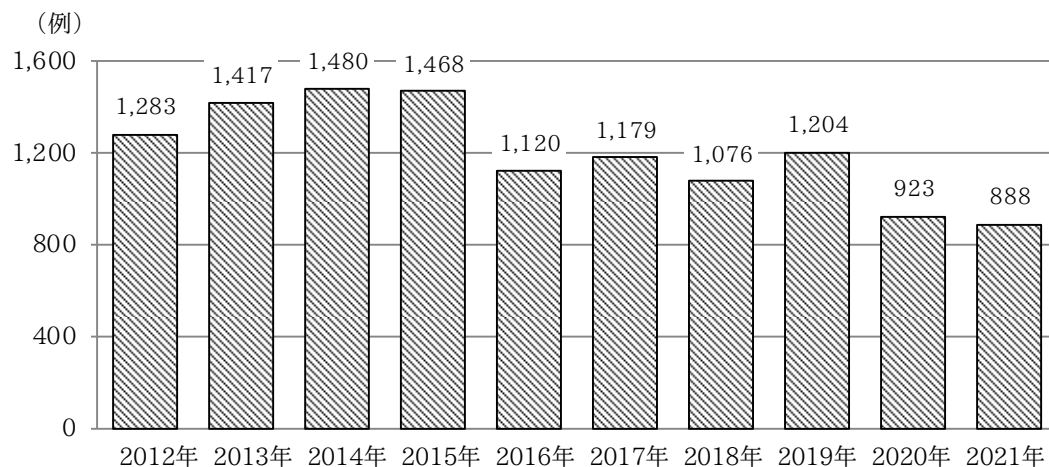
医療機関	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	25週	500g未満	8-28日	超低出生体重児
	35週	1,500-1,749g	0-7日	body stalk anomaly (腹壁破裂) 新生児遷延性肺高血圧
	38週	2,000-2,249g	29日以降	18トリソミー
	37週	2,250-2,499g	0-7日	肺低形成
	38週	2,500-2,749g	29日以降	肺胞毛細管異形成 鎖肛
近大奈良	39週	2,500-2,749g	8-28日	脾臓出血
天理よろづ	36週	2,750-2,999g	0-7日	重症仮死 (常位胎盤早期剥離で出生時)

第2節 奈良県立医科大学附属病院

第1項 産科部門診療実績

1 入院数

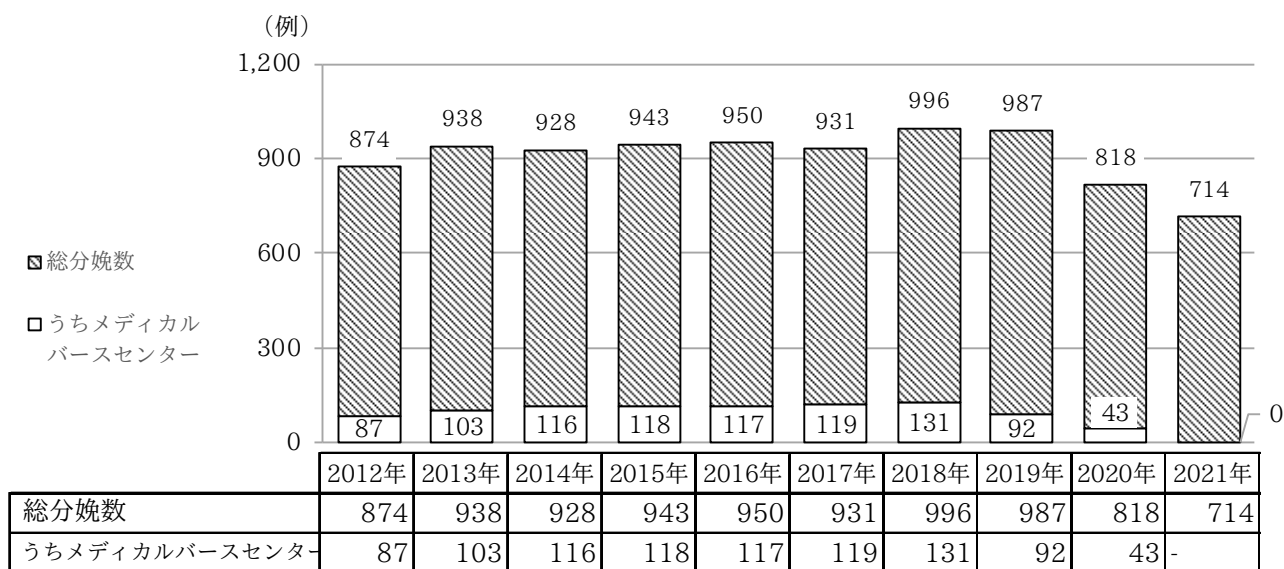
本年の産科病棟入院患者数は前年に比し減少した。COVID-19 拡大に対する奈良医大の診療体制において稼働病床を制限したことが影響したと思われる。



2 分娩数

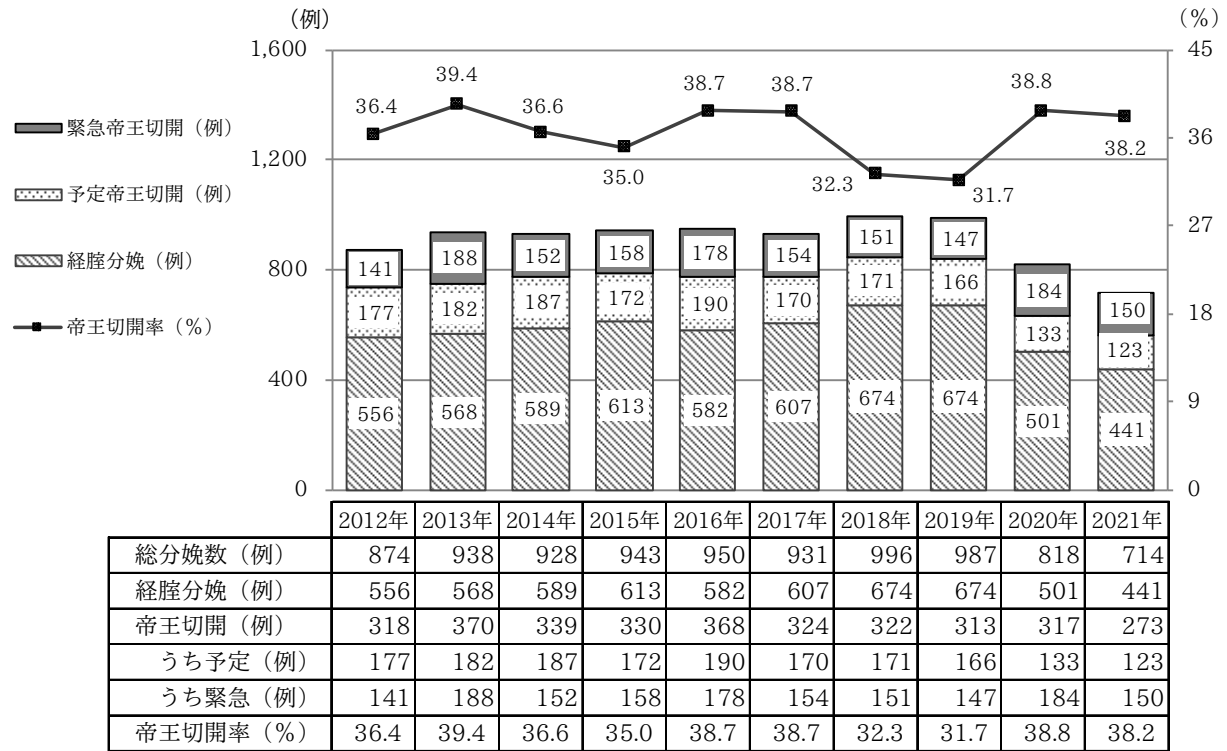
本年の分娩数は減少した。少子化に加え、前年に引き続き COVID-19 診療体制下での他府県からの帰省分娩制限、低リスク症例の受け入れ制限を行なったことなどが影響したと思われる。

また、バースセンターに関しては COVID-19 診療体制のために閉鎖されたことから、分娩数は減少した。



3 分娩様式

低リスク症例の受け入れ制限を行ったが、総分娩数に対する帝王切開率は同程度であった。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

総分娩数の減少により、正産期、早産期ともに分娩数が減少した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
22週	-	-	2	3	1	2	1	1	-	-
23週	2	2	1	2	1	1	-	-	2	3
24週	-	2	3	5	2	4	2	1	-	1
25週	1	4	1	1	2	3	2	1	3	4
26週	-	1	5	2	3	4	4	1	2	1
27週	3	2	3	2	1	7	7	4	3	2
28週	5	5	4	8	4	1	3	-	5	3
29週	7	4	4	2	6	-	5	3	2	4
30週	3	3	3	4	3	5	9	7	8	4
31週	5	4	7	6	7	8	6	3	4	3
32週	9	16	7	9	8	11	8	8	13	11
33週	14	20	11	10	8	10	13	15	13	9
34週	21	22	8	10	21	20	17	32	25	13
35週	30	33	24	33	15	27	34	38	37	43
36週	54	54	41	77	62	46	56	62	43	41
37週	115	106	156	159	174	129	162	146	129	108
38週	198	246	208	209	225	221	243	246	209	205
39週	167	172	202	182	220	182	241	225	164	165
40週	172	183	168	203	177	182	175	181	133	96
41週	54	45	51	58	64	64	63	60	36	38
42週以上	1	-	-	4	1	2	-	-	-	3
不明	2	3	-	5	2	2	1	2	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

1,500g未満の極低出生体重児の入院数は26例で、前年に比して減少した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500g未満	3	-	5	7	3	9	3	2	-	2
500-999g	11	19	15	19	15	9	18	13	15	15
1,000-1,499g	16	27	25	13	20	20	17	13	23	9
1,500-1,999g	57	60	45	48	40	48	56	52	42	46
2,000-2,499g	129	165	136	137	135	143	141	145	147	131
2,500g以上	690	732	748	770	763	753	817	811	603	554
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

6 出産時年齢（例）

総分娩数における35歳未満の分娩数の割合が増加した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	593	632	644	610	636	614	671	647	514	493
35-39歳	212	239	225	250	240	249	257	246	224	163
40-44歳	68	64	56	79	72	103	89	93	72	56
45歳以上	1	3	4	4	2	2	5	1	8	2

7 合併症妊娠（例）

前年に比して子宮筋腫合併妊娠が増加した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	-	69	52	49	36	67	67	59	45	73
子宮筋腫（核出術後）	49	16	6	5	-	-	4	9	3	5
卵巣嚢腫（腫瘍）	8	26	22	25	25	20	4	22	13	23
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	9	7	9	-	15	3	12	8	1
子宮形態異常	4	4	2	4	3	4	2	11	3	-
甲状腺機能亢進症	18	17	8	14	9	13	11	18	14	17
甲状腺機能低下症	6	11	17	14	17	35	31	41	23	34
糖尿病（含GDM）	28	39	45	54	62	67	62	87	74	72
喘息	26	49	19	25	28	19	14	25	17	15
慢性腎炎	7	3	1	12	4	1	1	3	4	1
本態性高血圧	9	16	12	12	13	13	10	15	8	13
ITP	5	9	-	-	-	-	5	9	3	-
自己免疫疾患	12	11	14	10	9	14	11	15	6	7
循環器疾患	14	8	17	14	-	-	16	16	11	11
精神科疾患（含てんかん）	43	58	47	49	43	25	47	44	34	48
ウイルス性肝炎（※1）	10	6	9	11	5	5	3	9	4	4
消化器疾患（※2）	6	8	13	12	20	8	78	14	5	9
その他	-	-	-	-	-	-	63	35	30	44

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

切迫早産・前期破水の入院数が減少し、妊娠高血圧症候群、弛緩出血が増加した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	164	151	131	109	115	177	114	153	168	123
妊娠高血圧症候群	52	51	49	49	51	63	58	57	59	86
胎児発育不全	51	36	45	31	28	52	80	76	46	40
多胎妊娠	46	76	56	51	66	55	65	52	51	46
前置胎盤	28	20	14	21	16	21	10	15	9	14
産後出血（※3）	23	12	24	10	21	-	18	12	-	-
子癇	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	142	91	108	78	93	131
常位胎盤早期剥離	11	9	15	10	18	12	16	11	11	5
HELLP症候群	8	4	6	4	-	5	5	3	3	4

次ページへ続く

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
低置胎盤	12	15	12	6	13	19	5	13	3	12
血液型不適合	20	27	11	12	18	13	1	10	5	3
羊水過多	11	8	8	7	7	7	6	14	15	11
羊水過少	6	9	14	9	7	7	9	11	12	16
先天異常	53	25	28	-	36	20	35	55	47	33
その他	-	-	-	-	-	-	261	88	90	77

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

産科手術の内訳に大きな差はなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	15	11	8	14	12	12	26	24	19	14
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	1	1	3	-	-	-	-	8	6
産道血腫除去術	1	5	8	1	-	-	8	4	4	5
子宮動脈塞栓術	6	8	5	3	1	8	5	5	3	7
子宮摘出術	-	3	4	4	2	1	-	1	-	1
胎児胸腹水穿刺	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
羊水除去	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2

10 輸血治療症例（例）

前年と同程度の同種血輸血数であった。自己血輸血は含まない。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	19	20	22	9	9	23	11	16	17	17

11 NICU 収容症例（例）

COVID-19 診療体制の影響もあり症例数は減少した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
NICU収容症例数	111	147	131	160	195	377	401	426	358	297

12 多胎妊娠（例）

双胎症例数は例年通りであった。三胎が2例あった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	43	75	56	50	66	55	64	50	51	44
うちMD（※1）	15	24	19	37	20	22	44	38	16	17
うちDD（※2）	28	51	37	11	45	33	20	12	33	26
うちMM（※3）	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
うち不明	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
三胎	-	1	-	1	1	2	1	2	-	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎／※3 一絨毛膜一羊膜双胎

13 母体搬送収容数（例）

母体搬送収容数は2017年以降大きな変動がなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
母体搬送収容数	157	156	107	125	106	127	130	123	132	124

1 4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

母体搬送疾患の内訳については、例年と同様であった。

胎児発育不全は外来紹介例が多く、妊娠高血圧腎症の診断基準に含まれるようになったこともあり、母体搬送理由としてはほぼなくなった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	77	87	49	56	44	62	59	74	65	62
妊娠高血圧症候群	22	13	7	10	5	9	14	19	21	19
胎児発育不全	15	7	1	3	3	-	-	-	1	1
産後出血	15	6	16	12	12	20	16	10	14	13
胎児機能不全	15	8	2	1	4	3	4	4	7	6
常位胎盤早期剥離	9	11	8	8	7	3	4	6	11	5
前置胎盤	7	5	2	5	1	7	-	2	1	1
多胎	2	11	2	4	1	-	-	1	1	1
HELLP症候群	6	3	4	3	1	2	2	4	3	1
胎児形態異常	1	-	3	1	1	2	3	-	1	2
未受診	-	-	-	-	-	-	2	2	1	1
その他	13	61	13	22	30	17	25	22	11	8

※1 入院のみ／※2 早産期

1 5 先天異常（例、重複あり）

先天異常の内訳に大きな変化はなかった。

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
cystic hygroma	4	4	1	1	4	4	6	6	3	3	1	1	2	2	3	3	2	2	-	-
18トリソミー	3	2	3	2	-	-	3	3	4	3	1	1	3	1	2	2	3	3	3	1
髄膜瘤	2	2	1	1	-	-	3	2	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1
21トリソミー	6	3	4	-	7	5	3	1	4	2	3	3	1	-	9	6	2	1	7	3
手指異常（合指／多指）	-	-	2	-	1	-	3	-	2	-	-	-	1	-	6	-	2	1	6	-
脳室拡大	2	2	5	5	6	6	2	2	2	2	-	-	3	3	1	1	-	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	1	1	-	-	1	1	2	2	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1
心室中隔欠損	3	1	1	1	2	1	2	1	5	2	1	1	4	4	5	3	14	14	7	3
仙尾部奇形腫	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
胎児水腫	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-
骨系統性疾患	1	1	3	2	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-	-	-
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	-	-	1	1
無頭蓋症	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
尿道下裂	-	-	2	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1
口唇裂・口蓋裂	3	2	3	2	1	1	-	-	5	5	-	-	8	8	4	4	5	2	9	7
不整脈	3	3	4	4	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
胸腹水	3	3	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	1	1	-	-
無脳症	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	2	-	-
水腎症	2	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	1	1	-	-
両大血管右室起始	2	2	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	2	2	3	3	1	1
大血管転位	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鎖肛	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
心臓腫瘍	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1	1	1	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Dandy-Walker奇形	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大脳半球間裂嚢胞	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1
脳瘤	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
気管軟化症	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
尿道閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Treacher-Collins症候群	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全前脳症	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総排泄腔遺残	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腹壁破裂	-	-	1	1	2	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
筋ジストロフィー	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
染色体微小欠失	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
片腎欠損	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
Potter sequence	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-
脳梗塞	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
尿膜管遺残	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無眼球症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳梁欠損	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
大動脈離断症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大動脈縮窄	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	2
硬膜下血腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
血管腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳腫瘍	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳出血	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
頭皮欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
左心低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	3	3	1	1
小脳低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	2	2	-	-

次ページへ続く

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
頭蓋内嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	2	1	1
Ebstein奇形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	1
腹部リンパ腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1
胎便性腹膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	1	1
内臓錯位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
胎児心不全疑い	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
肺動脈弁閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-
先天性魚鱗癬	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Beals症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Smith-Lemli-Opitz症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鰓弓症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
右側大動脈弓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	1	1	3	3
ヒルシュスプルング病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
13トリソミー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	1
body stalk anomaly	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
副耳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-
Kommerell憩室	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
内反足	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
動脈管瘤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-
血友病	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
上顎腫瘍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-
先天性歯門閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
肝嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

1 6 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

MFICU の入院患者数は前年と同様であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
院内症例	49	38	64	37	37	67	34	81	75	66
搬送症例	142	141	97	112	83	118	124	134	138	133
合計	191	179	161	149	120	185	158	215	213	199

1 7 MFICU 入院適応（例）

妊娠高血圧症候群の割合が増加した。

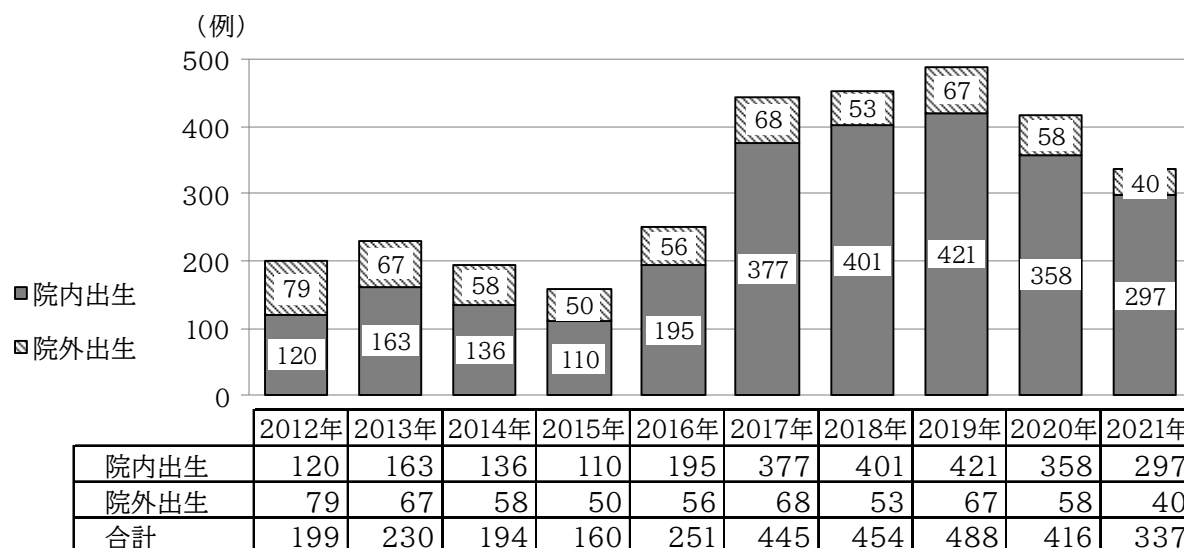
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（入院のみ）	82	89	66	63	56	78	69	88	83	73
妊娠高血圧症候群	31	24	16	14	21	26	22	38	25	47
産後出血	20	18	25	11	18	28	18	12	20	15
常位胎盤早期剥離	8	11	13	11	9	6	12	6	8	6
胎児発育不全（胎内診断のみ）	19	12	2	8	10	5	9	1	5	1
前置胎盤	11	13	8	10	8	16	2	12	7	6
双胎	4	15	10	6	8	6	10	5	14	8
HELLP症候群	8	4	4	4	3	4	4	3	2	3
先天異常	3	5	6	2	3	1	8	4	2	1
肺水腫	3	3	-	-	2	1	0	1	1	1
合併症妊娠	36	18	5	6	5	7	20	29	25	9
その他	3	3	-	17	12	14	8	16	21	29

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

本年の総入院数は 337 例（再入院 7 例を除く）で、院内出生は 297 例、院外出生は 40 例であった。

前年に続き、COVID-19 拡大による分娩数の減少に伴い、入院数もさらに減少した。



2 主病名 (例)

総入院数は減少しているが、超低出生体重児や心臓外科疾患、人工呼吸管理が必要な児の入院は例年と同程度入院している。また染色体異常や形態異常を伴う児の入院が増加している。出生体重 1,800～2,300g の新生児、黄疸の光線治療、低血糖や哺乳不良などの点滴治療、母体精神疾患や内分泌異常の母体から出生した児のモニタリング目的などの児は GCU で入院管理を行っている。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
脳・神経疾患	6	12	8	11	5
脳梗塞	-	1	-	-	-
髄膜瘤	-	1	-	-	-
帽状腱膜下血腫	-	3	2	-	-
新生児痙攣	2	5	2	1	1
硬膜下血腫	-	-	-	2	-
脊髄脂肪腫	-	-	-	1	-
てんかん	-	1	-	-	-
脳梁欠損症	-	1	-	2	-
水頭症	2	-	-	-	-
脳嚢胞	1	-	-	-	-
頭蓋骨早期癒合症	1	-	-	-	-
脊髄髄膜瘤	-	-	1	-	1
頭蓋内出血（尾状核出血）	-	-	1	-	2
先天性水頭症	-	-	2	1	1
アペール症候群	-	-	-	1	-
仙骨部皮膚陥凹	-	-	-	1	-
頭蓋骨骨折	-	-	-	1	-
分娩時外傷性脳内出血	-	-	-	1	-
代謝内分泌	37	25	13	18	15
低血糖	21	18	11	11	4
先天性甲状腺機能低下症	9	1	-	-	-
新生児一過性甲状腺機能亢進症	7	3	1	6	9
ホモシチン尿症	-	1	-	-	-
プロピオン酸血症	-	1	-	-	1
遠位尿管管性アシドーシス	-	1	-	-	1
代謝性アシドーシス	-	-	-	1	-
Smith-Lemli-Opitz 症候群	-	-	1	-	-

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
呼吸器疾患	61	53	74	55	52
新生児一過性多呼吸	44	37	49	26	28
呼吸窮迫症候群	2	1	1	-	1
胎便吸引症候群	1	1	11	8	5
新生児無呼吸発作	6	8	7	11	4
気胸	5	3	4	4	12
喉頭軟化症	-	-	2	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	1	-	-	-	-
披裂部喉頭軟化症、気管軟化症	1	-	-	-	-
誤嚥性肺炎	1	-	-	-	-
胸水	-	1	-	-	-
先天性肺気道形態異常	-	1	-	-	-
気管軟化症	-	-	-	3	-
横隔膜弛緩症	-	-	-	1	-
肺低形成	-	-	-	1	1
鼻腔狭窄	-	-	-	1	-
肺毛細管形成異常	-	-	-	-	1
先天性嚢胞性腺腫性形態異常	-	1	-	-	-
感染症	12	8	16	17	9
新生児感染症	10	7	13	14	8
新生児TSS様発疹症	-	-	1	-	-
先天性サイトメガロウイルス感染症	2	1	-	-	-
先天性トキソプラズマ感染症	-	-	1	-	1
GBS感染症	-	-	-	1	-
敗血症	-	-	-	1	-
左肩関節炎	-	-	-	1	-
水痘疑い	-	-	1	-	-

次ページへ続く

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
染色体異常	形態異常症候群	17	19	12	26	36
内 訳	ダウン症候群	7	11	3	9	7
	18トリソミー	3	4	2	3	3
	13トリソミー	-	-	1	-	2
	口唇口蓋裂	1	-	2	1	6
	上顎体	-	-	1	-	-
	先天性魚鱗癬症候群	-	-	1	-	-
	Beals症候群	-	-	1	-	-
	ブラダーウィリ症候群	-	-	-	1	-
	VACTERL連合	1	-	-	-	-
	尿道下裂	-	-	-	1	1
	多嚢胞性異形成腎	1	-	-	-	-
	仙尾部形態異常腫	1	-	-	-	-
	タナトフォリック骨異形成症	1	-	-	-	-
	小顎症	1	-	-	-	-
	重複膈	1	-	-	-	-
	先天性頭皮欠損	-	1	-	-	-
	頸部嚢胞	-	1	-	-	-
	反張膝	-	1	1	-	-
	筋強直性ジストロフィー	-	-	-	2	-
	先天性白内障	-	-	-	2	1
	低ホスファターゼ血症	-	-	-	1	-
	先天性ネフローゼ症候群	-	-	-	1	-
	膀胱尿管移行部狭窄	-	-	-	1	-
	顎下腺内嚢胞	-	-	-	1	-
	舌根部腫瘍	-	-	-	1	-
	膈前庭部腫瘍	-	-	-	1	-
	重複腎盂	-	-	-	1	-
	染色体異常	-	-	-	-	2
	Body stalk anomaly	-	-	-	-	1
	Goldenhar syndrome	-	-	-	-	1
	VETER症候群	-	-	-	-	1
	XXY症候群	-	-	-	-	1
	コルネリア・デランゲ症候群	-	-	-	-	1
	胸郭形成不全	-	-	-	-	1
	結節性硬化症	-	-	-	-	1
	内臓逆位	-	-	-	-	1
	皮下リンパ管腫	-	-	-	-	1
	多嚢胞性腎症	-	-	-	-	1
	水腎症	-	-	-	-	1
	卵巣のう腫	-	-	-	-	1
	皮膚洞	-	-	-	-	1
	腹腔内リンパ管腫	-	-	-	-	1
	多嚢胞性腎異形成	-	1	-	-	-
消化管疾患		9	11	23	24	8
内 訳	新生児嘔吐症	2	1	5	12	-
	哺乳不良	1	2	6	1	1
	腸回転異常症	-	-	1	-	-
	鎖肛	1	1	-	3	2
	腸管拡張	-	-	1	-	-
	肝嚢胞	-	-	1	-	-
	新生児メレナ	-	1	-	-	1
	腹壁破裂	-	-	-	1	-
	臍帯ヘルニア	1	-	-	-	1
	胃軸捻転	-	-	1	-	-
	急性胃粘膜病変	1	2	-	-	-
	小腸十二指腸閉鎖	-	-	-	2	-
	小腸閉鎖	1	1	2	-	-
	十二指腸狭窄症	-	-	1	-	-
	結腸閉鎖	1	-	-	-	-
	小腸軸捻転	-	1	-	-	-
	先天性横隔膜ヘルニア	-	1	2	-	1
	先天性胆道拡張症	-	1	-	-	-
	先天性食道閉鎖	-	-	1	1	-
	胃食道逆流	1	-	-	-	-
	腸閉塞	-	-	-	1	-
	肥厚性幽門狭窄症	-	-	-	1	-
	壊死性腸炎	-	-	-	1	-
	ヒルシウスブルング病	-	-	2	1	-
	ミルクアレルギー	-	-	-	-	2

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
心・循環器疾患		21	18	18	37	36
内 訳	動脈管開存症	4	-	-	-	-
	左心低形成	-	1	-	2	2
	不整脈	6	1	2	1	2
	大動脈縮窄症	1	1	1	-	2
	大動脈離断	1	-	-	-	-
	右大動脈弓	1	-	2	-	2
	Fallot四徴症	1	-	2	2	2
	心室中隔欠損症	2	1	2	14	8
	先天性動脈管開存症	-	-	-	1	1
	総動脈管症	1	-	-	-	-
	総肺静脈還流異常症	-	1	-	2	2
	両大血管右室起始	-	2	-	1	2
	完全大血管転位	2	3	1	-	3
	Ebstein形態異常	-	1	-	-	-
	肺動脈閉鎖	-	1	1	3	-
	肺動脈弁狭窄症	-	-	1	-	1
	末梢性チアノーゼ	-	-	1	-	-
	重複大動脈弓	-	1	-	-	-
	修正大血管転位	-	1	-	-	-
	動脈管瘤	-	-	3	2	2
	先天性心疾患の疑い	-	1	-	-	-
	房室中隔欠損症	-	1	-	1	2
	動脈管早期閉鎖	-	1	-	-	-
	新生児遷延性肺高血圧	-	-	1	-	1
	左肺動脈欠損	-	-	1	-	-
	肺高血圧症	-	1	-	-	-
	心房中隔欠損症	-	-	-	1	1
	大動脈弓離断	-	-	-	1	-
	動脈管蛇行	-	-	-	1	-
	左室型単心室症	-	-	-	1	-
	左上大静脈遺残	-	-	-	1	-
	僧帽弁閉鎖症	-	-	-	1	-
	三尖弁異形成	-	-	-	1	-
	静脈管開存	-	-	-	1	-
	三尖弁閉鎖	-	-	-	-	2
	単心室症	-	-	-	-	1
	その他	2	-	-	-	-
その他		277	302	324	321	259
内 訳	低出生体重児 (1,500-2,499g)	126	122	128	166	142
	極低出生体重児 (1,000-1,499g)	21	18	12	27	9
	超低出生体重児 (<1,000g)	18	22	15	15	18
	早産児	7	7	6	6	5
	新生児仮死	7	8	15	14	10
	sleeping baby	-	-	3	-	-
	新生児高ビリルビン血症	70	89	107	50	35
	リンパ管腫	1	-	-	-	-
	ランゲルハンス細胞組織球症	1	-	-	-	-
	血友病A	-	-	-	-	1
	多血症	4	2	1	5	2
	ABO血液型不適合	-	2	2	1	2
	Rh不適合	-	-	1	-	-
	その他の血液型不適合	-	-	1	-	-
	左耳出血	1	-	-	-	-
	新生児薬物離脱症候群	18	24	27	29	27
	墜落分娩	3	5	3	3	-
	遺伝性球状赤血球症	-	1	-	-	1
	卵巣出血	-	1	-	-	-
	両下鼻甲粘膜腫脹	-	-	1	-	-
	未熟網膜症	-	-	1	1	-
	分娩麻痺疑い	-	-	1	-	-
	母児間輸血症候群	-	-	-	2	-
	胎児水腫	-	-	-	1	1
	上腕骨折	-	-	-	1	-
	未受診妊婦から出生した児	-	-	-	-	2
	双胎児間輸血症候群	-	-	-	-	2
	プロテインC欠乏症	-	-	-	-	1
	Gilbert 症候群	-	-	-	-	1
	卵巣嚢腫	-	1	-	-	-

3 出生週数（例）

総入院数は減少したが、28 週未満の超早産児の入院数は例年と同程度であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
22週	-	-	2	1	3	1	1	1	-	-
23週	3	3	2	1	2	2	-	-	1	5
24週	-	3	4	6	3	3	2	3	1	1
25週	2	4	3	1	2	2	2	1	3	4
26週	-	2	5	1	3	6	4	1	2	1
27週	5	2	4	3	2	5	7	5	3	2
28週	5	6	6	7	5	1	3	-	5	3
29週	7	5	4	2	6	-	5	3	5	5
30週	3	7	3	4	5	5	10	7	10	4
31週	6	5	8	6	7	13	6	3	4	3
32週	9	18	8	8	10	16	8	8	13	9
33週	15	27	15	10	8	11	13	14	13	9
34週	24	28	8	11	22	24	19	32	26	13
35週	9	17	13	14	12	32	35	40	37	46
36週	18	14	15	13	20	39	38	46	34	29
37週以上	93	84	89	70	135	280	292	323	259	202
不明	-	-	-	-	-	-	3	1	-	1

（※2019年不明 1 例は、未受診妊婦のため週数不明）

4 出生時体重（例）

1, 500g 以上の児の入院数は減少したが、1, 000g 未満の超低出生体重児の入院数は例年と同程度入院していた。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500g未満	3	-	5	1	3	3	3	2	-	2
500-749g	4	10	9	10	8	9	7	2	7	11
750-999g	10	13	8	9	9	6	11	13	8	5
1,000-1,249g	9	12	7	3	9	7	6	5	13	4
1,250-1,499g	10	16	16	10	15	15	13	8	14	5
1,500-1,749g	18	21	14	14	14	20	15	18	16	19
1,750-1,999g	23	33	14	18	26	34	42	35	31	29
2,000-2,249g	18	21	10	16	24	53	55	57	67	50
2,250-2,499g	22	26	21	15	31	53	53	50	52	44
2,500g以上	82	73	85	62	106	240	243	298	208	168

5 人工呼吸器管理（例）

総入院数は減少したが、人工呼吸管理症例数は 96 例と多く、人工呼吸の割合も増加した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
入院数（例）	214	239	216	225	203	177	272	280	275	344
人工呼吸器管理症例数（例）	80	86	66	84	67	63	60	54	61	96
人工呼吸器管理症例率（％）	37	36	31	37	33	36	22	19.3	22.2	27.9

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

手術症例は 30 例で、心臓血管外科が 13 件と一番多かった。

出生体重	出生週数	疾患名	術式
500-749g	23週	超低出生体重児	腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術
	23週	超低出生体重児	レーザー光凝固術
	23週	超低出生体重児 脳室内出血	穿頭脳室ドレナージ術 レーザー光凝固術 抗VEGF薬硝子体内注射
	25週	超低出生体重児	動脈管開存症手術 レーザー光凝固術
750-999g	28週	超低出生体重児	レーザー光凝固術
1,000-1,249g	26週	極低出生体重児 小腸穿孔	小腸切除術…人工肛門造設術 人工肛門閉鎖
1,750-1,999g	35週	コルネリア・デランゲ症候群小顎症 低出生体重児 四肢拘縮 口蓋裂	気管切開術
	32週	低出生体重児 頭蓋内出血	穿頭脳室ドレナージ術

次ページへ続く

出生体重	出生週数	疾患名	術式
2,000-2,249g	34週	完全型房室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
	35週	心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
	37週	鎖肛 左上肢奇形	人工肛門造設術
2,250-2,499g	37週	先天性横隔膜弛緩	腹腔鏡下横隔膜縫合術
2,500-2,749g	38週	鎖肛・肺高血圧症	人工肛門造設術
	37週	脳髄膜瘤	脳・脳膜剥手術
2,750-2,999g	39週	完全大血管転位症	大血管転位修復術（Jatene手術）
3,000-3,249g	41週	ファロー四徴症 気胸	ブロック手術・動脈形成術
	38週	動脈管開存症 口唇口蓋裂	動脈管結紮術
	37週	ダウン症 心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
	40週	大動脈縮窄症	肺動脈絞扼術
3,250-3,499g	38週	総肺静脈還流異常症	総肺静脈還流異常症手術
	38週	Fallot四徴症	体・肺動脈短絡手術
	38週	左心低形成症候群	左心低形成症候群手術
3,500-3,749g	40週	新生児脳室内出血	穿頭脳室ドレナージ術 脳室腹腔内シヤント術
	40週	完全大血管転換症Ⅰ型	完全大血管転位修復術
3,750-3,999g	38週	心臓型総肺静脈還流異常症	心臓型総肺静脈還流異常症手術

7 血液浄化症例

血液浄化症例は重症黄疸による全血交換輸血が1例、多血症による部分交換輸血が1例であった。

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
1,750-1,999g	38週	黄疸	全血交換輸血
2,500-2,749g	36週	多血症	部分交換輸血

8 出生週数別の日齢28日以後の生存率（%）

	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）
22週	-（-／-）	100.0（1／1）	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）
23週	100.0（2／2）	-（-／-）	-（-／-）	100.0（1／1）	100.0（5／5）
24週	100.0（3／3）	100.0（2／2）	100.0（3／3）	100.0（1／1）	100.0（1／1）
25週	100.0（2／2）	100.0（2／2）	100.0（1／1）	66.7（2／3）	75.0（3／4）
26週	100.0（6／6）	75.0（3／4）	100.0（1／1）	100.0（2／2）	100.0（1／1）
27週	80.0（4／5）	100.0（7／7）	100.0（5／5）	100.0（3／3）	100.0（2／2）
28週	100.0（1／1）	100.0（3／3）	-（-／-）	80.0（4／5）	100.0（3／3）
29週	-（-／-）	100.0（5／5）	100.0（3／3）	100.0（5／5）	100.0（5／5）
30週	100.0（5／5）	100.0（10／10）	100.0（7／7）	90.0（9／10）	100.0（4／4）
31週	100.0（13／13）	100.0（6／6）	100.0（3／3）	75.0（3／4）	100.0（3／3）
32週	93.8（15／16）	87.5（7／8）	100.0（8／8）	100.0（13／13）	100.0（9／9）
33週	100.0（11／11）	100.0（13／13）	100.0（14／14）	100.0（13／13）	100.0（9／9）
34週	100.0（24／24）	100.0（19／19）	96.9（31／32）	100.0（26／26）	100.0（13／13）
35週	100.0（32／32）	100.0（35／35）	100.0（40／40）	100.0（37／37）	97.8（45／46）
36週	100.0（39／39）	97.4（37／38）	100.0（46／46）	100.0（34／34）	100.0（29／29）
37週以上	99.6（279／280）	100.0（292／292）	100.0（323／323）	99.6（258／259）	99.5（201／202）
不明	-（-／-）	-（-／-）	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率（%）

在胎25週、出生体重500g未満の1例の死亡があったほか、2例は肺低形成の症例であった。

	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）
500g未満	66.7（2／3）	66.7（2／3）	100.0（2／2）	-（-／-）	50.0（1／2）
500-749g	88.9（8／9）	100.0（7／7）	100.0（2／2）	100.0（7／7）	100.0（11／11）
750-999g	100.0（6／6）	100.0（11／11）	100.0（13／13）	75.0（6／8）	100.0（5／5）
1,000-1,249g	100.0（7／7）	100.0（6／6）	100.0（5／5）	100.0（13／13）	100.0（4／4）
1,250-1,499g	93.3（14／15）	100.0（13／13）	100.0（8／8）	100.0（14／14）	100.0（5／5）
1,500-1,749g	100.0（20／20）	100.0（15／15）	100.0（18／18）	93.8（15／16）	94.7（18／19）
1,750-1,999g	100.0（34／34）	100.0（42／42）	100.0（35／35）	100.0（31／31）	100.0（29／29）
2,000-2,249g	100.0（53／53）	100.0（55／55）	98.2（56／57）	100.0（67／67）	100.0（50／50）
2,250-2,499g	98.1（52／53）	100.0（53／53）	100.0（50／50）	100.0（52／52）	100.0（44／44）
2,500g以上	100.0（240／240）	99.2（241／243）	100.0（298／298）	99.0（206／208）	99.4（167／168）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	-	2	2	3	4	4	3	1	4	2
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	-	3	1	1	1	-	-	-	1	1

11 死亡例一覧

出生体重	出生週数	死亡日齢	病名
500g未満	25週	8-28日	超低出生体重児
1,500-1,749g	35週	0-7日	body stalk anomaly（腹壁破裂） 新生児遷延性肺高血圧
2,000-2,249g	38週	29日以降	18トリソミー
2,250-2,499g	37週	0-7日	肺低形成
2,500-2,749g	38週	29日以降	肺胞毛細管異形成 鎖肛

12 新生児搬送収容数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
新生児搬送収容数	65	57	48	45	40	51	48	64	53	39

13 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
呼吸器疾患	25	17	24	10	10
内 呼吸障害	25	10	-	10	10
内 新生児一過性多呼吸	-	-	22	-	-
内 新生児無呼吸発作	-	6	2	-	-
内 新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	1	-	-	-
心・循環器疾患	11	12	6	8	10
内 先天性心疾患	1	8	6	6	10
内 心雑音	-	1	-	1	-
内 心形態異常	1	-	-	-	-
内 心形態異常疑い	1	-	-	-	-
内 不整脈	1	-	-	1	-
内 動脈管開存症	5	1	-	-	-
内 総肺静脈環流異常	1	-	-	-	-
内 肺高血圧症	-	1	-	-	-
内 上室性頻拍	1	1	-	-	-
消化管疾患	5	1	14	8	3
内 新生児嘔吐症	-	-	7	2	2
内 血便	-	-	-	-	1
内 鎖肛	1	1	-	3	-
内 腹部膨満	1	-	-	1	-
内 腹部腫瘤	2	-	-	-	-
内 哺乳不良	-	-	7	2	-
内 血性嘔吐	1	-	-	-	-
脳・神経疾患	1	7	2	3	-
内 けいれん発作	-	6	2	2	-
内 帽状腱膜下血腫	-	1	-	-	-
内 脳梗塞	1	-	-	-	-
内 脊椎脂肪腫	-	-	-	1	-

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
染色体異常 形態異常症候群	3	5	1	1	6
内 ダウン症	2	-	-	-	-
内 染色体異常	-	5	1	1	6
内 口唇口蓋裂	1	-	-	-	-
感染症	3	4	7	8	3
内 感染症	2	3	7	8	3
内 先天性サイトメガロウイルス感染症	-	1	-	-	-
内 梅毒疑い	1	-	-	-	-
その他	11	9	21	16	7
内 低出生体重児	-	2	2	2	4
内 超低出生体重児	-	-	1	1	-
内 未熟児網膜症	-	-	1	1	-
内 新生児仮死	3	4	4	3	1
内 黄疸	-	2	3	3	-
内 チアノーゼ	3	-	1	1	-
内 多血	1	-	-	-	-
内 上腕骨折	1	-	-	-	-
内 骨折	-	-	2	-	-
内 関節拘縮	-	-	1	-	-
内 帽状腱膜下血腫	-	-	1	-	-
内 分娩麻痺の疑い	-	-	1	1	-
内 耳出血	1	-	-	-	-
内 低血糖	-	-	-	-	1
内 皮疹	1	-	-	-	-
内 墜落産	1	-	3	1	-
内 反張膝	-	1	1	-	-
内 口唇口蓋裂	-	-	-	-	1
内 早産（出生体重2500g以上）	-	-	-	1	-
内 頭蓋骨骨折	-	-	-	1	-
内 陰部腫瘤	-	-	-	1	-

第3節 奈良県総合医療センター

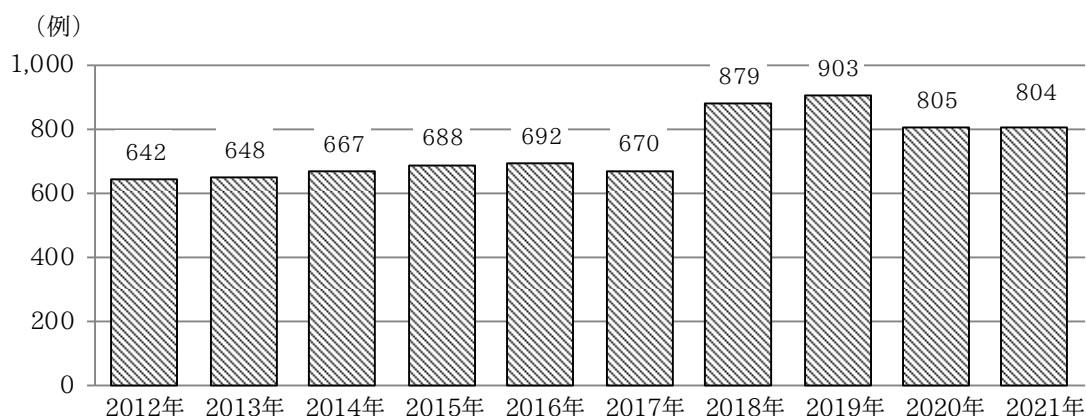
第1項 産科部門診療実績

1 入院数

入院患者数は2018年5月の新センター移転後に急増した。

前年に入院数も分娩数も減少し、COVID-19拡大によるものと推測された。本年は前年とほぼ同じ入院数と分娩数で推移している。

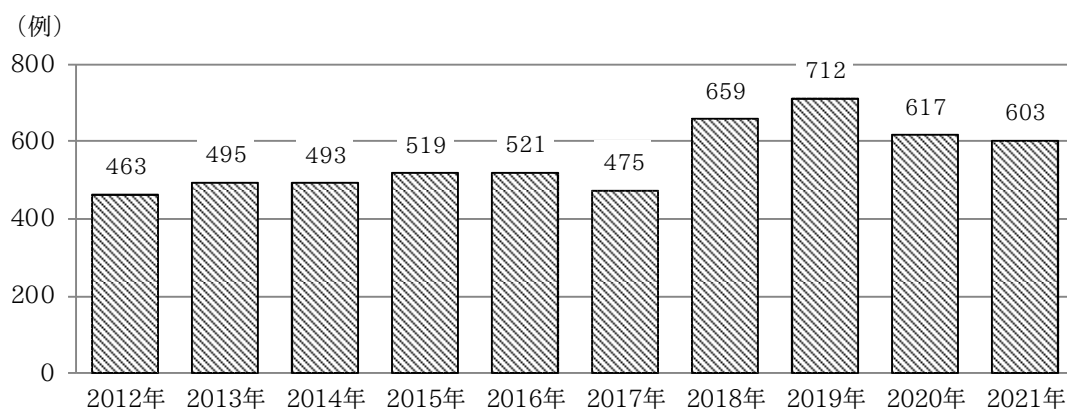
切迫早産などの診断で当センターへ母体搬送された症例は、搬送元での受け入れが可能となる週数まで入院管理ができた場合、患者の希望も考慮し、逆紹介により紹介元での分娩も積極的に勧めている。



2 分娩数

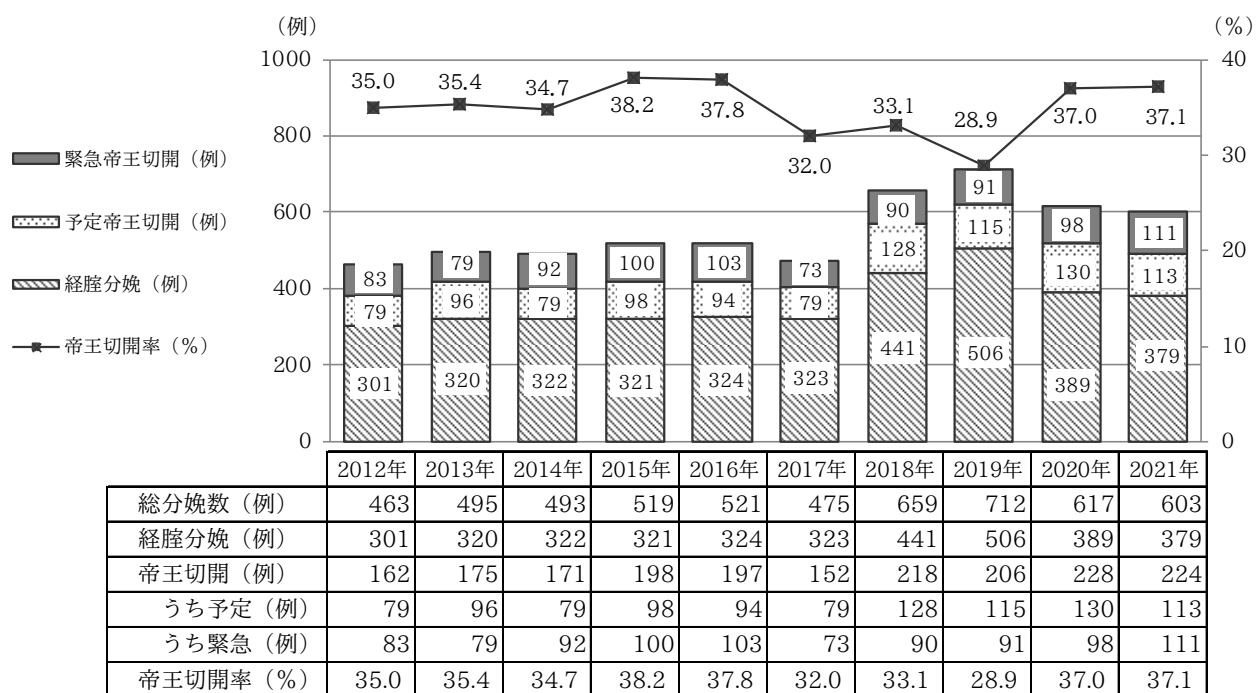
地域周産期母子医療センターとしての役割を考慮し、緊急症例やハイリスク患者への対応能力を維持する目的で分娩制限を設けている。COVID-19拡大に伴い、前年から分娩数は減少し、前年と本年はほぼ横ばいで推移している。

施設の役割に応じた患者への医療提供を考慮し、ハイリスク妊婦の状態改善や妊娠36週以降までの維持管理が達成された場合、紹介元への逆紹介を積極的に行っている。



3 分娩様式

当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は反復帝王切開としている。ハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いてきたため帝王切開率は35%前後で経過していたが、2019年はローリスク妊婦が多い西和医療センターとの統合に伴い、帝王切開率は29%と低下した。前年より37%に増加し、ローリスク妊婦の帰省分娩の減少や40歳以上の妊婦の割合が高かったことなどが影響した可能性がある。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降かつ児推定体重1,000g以上を、奈良医大ではそれ以前や胎児形態異常などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、県内2施設のみの周産期母子医療センターの役割分担を明確化した。その結果28週未満の分娩はほとんどなくなり、NICUの適切な病床運用が可能となった。妊娠38週がピークとなり、児の未熟性を考慮した分娩時期の設定が行われていると推測される。さらに過期産を回避する方針で妊娠管理基準を修正し、2015年以降の過期産はほぼゼロとなった。2017年の1件は未受診妊婦の飛び込み分娩であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
24週	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
25週	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-
28週	2	2	2	4	2	3	1	3	1	2
29週	4	2	2	1	1	-	3	4	1	-
30週	5	6	4	4	5	2	8	2	4	5
31週	5	7	4	8	7	8	9	7	2	3
32週	4	11	10	10	12	4	5	7	4	8
33週	9	9	11	14	18	15	11	9	9	12
34週	18	18	22	21	24	21	24	25	25	22
35週	20	17	28	28	32	26	39	22	29	30
36週	23	29	23	43	40	24	35	30	37	34
37週	65	101	111	114	125	107	115	122	119	112

次ページへ続く

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
38週	108	91	73	101	96	96	159	168	146	136
39週	98	86	116	81	101	90	120	139	114	129
40週	67	85	86	83	69	76	122	152	114	112
41週	32	29	27	32	23	19	48	51	46	37
42週以上	2	2	6	-	-	1	-	-	-	-
不明	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1,000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることと取り決めた結果から、出生体重1,000g未満の分娩は年間数例で推移しており、本年は0例であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500-999g	2	2	3	2	3	-	1	1	1	-
1,000-1,499g	15	15	14	15	11	15	17	15	12	8
1,500-1,999g	34	25	43	44	58	35	39	37	33	45
2,000-2,499g	79	87	91	110	114	87	120	99	99	102
2,500g以上	331	394	377	374	370	355	522	590	506	487
不明	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

6 出産時年齢（例）

本年の分娩妊婦603例のうち35歳以上は271例（44.9%）、40歳以上は79例（13.1%）であった。全国統計より35歳以上の妊婦の割合が高く、地域周産期母子医療センターとして高年妊娠を多く受け入れている。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	285	281	273	305	303	280	379	428	345	332
35-39歳	144	158	165	163	151	141	209	217	178	192
40-44歳	32	55	52	50	63	47	70	62	88	77
45歳以上	2	1	3	1	4	3	1	5	6	2

7 合併症妊娠（例）

例年とほぼ同様の傾向である。糖尿病妊婦（含GDM）は増加し過去最高の59例を取り扱った。その他は、中枢神経系疾患や子宮腺筋症、子宮鏡下術後妊娠後などの合併妊娠を管理している。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	-	36	33	29	42	32	53	34	34	42
子宮筋腫（核出術後）	13	-	10	14	16	8	18	14	17	14
卵巣嚢腫（腫瘍）	2	4	5	9	5	6	8	12	15	10
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	3	8	10	9	4	14	16	15	10
子宮形態異常	4	4	1	6	1	2	6	3	7	5
甲状腺機能亢進症	2	8	9	6	12	8	15	9	8	7
甲状腺機能低下症	1	7	10	9	14	28	23	25	29	30
糖尿病（含GDM）	11	20	27	27	29	32	43	50	35	59
喘息	3	-	-	11	9	10	13	12	13	19
慢性腎炎	-	3	2	4	-	4	3	4	2	3
本態性高血圧	1	1	7	4	5	2	5	7	4	4
ITP	-	-	-	-	-	-	4	2	2	-
自己免疫疾患	1	8	12	2	5	2	7	4	6	2
循環器疾患	1	3	2	7	-	8	4	-	2	10
精神科疾患（含てんかん）	4	14	33	24	20	34	36	41	29	33
ウイルス性肝炎（※1）	-	1	2	7	-	2	-	-	2	1
消化器疾患（※2）	-	2	4	4	8	2	4	3	1	6
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	34	35

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症は切迫早産や前期破水が多くを占めている。妊娠高血圧症候群は65例と過去最高であった。前置胎盤、常位胎盤早期剥離などの重篤な合併症の症例数は年ごとに多少の増減はあるものの傾向的ではない。

その他は癒着胎盤（14例）、入院を要した重症妊娠悪阻症例（8例）、切迫流産（6例）などが含まれる。

当センターでは新生児外科疾患への対応は困難であるため、消化器疾患や先天性心形態異常などが疑われた場合は奈良医大などに紹介している。従って当センターで分娩まで管理した先天異常の症例数は少ない。なお、産科合併症の集計数は当センターで分娩に至った症例のみに基づく結果であり、当センターで入院管理後に紹介元医療機関へ逆紹介した症例や、他院へ紹介・転送した症例や産後の搬送症例は含まれていないことに留意されたい。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	111	219	147	168	189	140	182	149	130	126
妊娠高血圧症候群	35	21	42	58	57	36	37	50	39	65
胎児発育不全	5	13	14	35	39	28	35	35	33	35
多胎妊娠	31	30	36	34	41	24	44	37	38	42
前置胎盤	9	12	11	7	15	8	12	15	12	6
産後出血（※3）	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-
子癇	5	4	2	1	-	-	1	2	-	4
弛緩出血（※4）	97	282	136	56	62	50	21	188	82	81
常位胎盤早期剥離	11	4	8	8	7	6	5	5	8	7
HELLP症候群	3	1	-	1	2	1	1	2	3	6
低置胎盤	-	5	1	5	4	4	4	2	7	7
血液型不適合	-	6	4	6	8	8	9	10	9	5
羊水過多	-	-	1	-	2	2	3	6	4	5
羊水過少	-	2	3	7	3	2	3	6	10	7
先天異常	-	-	-	-	4	3	1	3	4	2
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	25	38

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

前年から周産期登録データベースに加えて、当センターで分娩管理を行わなかった妊娠中の手術症例や産後の母体搬送症例も含めた数で集計している。

子宮動脈塞栓術は院内発生1例、母体搬送2例であった。子宮摘出術は全例当センターで管理した癒着胎盤の症例であった。その他は、帝王切開術後の創部感染/創部離開に対する再開腹術1例とコンジローマ切除術3例であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	3	3	5	6	1	3	2	9	3	6
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	2	12	2	2	2	3	2	1	4	2
産道血腫除去術	1	-	1	-	3	-	2	1	-	-
子宮動脈塞栓術	2	2	4	3	-	-	-	-	7	3
子宮摘出術	-	1	1	-	-	1	-	-	4	3
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	6	4

10 輸血治療症例（例）

前年より産後の母体搬送症例も含めて集計している。

本年は県総合で分娩症例の5例に同種血輸血を要した。産後出血で母体搬送された症例の37.5%（6/16例）で同種血輸血を要し、前年より減少した。実地臨床研究会等で早めの搬送を依頼した結果であるとする。自己血輸血のみを返血した症例は3例であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	-	14	20	33	25	24	12	9	17	11

11 NICU 収容症例数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
NICU収容症例数	145	208	227	141	147	110	155	141	170	192

12 多胎妊娠（例）

本年の多胎妊娠は42例で、近年とおおむね変化はなかった。

三胎妊娠は早産リスクや早産となった場合のNICU占拠数と入院期間の問題から当センターでは取り扱っておらず、奈良医大に紹介としている。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	31	30	37	34	41	24	44	37	38	42
うちMD（※1）	11	11	16	10	18	9	20	18	17	15
うちDD（※2）	20	19	21	24	23	15	24	19	21	27

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

13 母体搬送収容数（例）

県南部からの母体搬送数の受入数が増加し、2018年は155例と県内搬送依頼数の過半数であったが、以降は減少している。母体搬送依頼があったが受け入れられなかった例は、本年は8件で、前年の11件より減少した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
母体搬送収容数	100	105	141	147	148	151	155	132	115	133

14 母体搬送疾患名（例、重複あり）

母体搬送の理由は切迫早産や前期破水が大半を占め、全体として例年とほぼ同様の傾向であった。前置胎盤症例が減少しているのは、早期に高次医療施設へ外来紹介をされているからであると考えられた。当センターへ母体搬送となった前置胎盤1例は奈良医大で入院管理中の症例であった。胎児形態異常は当センターNICUでの対応が困難であることから受入はおこなっていない。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	62	74	84	97	94	87	101	77	71	77
妊娠高血圧症候群	13	6	10	19	16	11	16	9	9	15
胎児発育不全	5	2	1	1	4	1	-	-	-	-
産後出血	8	2	20	8	11	17	6	14	12	16
胎児機能不全	4	1	2	2	3	9	3	-	2	4
常位胎盤早期剥離	5	5	5	3	3	2	4	5	4	5
前置胎盤	5	2	1	2	2	2	6	5	1	1
多胎	-	1	4	-	-	-	-	-	1	4
HELLP症候群	3	1	2	-	1	2	1	3	1	2
胎児形態異常	-	-	-	-	-	1	-	-	2	0
帝王切開合併症	-	-	-	-	-	2	-	-	5	6
未受診	-	-	-	-	-	2	-	2	1	1
その他	12	28	12	15	14	15	18	17	17	14

※1 入院のみ／※2 早産期

1 5 先天異常（例、重複あり）

本集計は分娩統計のデータから抽出しているため、当センターで分娩に至った症例のみに限定されている。流産域での診断や中絶に至った症例、外来管理のみ行った症例、外科疾患や心疾患など出生後に当センターでの対応が困難で他院紹介とした症例についてはすべて省かれていることに留意されたい。

疾患名	2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	-	2	-	-	2	1
心室中隔欠損	-	-	-	-	1	1
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	2	2	-
Treacher-Collins症候群	-	-	-	-	1	-
片腎欠損	-	-	-	-	1	-
獣皮様母斑	-	1	-	-	-	-
水腎症	1	1	-	-	-	-
potter症候群	1	1	-	-	-	-
ターナー症候群	1	1	-	-	-	-
Beckwith wiedmann症候群	1	1	1	1	-	-
21trisomy	-	1	-	-	-	-
骨系統疾患	1	1	-	-	-	-
外耳形成不全	-	-	1	-	-	-
肺高血圧症	-	-	-	-	1	-
総肺静脈還流異常	-	-	-	-	1	-

1 6 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

MFICU としての機能を備えた病室は周産期センター内に 3 床備えているが、現在、保険診療上の MFICU として稼働していない。現時点では、搬送直後の症例および重症であり周産期センターで管理すべき症例のほかにも、産科病棟が満床の場合の個室として使用する場合や帝王切開術後の回復病床として使用するなど流動的な扱いとなっている。

今回は、当該病床に入院した人数を集計し表記しているが、上記の通り、その患者数と重症度は必ずしも MFICU の適応に準じているわけではないことに留意されたい。

	2019年	2020年	2021年
院内症例	244	219	186
搬送症例	119	105	88
合計	363	324	274

1 7 MFICU 入院適応（例）

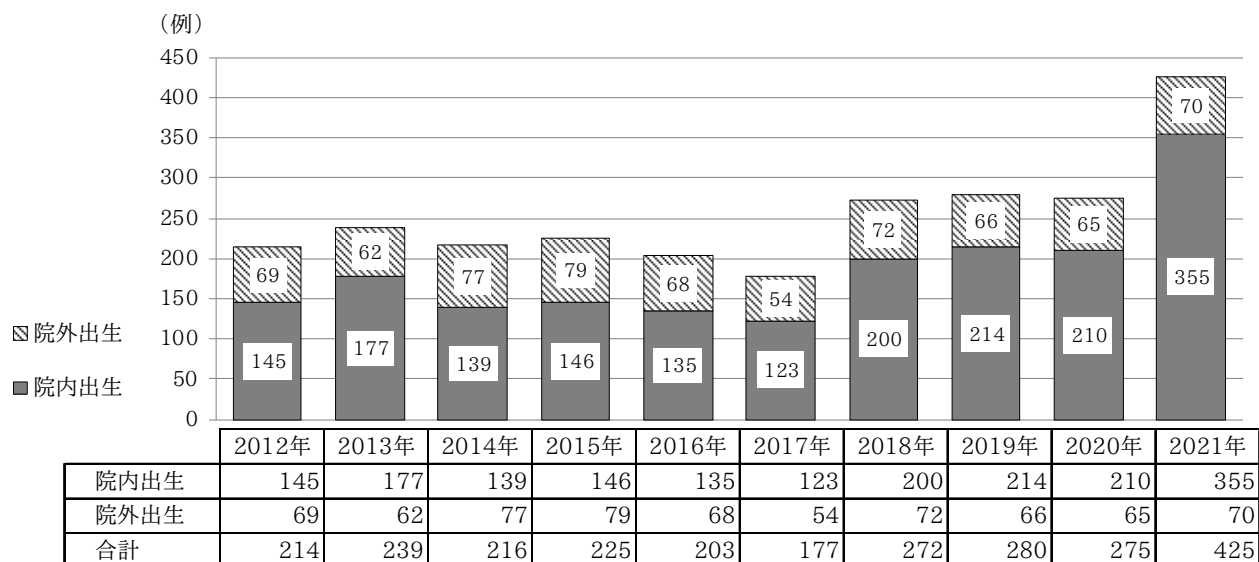
その他にあたる症例の多くは、初期・中期流産や中絶、帝王切開術後の回復病床として、および産科病棟の個室が満床であった場合に個室を希望する患者に対応するために入室させた例であった。

	2019年	2020年	2021年
切迫早産（入院のみ）	110	57	44
妊娠高血圧症候群	13	31	33
産後出血	12	9	9
常位胎盤早期剥離	3	4	5
胎児発育不全（胎内診断のみ）	5	3	1
前置胎盤	10	12	5
双胎	10	16	9
HELLP症候群	4	1	1
先天異常	7	-	-
肺水腫	-	-	-
合併症妊娠	7	1	4
その他	182	190	163

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

本年の総入院数は425例で、院内出生は355例、院外出生は70例（2例は他院からの転院）であった。なお、帝王切開後入院して一旦退院扱いとなり、後に黄疸等の別病名で入院となった児が重複して集計されている。



2 主病名 (例)

前年と同様比較的在胎週数の大きい児が多い。新生児一過性多呼吸が最も多く呼吸障害の重症度も比較的強いものが多かった。なお本年は、帝切児症候群は全例一旦GCU入院することとなったため、前年より大幅に増加した。

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
呼吸器疾患		74	100	91	183	181
内 訳	新生児呼吸障害	1	-	-	-	-
	新生児一過性多呼吸	52	74	63	124	125
	重症新生児無呼吸発作	-	-	6	-	-
	新生児無呼吸発作	6	12	1	11	14
	新生児呼吸窮迫症候群	11	5	11	26	22
	胎便吸引症候群	2	5	6	7	5
	喉頭軟化症（疑い含む）	-	-	1	1	1
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	1	-	8	6
	新生児慢性肺疾患	-	-	3	1	1
	新生児肺出血	2	-	-	3	5
	誤嚥性肺炎	-	2	-	1	-
	新生児肺炎	-	-	-	1	-
	縦隔気腫	-	1	-	-	1
	先天性嚢胞性疾患	-	-	-	-	1
心・循環器疾患		7	2	5	16	11
内 訳	新生児遷延性高血圧症	1	2	2	3	3
	動脈管開存症	3	-	-	6	1
	心室中隔欠損症	1	-	2	2	1
	心房中隔欠損症	-	-	-	2	-
	末梢肺動脈狭窄症	-	-	-	1	-
	Fallot四徴症	-	-	-	1	1
	肺高血圧症	-	-	-	-	1
	総肺動脈還流異常	1	-	-	1	-
	大動脈狭窄症の疑い	1	-	-	-	1
	先天性巨大動脈瘤	-	-	1	-	-
	房室中隔欠損症	-	-	-	-	1
	完全大血管転位	-	-	-	-	1
	頸部動静脈瘤	-	-	-	-	1
	染色体異常 奇形症候群	3	6	3	13	7
内 訳	18トリソミー	-	-	-	-	1
	21トリソミー（疑い含む）	2	4	1	7	1
	Prader-Willi症候群	-	-	-	1	-
	口唇口蓋裂・口蓋裂	-	-	1	3	1
	両側低形成腎	-	-	-	1	-
	気管支肺異形成症	-	-	-	-	1
	トリーチャ・コリンズ症候群	-	-	-	-	1
	メンケス病の疑い	1	-	-	-	-
	ベックウィズ・ヴィーデマン症候群	-	-	-	1	-
	1P36欠失症候群	-	1	-	-	-
	ルビンスティン・タイビー症候群	-	1	-	-	-
	頸部嚢胞性リンパ管腫	-	-	1	-	-
	フリーマン・シェルドン症候群	-	-	-	-	1
	COL4A1遺伝子異常	-	-	-	-	1
感染症		5	5	8	3	11
内 訳	重症感染症の疑い	-	-	-	-	-
	新生児感染症	2	2	4	1	3
	GBS感染症	-	1	-	-	1
	先天梅毒（疑い含む）	-	-	1	-	-
	新生児敗血症（疑いも含む）	3	-	1	-	1
	新生児膿瘍症・膿瘍疹	-	-	-	2	-
	細菌性髄膜炎	-	-	1	-	-
	B群溶連菌感染症	-	1	-	-	-
	グラム陰性桿菌敗血症	-	1	-	-	-
	新生児カンシダ症	-	-	1	-	-
	ヒトパレコウィルス感染症	-	-	-	-	1
	COVID-19感染妊婦から出生した児	-	-	-	-	4
	水痘疑い	-	-	-	-	1

次ページへ続く

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
消化管疾患		2	4	10	9	5
内 訳	新生児嘔吐	-	2	6	2	2
	哺乳障害	-	-	2	3	1
	肥厚性幽門狭窄症	-	-	-	1	-
	先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	1	-
	新生児血便	1	-	1	-	-
	ミルク消化管アレルギー	-	-	-	1	-
	胃軸捻症	1	-	-	-	-
	体重増加不良	-	1	1	-	1
	急性胃粘膜病変	-	1	-	1	-
	脾臓出血	-	-	-	-	1
脳・神経疾患		-	3	4	5	5
内 訳	新生児低酸素性虚血性脳症	-	1	2	4	1
	mendosal suture遺残	-	-	-	1	-
	新生児痙攣	-	2	1	-	3
	てんかんの疑い	-	-	1	-	-
代謝内分泌		-	-	-	-	1
内 訳	複合性下垂体機能低下症	-	-	1	-	-
	先天性甲状腺機能低下症	-	-	-	1	-

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
その他		46	152	157	107	207
内 訳	低出生体重児	9	51	32	5	9
	極低出生体重児	-	15	11	8	1
	超低出生体重児	-	2	1	3	-
	早産児	15	28	-	5	2
	重症新生児仮死	5	2	26	6	5
	新生児仮死	4	1	6	1	8
	潜在性胎児仮死	-	-	1	-	-
	新生児重症黄疸	-	-	-	1	1
	新生児黄疸	4	18	48	35	60
	高ビリルビン血症	2	7	4	-	-
	新生児低血糖	1	1	4	1	7
	高インスリン性低血糖症	-	-	-	4	2
	新生児高インスリン血症	-	-	1	-	-
	新生児低体温症	-	-	1	-	1
	新生児鎖骨骨折	1	-	-	-	-
	多血症	-	-	-	2	2
	新生児ABO不適合溶血性疾患	2	1	-	-	-
	双胎間輸血症候群	-	-	-	1	4
	胎盤輸血症候群	1	21	-	-	-
	母児間輸血症候群	-	-	-	1	-
	帝王切開症候群	2	-	22	29	103
	一過性骨髄増殖症	-	-	-	1	-
	左側多嚢胞性異形成腎	-	-	-	1	-
	先天性ネフローゼ症候群	-	-	-	1	-
	甲状腺機能低下症	-	1	-	-	1
	未熟児網膜症	-	-	-	1	-
	胎盤からの胎児出血	-	1	-	-	-
	副腎皮質過剰形成症の疑い	-	1	-	-	-
	新生児溶血性貧血	-	1	-	1	-
	新生児便秘症	-	1	-	-	-
	新生児薬物離脱症候群	-	-	1	-	-
	貧血	-	-	-	-	1

3 出生週数（例）

37 週以上が増えているのは前年と同様であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
23週	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-
25週	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	1	2	-	-	-	2	-
28週	1	4	3	6	2	3	1	2	1	3
29週	4	4	2	1	3	-	3	5	3	-
30週	8	5	3	5	9	2	9	2	5	5
31週	5	7	4	10	9	9	9	7	1	3
32週	5	12	10	14	13	4	7	7	5	8
33週	9	22	13	17	12	15	11	9	9	12
34週	18	17	23	22	22	21	24	27	26	25
35週	28	27	33	36	32	28	41	24	32	24
36週	13	13	17	16	14	9	20	31	22	30
37週以上	122	127	104	97	89	86	146	161	169	314
不明	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1

4 出生時体重（例）

2,500g 以上が増加傾向にあるのは前年と同様であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500g未満	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-
750-999g	3	2	4	2	7	-	1	-	3	1
1,000-1,249g	6	6	6	10	6	6	9	6	10	2
1,250-1,499g	11	21	10	10	7	9	10	9	5	6
1,500-1,749g	10	24	16	23	19	11	16	15	9	14
1,750-1,999g	27	20	31	35	27	27	25	24	24	35
2,000-2,249g	26	23	31	25	29	27	35	30	35	37
2,250-2,499g	26	31	25	27	27	23	40	37	25	52
2,500g以上	105	112	93	93	80	74	134	155	164	278

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸管理症例数は増加傾向にある。NICU 入院数の増加に伴う減少と考える。総数は回復室（GCU）入院数が計上されるため人工呼吸管理率は低い。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
入院数（例）	214	239	216	225	203	177	272	280	275	425
人工呼吸器管理症例数（例）	80	86	66	84	67	63	60	54	61	82
人工呼吸器管理症例率（％）	37.4	36.0	30.6	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3	22.2	19.3

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

他院小児外科医にて当院 NICU 内で腹腔ドレナージを施行した 1 例のみであった。

出生体重	出生週数	疾患名	術式
2,500-2,749g	39週	新生児仮死、脾臓出血	腹腔内ドレナージ

7 血液浄化症例

血液浄化症例は、多血症に対する部分交換輸血が 2 例、重症黄疸に対する全血交換輸血が 1 例であった。

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
1,500-1,749g	36週	新生児仮死、多血症	部分交換輸血
1,750-1,999g	36週	双胎間輸血症候群、多血症	部分交換輸血
2,250-2,499g	39週	重症黄疸、COL4A1遺伝子異常	交換輸血

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）
24週	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	-（- / -）	-（- / -）
25週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
26週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
28週	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）
29週	-（0 / 0）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	-（- / -）
30週	100.0（2 / 2）	100.0（9 / 9）	100.0（2 / 2）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）
31週	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）
32週	100.0（4 / 4）	100.0（7 / 7）	100.0（7 / 7）	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）
33週	100.0（15 / 15）	100.0（11 / 11）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（12 / 12）
34週	100.0（21 / 21）	100.0（24 / 24）	100.0（27 / 27）	100.0（26 / 26）	100.0（25 / 25）
35週	100.0（28 / 28）	100.0（41 / 41）	100.0（24 / 24）	100.0（32 / 32）	100.0（24 / 24）
36週	100.0（9 / 9）	100.0（20 / 20）	100.0（31 / 31）	100.0（22 / 22）	100.0（30 / 30）
37週以上	98.8（85 / 86）	99.3（145 / 146）	98.8（160 / 162）	99.4（168 / 169）	100.0（314 / 314）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率 (%)

	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)	2021年 (内訳)
500-749g	- (- / -)	100.0 (2 / 2)	100.0 (4 / 4)	- (- / -)	- (- / -)
750-999g	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)
1,000-1,249g	100.0 (6 / 6)	100.0 (9 / 9)	100.0 (6 / 6)	100.0 (10 / 10)	100.0 (2 / 2)
1,250-1,499g	100.0 (9 / 9)	100.0 (10 / 10)	100.0 (9 / 9)	100.0 (5 / 5)	100.0 (6 / 6)
1,500-1,749g	100.0 (11 / 11)	100.0 (16 / 16)	100.0 (15 / 15)	100.0 (9 / 9)	100.0 (14 / 14)
1,750-1,999g	96.3 (26 / 27)	100.0 (25 / 25)	100.0 (24 / 24)	100.0 (24 / 24)	100.0 (35 / 35)
2,000-2,249g	100.0 (27 / 27)	100.0 (35 / 35)	100.0 (30 / 30)	100.0 (35 / 35)	100.0 (37 / 37)
2,250-2,499g	100.0 (23 / 23)	100.0 (40 / 40)	97.3 (36 / 37)	100.0 (25 / 25)	100.0 (52 / 52)
2,500g以上	100.0 (74 / 74)	99.3 (133 / 134)	99.4 (154 / 155)	99.4 (163 / 164)	100.0 (278 / 278)

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
早期新生児死亡数（日齢 7 日未満の死亡）	-	1	1	2	-	1	-	2	1	-
後期新生児死亡数（日齢 7 日以上、日齢 28 日未満の死亡）	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

11 死亡例一覧

本年の死亡症例は 0 であった。

12 新生児搬送収容数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
新生児搬送収容数	65	62	79	78	68	56	69	66	60	68

13 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

新生児搬送収容数は 68 例（バックトランスファー及び転院を除く）。新生児ドクターカーによる新生児搬送は 44 件（転院およびバックトランスファーは除く）あり、このうち 9 件は三角搬送（14 参照）で他院 NICU 施設収容となっている。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
呼吸器疾患	32	31	41	53	40
呼吸障害	-	21	1	1	-
新生児低酸素血症	-	-	-	1	-
新生児一過性多呼吸	27	5	32	36	26
新生児無呼吸発作	-	1	2	2	3
新生児呼吸窮迫症候群	1	-	2	2	-
新生児気胸、新生児緊張性気胸	2	1	-	6	4
新生児肺出血	1	-	-	2	1
胎便吸引症候群	1	3	4	2	3
新生児肺炎	-	-	-	1	-
咽頭軟化症	-	-	-	-	1
左声帯不完全麻痺	-	-	-	-	1
先天性嚢胞性肺疾患	-	-	-	-	1
消化管疾患	2	5	7	5	2
新生児嘔吐症	-	-	4	1	1
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	1	-
哺乳不良	-	1	-	-	-
哺乳障害	-	1	2	3	-
胃軸捻症	1	-	-	-	-
新生児血便	1	-	-	-	-
新生児便秘症	-	1	-	-	-
体重増加不良	-	-	1	-	-
膀胱尿管逆流	-	1	-	-	-
副腎皮質過形成症の疑い	-	1	-	-	-
脾臓出血	-	-	-	-	1

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
その他	13	24	10	29	16
低出生体重児	1	5	1	-	1
極低出生体重児	1	1	-	1	-
超低出生体重児	1	1	-	2	-
早産児	1	-	2	4	-
新生児仮死	-	2	1	1	2
重症新生児仮死	4	-	3	5	3
黄疸	1	3	-	3	3
新生児高ビリルビン血症	1	2	1	-	-
低血糖	-	-	-	-	1
新生児 ABO 不適合溶血性疾患	1	-	-	-	1
新生児脱水症	-	-	-	1	1
C B W	-	-	-	1	1
新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	1	1	-
G B S 敗血症	-	-	-	1	-
心室中隔欠損症	1	-	1	1	-
新生児鎖骨骨折	1	-	-	1	-
鼠径ヘルニア	-	1	-	1	-
胎盤からの胎児出血	-	1	-	1	-
未熟児網膜症	-	-	-	1	-
母児間輸血症候群	-	-	-	1	-
先天性ネフローゼ症候群	-	-	-	1	-
新生児高インスリン血症	-	-	-	2	1
重症黄疸	-	-	-	-	1
新生児低体温症	-	-	-	-	1
詳細不明	-	8	-	-	-

次ページへ続く

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
心・循環器疾患	4	5	3	5	7
完全大血管転位症	-	-	-	-	1
新生児遷延性肺高血圧症	-	-	1	1	1
総肺静脈還流異常	1	1	-	1	-
大動脈狭窄症の疑い	1	1	-	-	1
上室性頻拍症	-	1	-	-	-
先天性巨大動脈瘤	-	-	1	-	-
Fallot四徴症	-	-	-	1	1
房室中隔欠損症	-	-	-	1	1
動脈管開存症	2	2	1	1	1
頸部動静脈瘻	-	-	-	-	1
脳・神経疾患	-	2	1	-	4
新生児痙攣	-	2	1	-	4

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
染色体異常 奇形症候群	2	4	2	7	6
染色体異常	-	1	-	-	1
口唇口蓋裂	-	-	-	1	1
メンケス病の疑い	1	1	-	-	-
ダウン症（疑い含む）	1	1	1	5	1
頸部嚢胞性リンパ管腫	-	-	1	-	-
ベックウィズ・ヴィーデマン症候群	-	-	-	1	-
1p36欠失症候群 TRPV4遺伝子ナンセンス変異	-	1	-	-	-
18トリソミー（疑い含む）	-	-	-	-	1
COL4A1遺伝子異常	-	-	-	-	1
多小脳回	-	-	-	-	1
感染症	3	2	4	5	3
感染症	2	1	2	3	3
新生児細菌性髄膜炎	-	-	1	-	-
新生児敗血症	1	-	-	-	-
新生児膿瘍疹	-	-	-	2	-
新生児カンシダ症	-	-	1	-	-
敗血症の疑い	-	1	-	-	-

1.4 三角搬送（例）

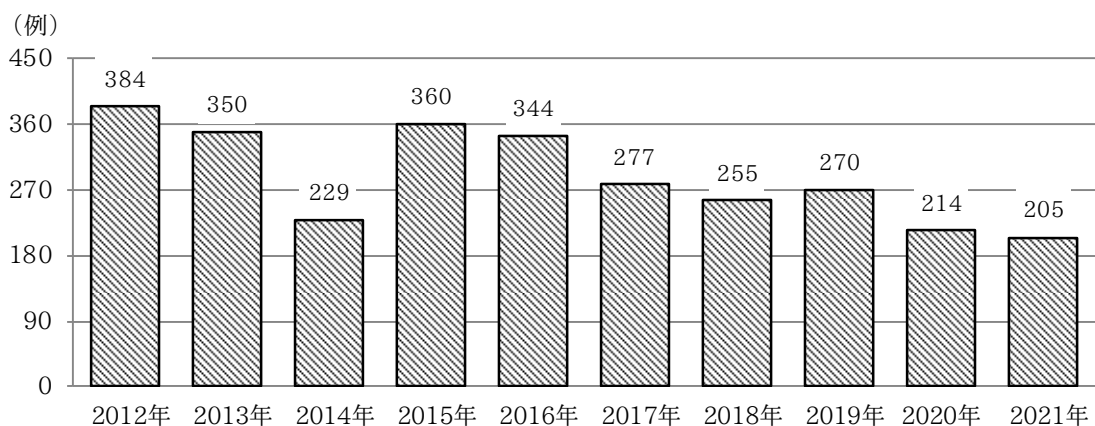
出生体重	出生週数	日齢	主訴	収容先	三角搬送理由
2,500-2,749g	37週	0-7日	呼吸障害	近大奈良	満床のため
	35週	0-7日	哺乳障害、腹部膨満	近大奈良	外科疾患疑い
	38週	0-7日	呼吸障害	近大奈良	満床のため
2,750-2,999g	38週	0-7日	嘔吐	近大奈良	外科疾患疑い
3,000-3,249g	41週	0-7日	呼吸障害	近大奈良	満床のため
	38週	0-7日	胃出血	近大奈良	外科疾患疑い
3,250-3,499g	40週	0-7日	感染症疑い	近大奈良	満床のため
	39週	0-7日	嘔吐、哺乳障害	近大奈良	外科疾患疑い
4,000-4,249g	41週	0-7日	感染症疑い	近大奈良	満床のため

第4節 近畿大学奈良病院

第1項 産科部門診療実績

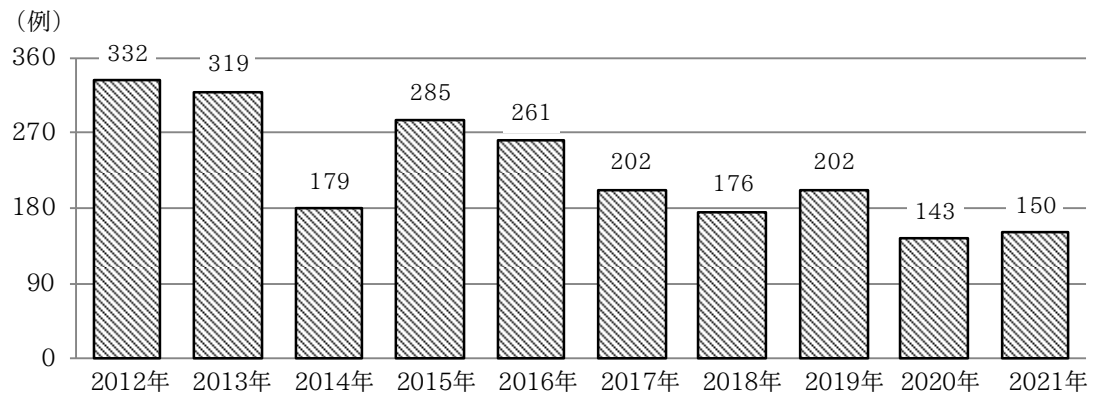
1 入院数

本年の当院における産科入院患者数は減少した。



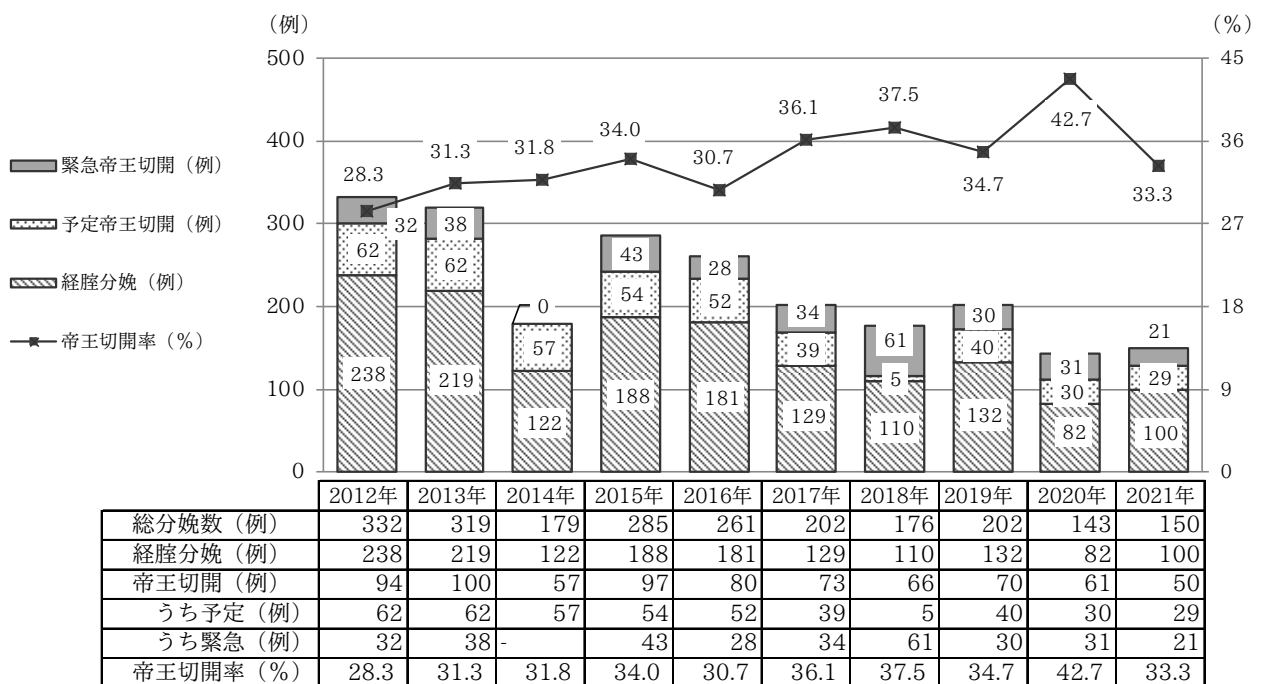
2 分娩数

分娩数は2015年以降減少傾向であるが、2019年には一旦増加した。前年の減少は病院内でCOVID-19が発生し、分娩を含めた新規の入院患者受入れを2週間中止したことが挙げられるが、本年はやや回復した。高度生殖補助医療（ART）による妊娠が16%であり全国平均より多かった。



3 分娩様式

本年は、帝王切開率が 33.3%と前年より減少した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

本年は当院では妊娠 30 週以降の母体の受け入れを実施していた。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
23週	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25週	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
32週	-	-	1	3	-	3	-	-	2	-
33週	1	1	2	1	3	1	6	2	2	2
34週	1	2	1	4	8	5	5	3	2	3
35週	2	2	-	10	4	5	6	4	2	8

次ページへ続く

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
36週	8	8	1	15	11	5	9	5	7	3
37週	54	44	28	34	31	24	29	16	27	16
38週	75	77	48	78	70	57	43	69	34	34
39週	70	77	32	65	56	46	36	37	34	36
40週	80	67	45	58	54	41	35	50	28	38
41週	32	39	19	17	21	15	11	15	8	11
42週以上	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

2021年12月時点では妊娠30週以降の分娩を受け入れていること、および胎児先天異常の妊婦の受入れを行っているため、1,500g未満の極低出生体重児の分娩もあった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500g未満	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
500-999g	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	-	-	1	2	-	-	2	-	1	1
1,500-1,999g	2	3	3	6	6	6	7	5	6	3
2,000-2,499g	22	34	7	31	38	25	24	14	19	20
2,500g以上	307	281	168	246	220	172	149	183	120	128

6 出産時年齢（例）

本年の出生時年齢35歳以上の割合は44%、40歳以上では15.3%であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	232	196	88	154	152	111	96	117	79	84
35-39歳	71	102	67	98	78	74	68	62	39	43
40-44歳	29	21	24	30	29	16	11	22	22	23
45歳以上	-	-	-	-	2	1	1	1	3	-

7 合併症妊娠（例）

その他7例のうち3例は抗リン脂質抗体症候群で、その他それぞれ、脳動脈奇形、ラクナ梗塞、もやもや病、副甲状腺機能低下症合併妊娠があった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	-	-	-	14	16	11	12	10	14	8
子宮筋腫（核出術後）	1	-	6	-	-	-	-	1	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	1	-	13	17	21	14	3	6	3
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	4	-	-	6	-	2	-	3
子宮形態異常	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1	1	4	2	4	1	1
甲状腺機能低下症	-	-	1	6	8	13	6	16	8	12
糖尿病（含GDM）	-	-	5	12	37	21	27	21	17	16
喘息	-	-	1	11	12	12	3	11	7	2
慢性腎炎	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
本態性高血圧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ITP	-	-	-	2	3	2	2	2	-	1
自己免疫疾患	-	-	1	2	-	-	1	1	-	1
循環器疾患	-	-	-	4	5	6	2	1	1	1
精神科疾患（含てんかん）	-	-	-	-	3	-	2	6	3	5
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	1	3	3	-	1	1	1	-
消化器疾患（※2）	-	-	1	11	11	15	1	2	-	1
その他	-	-	-	-	-	-	-	10	8	7

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

例年通りは各種の産科合併症があった。特に弛緩出血が23名と多かった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	4	24	16	18	35	90	25	23	19	21
妊娠高血圧症候群	3	10	6	15	11	9	10	12	9	4
胎児発育不全	-	-	9	9	15	13	10	2	3	4
多胎妊娠	-	3	1	6	5	3	7	-	3	2
前置胎盤	4	1	1	4	-	-	4	-	4	1
産後出血（※3）	1	-	-	3	19	26	3	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	2	1	3	3	15	23
常位胎盤早期剥離	5	1	-	2	2	4	1	3	1	-
HELLP症候群	-	-	-	1	1	-	-	1	1	1
低置胎盤	-	-	-	1	3	1	1	1	1	-
血液型不適合	-	-	-	1	11	9	5	5	3	2
羊水過多	-	-	1	-	5	4	1	1	2	2
羊水過少	-	-	-	-	11	10	-	3	2	3
先天異常	-	-	11	2	8	6	4	4	4	6

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

近年産科手術はほとんど施行されていない。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
産道血腫除去術	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-

10 輸血治療症例（例）

2021年は産後出血に対して2例の輸血治療を行った。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	1	-	-	-	9	5	-	4	3	2

11 NICU 収容症例数（例）

毎年、一定数のNICU収容症例数が存在している。

	2018年	2019年	2020年	2021年
NICU収容症例数	51	34	42	34

（※2018年より新規集計、2018年はうち未熟児が31例）

12 多胎妊娠（例）

本年の双胎妊娠は2例であった。当院ではMD、MM双胎を扱っていないため全例がDD双胎である。

	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	7	-	3	2
うちMD（※1）	-	-	-	-
うちDD（※2）	7	-	3	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

1 3 母体搬送収容数（例）

奈良県周産期搬送システムを通して、毎年一定数の母体搬送を収容している。

	2018年	2019年	2020年	2021年
母体搬送収容数	8	4	4	1

（※2018年より新規集計）

1 4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

本年は母体搬送例は妊娠高血圧症候群の1例のみであった。

	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	5	4	3	-
妊娠高血圧症候群	2	-	-	1
前置胎盤	1	-	-	-
胎児形態異常	1	-	-	-
その他	-	-	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期 （※2018年より新規集計）

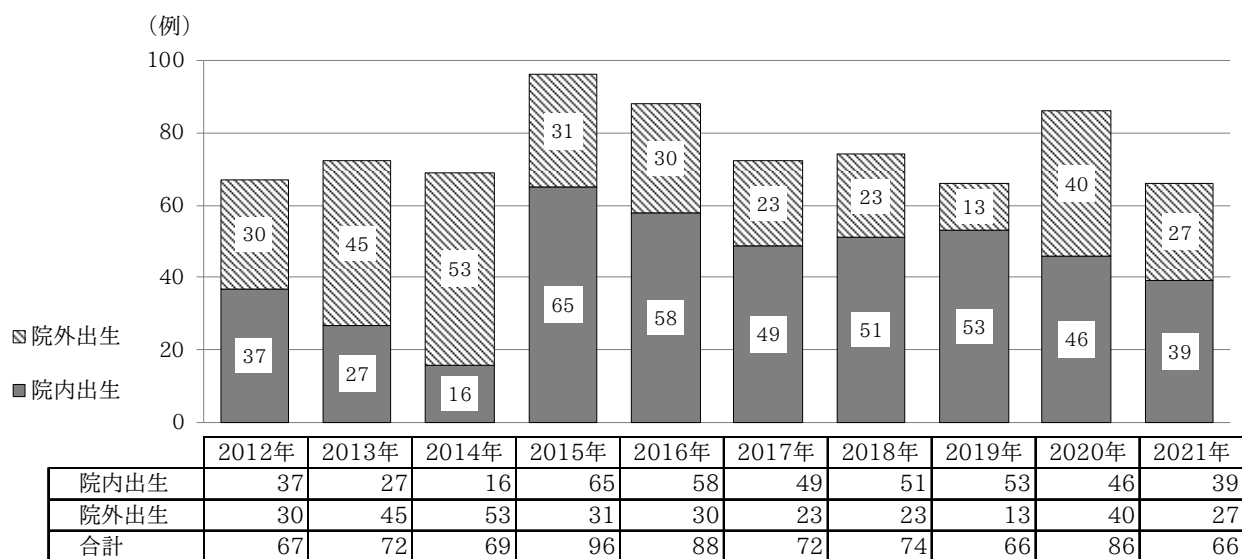
1 5 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	1	-	1	-	-	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1	1	-	-
心室中隔欠損	1	-	-	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	-	-	1	-	-	-
不整脈	-	-	-	-	1	-	-	-
水腎症	1	1	2	2	-	-	-	-
鎖肛	1	1	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	2	2
卵巣嚢腫	1	1	1	1	-	-	-	-
腹壁破裂	1	1	-	-	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	-	-	1	1	-	-
脳出血	1	-	-	-	-	-	-	-
横隔膜ヘルニア	-	-	1	1	-	-	-	-
先天性側弯	-	-	1	1	-	-	-	-
脳室拡大	-	-	1	1	-	-	-	-
骨系統性疾患	-	-	-	-	-	-	1	1
尿管遺残	-	-	-	-	-	-	1	1
胆道拡張症	-	-	-	-	-	-	1	1
臍帯ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	1

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

院内出生、院外出生ともに減少傾向であった。



2 主病名 (例)

低出生体重児の入院は減少した。

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
呼吸器疾患		12	12	11	10	13
内 訳	新生児一過性多呼吸	-	-	7	7	5
	呼吸窮迫症候群	-	-	1	-	-
	胎便吸引症候群	-	-	3	2	2
	気胸	-	-	-	1	6
心・循環器疾患		2	3	1	5	1
内 訳	重度肺動脈狭窄	-	-	1	-	-
	不整脈	-	-	-	1	-
	肺動脈閉鎖	-	-	-	1	-
	動脈管開存	-	-	-	1	-
	動脈管開存術後	-	-	-	1	-
	生理的心雑音	-	-	-	1	-
	大動脈縮窄症	-	-	-	-	1
消化管疾患		22	17	16	15	15
内 訳	新生児嘔吐症	-	-	6	-	2
	血便	-	-	2	-	-
	腸回転異常症疑い	-	-	2	-	-
	回腸狭窄症	-	-	1	-	-
	哺乳力不良	-	-	1	1	2
	横隔膜ヘルニア	-	-	1	1	-
	血性嘔吐	-	-	3	-	-
	先天性胆道拡張症	-	-	-	1	-
	胃軸捻転	-	-	-	5	1
	小腸閉鎖	-	-	-	1	-
	急性胃粘膜障害	-	-	-	1	3
	臍帯ヘルニア	-	-	-	1	1
	新生児メレナ	-	-	-	1	1
	肥厚性幽門狭窄症	-	-	-	1	-
	食道閉鎖	-	-	-	2	-
	十二指腸閉鎖症	-	-	-	-	1
	十二指腸狭窄症	-	-	-	-	1
	胆管拡張症	-	-	-	-	1
	脾臓破裂	-	-	-	-	1
	膀胱腸裂	-	-	-	-	1
脳・神経疾患		1	-	2	-	-
内 訳	低酸素性虚血性脳症	-	-	1	-	-
	仙尾部形態異常腫	-	-	1	-	-

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
感染症		3	2	1	6	4
内 訳	新生児感染症	-	-	1	-	3
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	5	-
	GBS髄膜炎	-	-	-	1	-
	新生児ヘルペス感染症	-	-	-	-	1
染色体異常 形態異常症候群		-	-	2	1	-
内 訳	ダウン症候群疑い	-	-	1	-	1
	先天性水頭症	-	-	1	-	-
	13トリソミー	-	-	-	1	-
	Freeman-Sheldon 症候群	-	-	-	-	1
代謝内分泌		-	-	-	2	-
内 訳	新生児低血糖	-	-	-	2	-
	その他	29	39	33	37	31
内 訳	低出生体重児	-	-	21	28	17
	極低出生体重児	-	-	-	2	1
	早産児	-	-	-	3	1
	新生児黄疸	-	-	3	-	-
	多血症	-	-	1	-	-
	新生児仮死	-	-	1	-	-
	卵巣嚢腫	-	-	1	-	-
	低体温症	-	-	1	-	-
	過体重児	-	-	1	-	-
	頸部リンパ管腫	-	-	1	-	-
	下腿浮腫	-	-	1	-	-
	水腎症	-	-	2	1	-
	口蓋裂	-	-	-	1	-
	副腎機能低下症の疑い	-	-	-	1	-
	乳児消化管アレルギー	-	-	-	1	1
	軟骨低形成の疑い	-	-	-	-	1
	tanhatopolic dysplasia	-	-	-	-	1
	先天性表皮水疱症の疑い	-	-	-	-	1
	甲状腺機能低下症の疑い	-	-	-	-	1
	新生児薬物離脱症候群	-	-	-	-	2
	高IgE症候群	-	-	-	-	1
	先天性嚢胞状腺腫様形成異常	-	-	-	-	1
	喉頭軟化症	-	-	-	-	1
	双胎児	-	-	-	-	2

(※2017年～2018年は内訳未集計)

3 出生週数（例）

出生週数に大きな変化はなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
22週未満	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
22週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
25週	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
29週	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
32週	-	2	1	2	-	3	-	-	2	1
33週	1	1	1	4	3	1	6	2	2	2
34週	1	1	1	5	11	9	7	3	6	4
35週	2	2	-	13	5	5	5	4	3	11
36週	8	6	1	15	7	5	8	6	9	2
37週以上	313	57	174	56	62	48	46	50	64	45

4 出生時体重（例）

出生時体重に大きな変化はなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500g未満	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
750-999g	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1
1,250-1,499g	-	3	-	3	-	1	3	-	1	-
1,500-1,749g	1	3	2	1	4	5	2	3	1	1
1,750-1,999g	1	-	1	7	4	4	5	3	8	3
2,000-2,249g	4	2	4	11	15	6	7	4	10	11
2,250-2,499g	18	17	4	21	18	20	22	11	20	16
2,500g以上	301	45	167	52	46	36	34	45	46	34

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸管理症例数に大きな変化はなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
入院数（例）	-	72	69	96	88	72	74	66	86	66
人工呼吸器管理症例数（例）	-	17	20	10	16	15	10	8	11	16
人工呼吸器管理症例率（％）	-	23.6	29.0	10.4	18.2	20.8	13.5	12.1	12.8	24.2

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

出生体重	出生週数	疾患名	術式
2,000-2,249g	33週	両側尿管ヘルニア、腸回転異常、巨大脾臓ヘルニア	腹腔鏡下尿管ヘルニア根治術 腹部、巨大脾臓ヘルニア71期の腹壁閉鎖術 腹部
	34週	十二指腸閉鎖	十二指腸十二指腸吻合術 腹部
	35週	十二指腸狭窄症、輪状痔	十二指腸狭窄手術（タックメソッド吻合） 腹部
2,250-2,499g	35週	腹壁破裂、尿管管開存	腹壁形成術 腹部、人工肛門造設術 腹部、膀胱形成術 腹部
	35週	腹壁破裂	人工肛門再造設 腹部、膀胱造形 腹部
	35週	総排泄腔外反症	腹壁再閉鎖術 腹部
	35週	骨形成不全症	中心静脈注射用植込型カテーテル設置（右内頸静脈） 頸部
2,500-2,749g	39週	腹腔内出血	脾臓損傷止血術 腹部
2,750-2,999g	37週	先天性のう胞性腺腫様形成異常	左肺上葉切除術 胸部
3,500-3,749g	39週	上気道閉塞性換気障害、喉頭軟化症	喉頭粘膜焼灼術（直達鏡レーザー焼灼） 頸部

7 血液浄化症例

他院からの搬送症例（脾臓出血）に対して血液浄化療法を行った。

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
2,500-2,749g	39週	脾臓出血、出血性ショック、腎不全	CHDF

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

生存率に大きな変化はなかった。

	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）
24週	-（-／-）	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
25週	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
26週	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
27週	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
28週	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
29週	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
30週	-（-／-）	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
31週	-（-／-）	-（-／-）	100.0（1／1）	-（-／-）	100.0（1／1）
32週	100.0（3／3）	-（-／-）	-（-／-）	50.0（1／2）	100.0（1／1）
33週	100.0（1／1）	100.0（6／6）	100.0（2／2）	100.0（2／2）	100.0（2／2）
34週	100.0（9／9）	100.0（7／7）	100.0（3／3）	100.0（6／6）	100.0（4／4）
35週	100.0（5／5）	100.0（5／5）	100.0（4／4）	100.0（3／3）	100.0（11／11）
36週	100.0（5／5）	100.0（8／8）	100.0（6／6）	100.0（9／9）	100.0（2／2）
37週以上	97.9（47／48）	100.0（46／46）	100.0（50／50）	98.4（63／64）	97.8（44／45）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）
500-749g	-（-／-）	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
750-999g	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）
1,000-1,249g	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	100.0（1／1）
1,250-1,499g	100.0（1／1）	100.0（3／3）	-（-／-）	0.0（0／1）	-（-／-）
1,500-1,749g	100.0（5／5）	100.0（2／2）	100.0（3／3）	100.0（1／1）	100.0（1／1）
1,750-1,999g	75.0（3／4）	100.0（5／5）	100.0（3／3）	87.5（7／8）	100.0（3／3）
2,000-2,249g	100.0（6／6）	100.0（7／7）	100.0（4／4）	100.0（10／10）	100.0（11／11）
2,250-2,499g	100.0（20／20）	100.0（22／22）	100.0（11／11）	100.0（20／20）	100.0（16／16）
2,500g以上	100.0（36／36）	100.0（34／34）	100.0（45／45）	100.0（46／46）	97.1（33／34）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	-	-	1	1	1	-	-	-	1	-
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	-	1	-	2	-	1	-	-	1	1

11 死亡例一覧

出生体重	出生週数	死亡日齢	病名
2,500-2,749g	39週	8-28日	脾臓出血

12 新生児搬送収容数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
新生児搬送収容数	7	20	15	20	24	23	10	13	40	27

1 3 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

当院の特性上、外科疾患が搬送症例の多くを占めている。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
呼吸器疾患	5	1	-	7	6
内訳					
呼吸障害	1	-	-	2	-
新生児一過性多呼吸	-	-	-	3	1
多呼吸	-	-	-	1	-
新生児気胸	3	-	-	1	3
気切	1	-	-	-	-
SpO2低下	-	1	-	-	-
喉頭軟化症	-	-	-	-	1
先天性嚢胞状腺腫様形成異常	-	-	-	-	1
心・循環器疾患	1	-	1	2	-
内訳					
心雑音	-	-	1	1	-
不整脈	1	-	-	-	-
動脈管術後	-	-	-	1	-
感染症	-	-	-	-	4
内訳					
新生児感染症	-	-	-	1	3
新生児ヘルペス感染症	-	-	-	-	1
その他	-	1	4	12	9
内訳					
低出生体重児	-	1	1	8	5
下腿浮腫	-	-	1	-	-
頸部リンパ管腫	-	-	1	-	-
仙尾部形態異常腫	-	-	1	-	-
早産児	-	-	-	1	1
GBS髄膜炎	-	-	-	1	-
HBV予防目的	-	-	-	1	-
新生児黄疸	-	-	-	1	-
Freeman-Sheldon 症候群	-	-	-	-	1
乳児消化管アレルギー	-	-	-	-	1
高IgE症候群	-	-	-	-	1

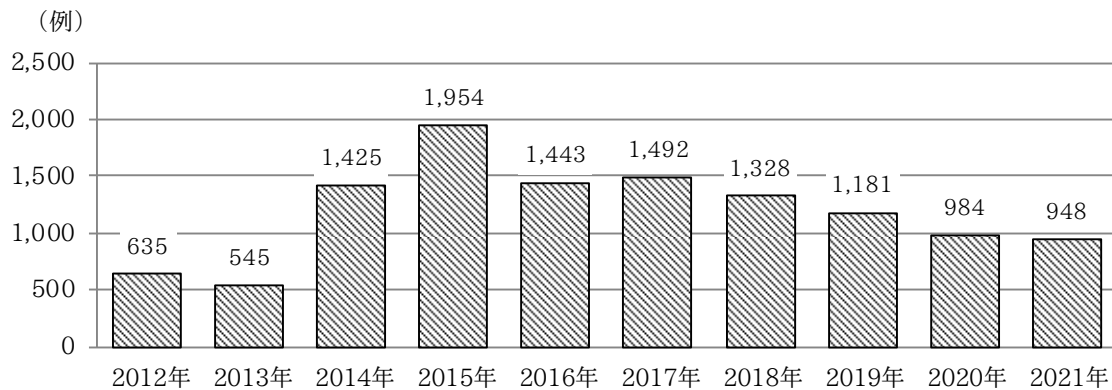
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
染色体異常 形態異常症候群	2	-	-	-	1
内訳					
染色体異常	1	-	-	-	-
ダウン症の疑い	-	-	-	-	1
口唇口蓋裂	1	-	-	-	-
脳・神経疾患	-	-	1	-	-
低酸素性虚血性脳症の気切	-	-	1	-	-
消化管疾患	14	6	7	18	7
内訳					
新生児嘔吐症	1	-	2	3	1
血性嘔吐	-	-	-	3	-
嘔吐	2	2	-	5	-
哺乳不良	1	2	-	-	1
新生児メレナ	-	-	-	1	-
血便	2	1	2	1	1
小腸狭窄	-	-	1	-	-
腹壁破裂	-	-	-	2	-
腹部膨満	1	-	-	-	-
胃出血	1	-	-	-	-
ヒルシウスブルング病疑い	2	1	-	-	-
腸回転異常症の疑い	1	-	2	-	-
横隔膜ヘルニア	1	-	-	1	-
滞便イリウス	1	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	-	1	-
総胆管拡張症	-	-	-	1	-
吐血	1	-	-	-	-
脾臓破裂	-	-	-	-	1
急性胃粘膜障害	-	-	-	-	2
胃軸捻転	-	-	-	-	1

第5節 天理よろづ相談所病院

第1項 産科部門診療実績

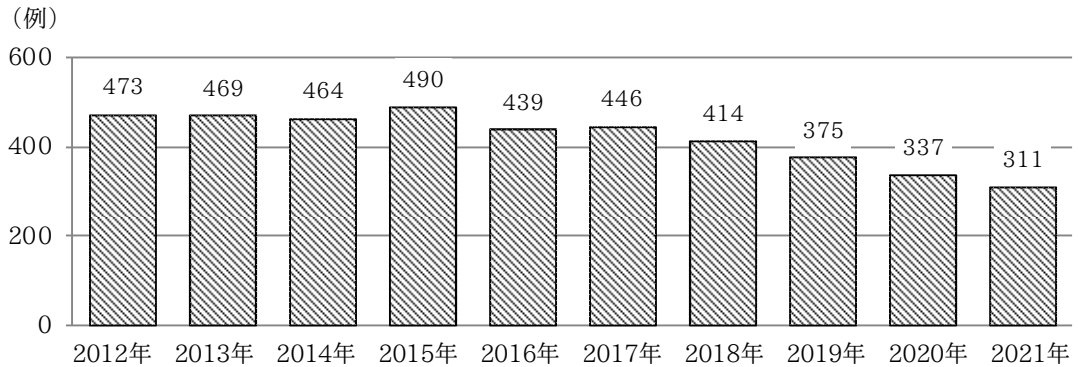
1 入院数

2014年度より産科・婦人科合同で1病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可能である。



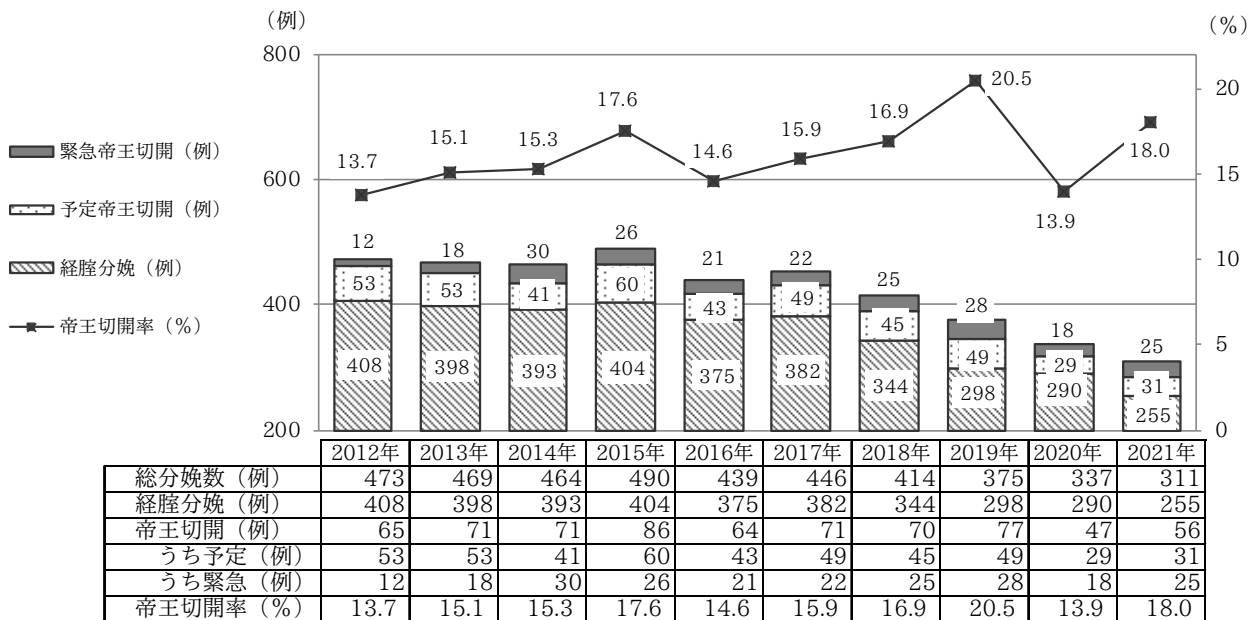
2 分娩数

総分娩数は前年に比べて減少した。



3 分娩様式

帝王切開率は前年に比べて増加した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

早産域の分娩数は前年に比べて増加した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
34週	-	1	-	1	3	-	1	-	-	-
35週	6	8	10	7	4	3	3	3	-	3
36週	8	9	15	15	15	14	10	9	6	11
37週	83	38	56	39	29	50	57	44	29	29
38週	118	151	121	138	107	112	107	77	74	75
39週	163	146	137	151	98	140	132	105	103	84
40週	77	92	99	101	135	97	89	113	97	92
41週	18	21	21	28	30	29	15	21	29	19

5 出生体重 (例、死産児は除く)

1,500g未満が1例あった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,000-1,499g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
1,500-1,999g	4	7	4	2	6	2	1	1	2	1
2,000-2,499g	46	46	41	46	27	33	31	22	24	22
2,500g以上	423	413	414	433	403	411	384	349	313	289

6 出産時年齢（例）

45歳以上が1例あった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	355	337	343	345	306	304	295	254	244	204
35-39歳	88	120	96	118	109	114	92	93	83	84
40-44歳	30	11	25	27	17	26	27	25	10	22
45歳以上	-	1	-	-	1	1	-	3	-	1

7 合併症妊娠（例）

子宮筋腫合併妊娠は増加した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	19	20	18	14	15	10	5	12	16	24
子宮筋腫（核出術後）	-	4	3	6	2	2	-	2	4	6
卵巣嚢腫（腫瘍）	2	1	-	-	10	11	5	7	4	2
子宮頸癌（含円錐切除後）	3	1	-	-	3	-	-	-	-	-
子宮形態異常	1	3	1	-	-	4	-	2	1	2
甲状腺機能亢進症	17	15	13	16	11	4	4	2	3	4
甲状腺機能低下症	-	-	6	-	4	4	1	8	7	7
糖尿病（含GDM）	15	28	27	6	33	30	17	32	29	18
喘息	16	14	13	15	8	4	2	20	27	13
慢性腎炎	-	-	-	-	-	1	-	1	2	1
本態性高血圧	-	1	1	-	-	1	-	2	1	-
ITP	1	-	1	-	-	1	-	1	-	-
自己免疫疾患	5	4	6	6	6	7	1	3	2	4
循環器疾患	12	3	6	2	3	6	3	7	3	4
精神科疾患（含てんかん）	6	10	10	3	7	7	3	8	8	6
ウイルス性肝炎（※1）	2	1	-	-	2	-	-	2	2	-
消化器疾患（※2）	-	-	1	-	-	-	-	2	2	1
その他	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症の総数は前年より減少した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	128	132	142	152	113	93	41	25	17	19
妊娠高血圧症候群	18	18	18	16	14	7	4	8	11	8
胎児発育不全	34	11	7	10	3	4	6	5	5	3
多胎妊娠	6	6	3	5	3	3	2	1	2	2
前置胎盤	1	1	-	2	1	4	-	-	1	1
産後出血（※3）	101	115	96	-	-	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	-	44	21	94	61	60
常位胎盤早期剥離	1	1	4	4	1	4	-	-	2	2
HELLP症候群	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-
低置胎盤	-	3	2	1	2	-	2	2	-	-
血液型不適合	-	-	-	-	-	-	-	2	4	3
羊水過多	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1
羊水過少	-	-	4	4	-	1	1	1	4	2
先天異常	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
その他	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

産後弛緩出血に対して子宮動脈塞栓術を施行した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	4	7	6	12	10	2	3	2	3	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	2	1	-	-	1	-	1	2	-	-
産道血腫除去術	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-
子宮動脈塞栓術	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1
子宮摘出術	-	-	2	-	1	1	-	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	-	3	3	1	2	5	1	1	2	1

11 多胎妊娠（例）

双胎症例数は例年と同様であった。

	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	2	1	2	2
うちMD（※1）	-	-	-	1
うちDD（※2）	2	1	2	1

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

12 母体搬送収容数（例）

	2020年	2021年
母体搬送収容数	4	-

13 母体搬送疾患名（例）

	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	1	-
妊娠高血圧症候群	2	-
その他	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期

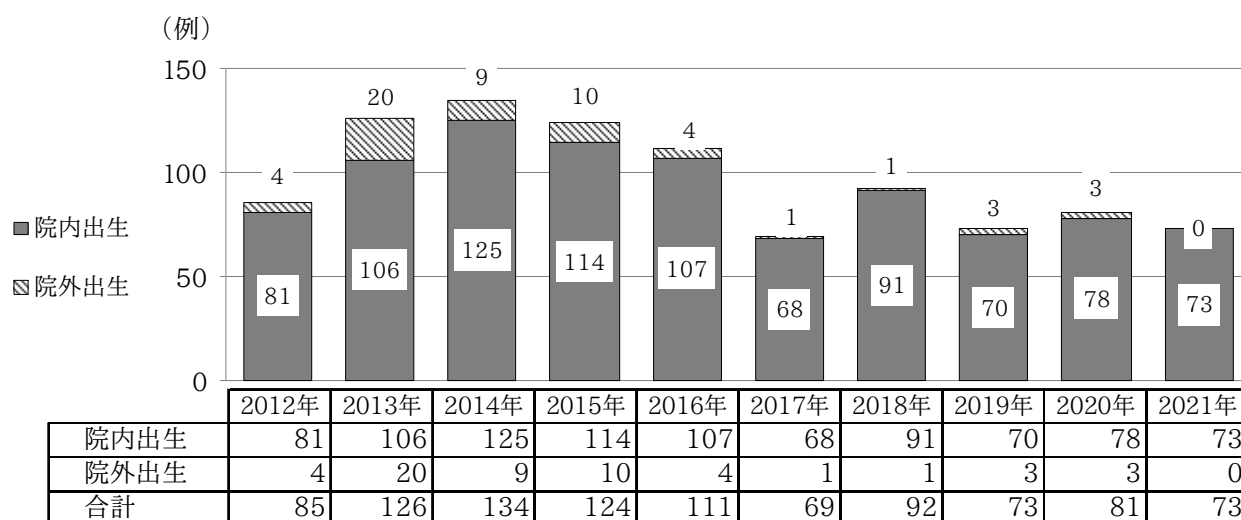
14 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2021年	
	症例数	胎内診断
水腎症	1	1
大血管転位	1	-

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

本年の院外出生（＝搬送入院）は0例であった。



2 主病名 (例)

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
内 訳	呼吸器疾患	35	44	15	25	27
	一過性多呼吸	19	20	10	10	15
	呼吸障害	14	19	5	14	10
	気胸（軽症）	2	5	(5)	1	2
	心・循環器疾患	3	2	-	-	1
	先天性心疾患	3	2	-	-	1
内 訳	消化管疾患	1	-	1	1	-
	ミルクアレルギー	1	-	-	-	-
	腸回転異常	-	-	1	1	-
内 訳	脳・神経疾患	-	3	-	-	-
	感染症	14	17	12	15	12
	MAS（軽症）	1	3	5	5	3
	不明感染症	13	13	7	10	8
	GBS感染	-	1	-	-	1

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
内 訳	染色体異常 形態異常症候群	1	3	-	-	-
	ダウン症候群	1	2	-	-	-
	代謝内分泌	-	-	10	16	7
	低血糖症	-	-	10	16	7
内 訳	その他	20	29	35	58	53
	特発性黄疸	14	17	12	11	17
	仮死	6	9	5	10	8
	高インスリン血症性血糖症	-	3	-	-	0
	低体重	-	-	5	18	15
	多発小形態異常	-	-	1	-	0
	頻脈	-	-	1	-	0
	哺乳不良	-	-	5	7	0
	無呼吸発作	-	-	2	8	0
	血小板減少	-	-	1	-	0
	早期産	-	-	3	4	12
	先天性水腎症	-	-	-	-	1

3 出生週数 (例)

当院小児科では、在胎35週以上または出生体重2,000g以上を受け入れ基準としている。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
26週	1	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	1	-	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	2	-	-	-	-	-
34週	1	-	1	4	-	1	1	-	-
35週	9	11	6	3	4	3	3	-	3
36週	5	9	7	11	12	4	10	4	9
37週以上	109	114	110	91	52	84	59	77	61

4 出生時体重（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500g未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	1	-	-	-	-	-	-	-	1
1,500-1,749g	1	-	-	2	-	-	1	-	-
1,750-1,999g	5	4	3	4	2	1	1	3	1
2,000-2,249g	8	5	10	7	4	6	6	5	9
2,250-2,499g	15	18	16	11	8	13	5	10	4
2,500g以上	95	107	95	85	54	72	60	63	58

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸のほとんどは経鼻的持続陽圧換気（CPAP）であった。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
入院数（例）	126	134	124	111	68	92	73	81	73
人工呼吸器管理症例数（例）	-	-	-	4	2	-	6	7	11
人工呼吸器管理症例率（％）	-	-	-	4	3	-	8.2	8.2	15.1

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

該当なし

7 血液浄化症例

該当なし

8 出生週数別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）
34週	-（-／-）	100.0（1／1）	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）
35週	100.0（4／4）	100.0（3／3）	100.0（3／3）	-（-／-）	100.0（3／3）
36週	100.0（12／12）	100.0（4／4）	100.0（10／10）	100.0（4／4）	88.9（8／9）
37週以上	100.0（52／52）	98.8（83／84）	100.0（59／59）	100.0（77／77）	100.0（61／61）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢 28 日以後の生存率（％）

	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）
1,250-1,499g	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	-（-／-）	100.0（1／1）
1,500-1,749g	-（-／-）	-（-／-）	100.0（1／1）	-（-／-）	-（-／-）
1,750-1,999g	100.0（2／2）	100.0（1／1）	100.0（1／1）	100.0（3／3）	100.0（1／1）
2,000-2,249g	100.0（4／4）	100.0（6／6）	100.0（6／6）	100.0（5／5）	100.0（9／9）
2,250-2,499g	100.0（8／8）	100.0（13／13）	100.0（5／5）	100.0（10／10）	100.0（4／4）
2,500g以上	100.0（54／54）	98.6（71／72）	100.0（60／60）	100.0（63／63）	98.3（57／58）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
早期新生児死亡数（日齢 7 日未満の死亡）	1	-	-	-	-	-	1	-	1
後期新生児死亡数（日齢 7 日以上、日齢 28 日未満の死亡）	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1 1 死亡例一覧

出生体重	出生週数	死亡日齢	病名
2,750-2,999g	36週	0-7日	重症仮死（常位胎盤早期剥離で出生時）

1 2 新生児搬送収容数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
新生児搬送収容数	22	9	10	4	1	1	3	3	-

1 3 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

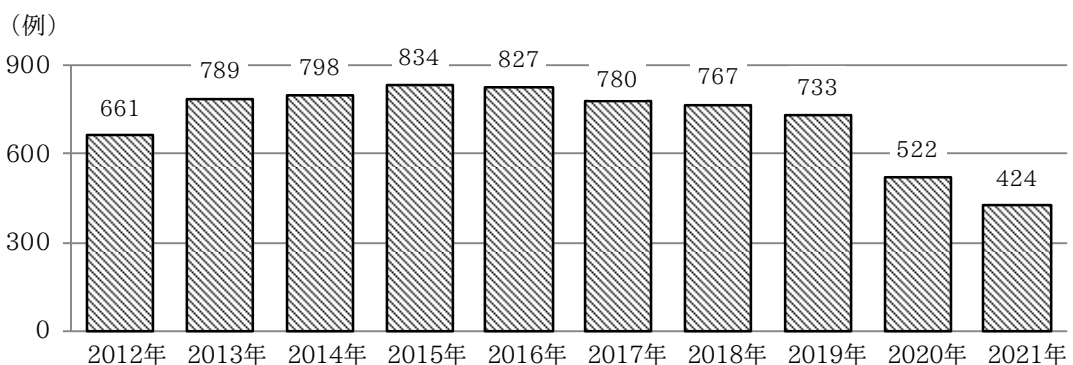
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
呼吸器疾患	1	-	1	-	-
呼吸障害	1	-	1	-	-
心・循環器疾患	-	-	1	-	-
不整脈	-	-	1	-	-
その他	-	1	-	3	-
内訳					
チアノーゼ	-	1	-	-	-
低出生体重児（双生児）	-	-	-	1	-
口唇口蓋裂	-	-	-	1	-
自宅出産	-	-	-	1	-

第6節 県内分娩取扱病院

第1項 市立奈良病院

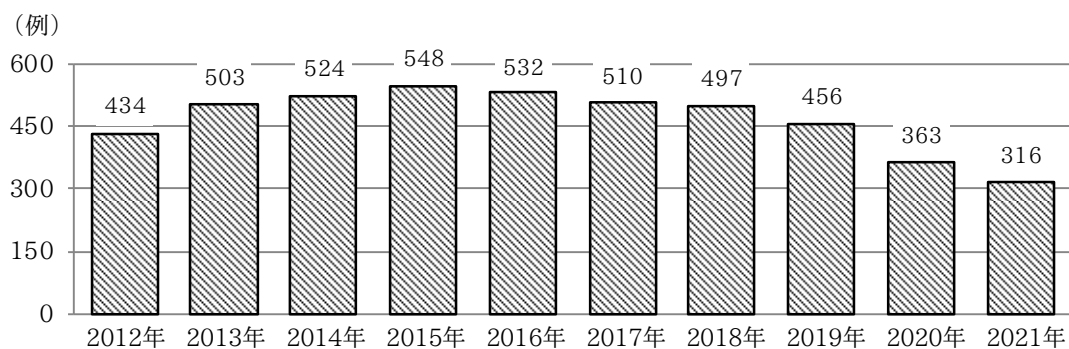
1 入院数

本年も、当院は積極的に COVID-19 患者に対応し、面会謝絶が継続され、立ち会い分娩も禁止したままとなった。そのため、分娩数は減少し、入院数も減少した。



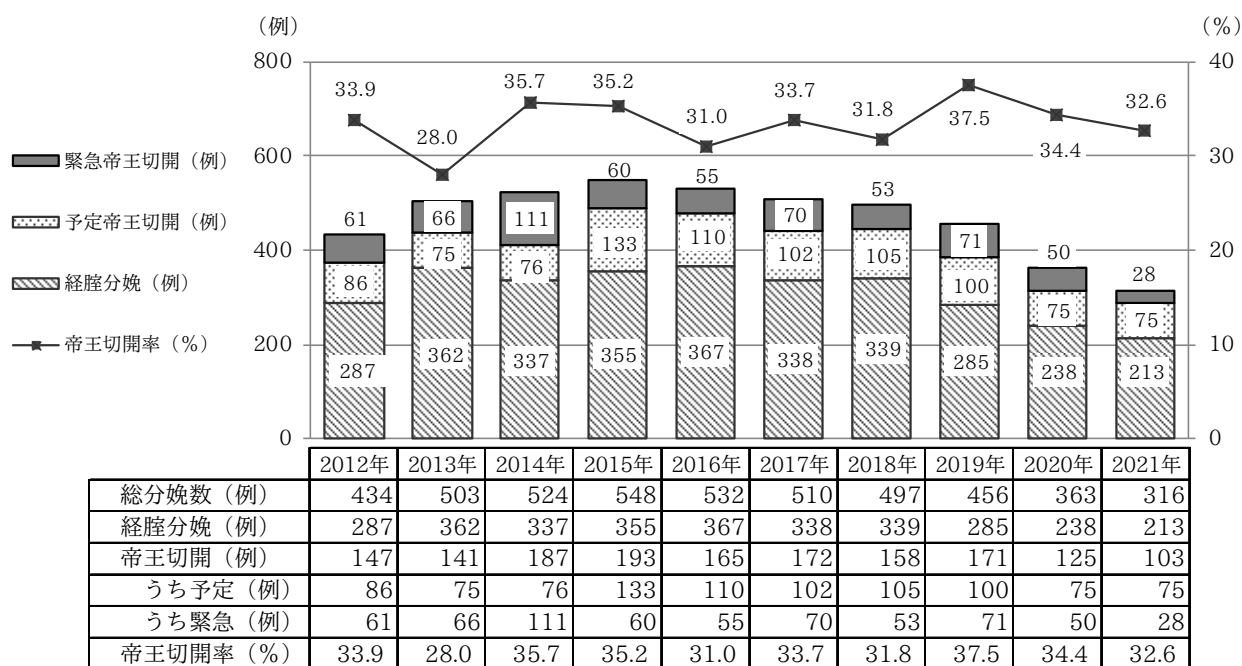
2 分娩数

奈良県内の出生数は毎年、一定の割合で減少し続けているが、本年も当院の分娩数はその割合よりも大幅な減少となった。COVID-19 患者の対応病院であることから、妊婦に忌避された影響が大きかったのではと考えている。ただし、ハイリスク分娩となる 35 歳以上の高齢妊婦は増加した。



3 分娩様式

大きな変化はなかった。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35週	1	1	3	-	-	3	-	-	1	-
36週	14	13	25	17	24	18	21	18	14	11
37週	44	46	52	70	65	63	62	52	30	49
38週	121	140	132	157	145	146	129	150	114	101
39週	125	132	142	137	158	124	137	115	106	76
40週	96	128	113	136	115	125	99	100	70	67
41週	27	40	39	30	24	28	42	23	30	12
42週以上	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

大きな変化はなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,500-1,999g	-	-	1	2	1	1	1	2	-	-
2,000-2,499g	20	35	26	34	32	35	33	31	28	22
2,500g以上	410	466	485	511	497	472	456	425	337	294

6 出産時年齢（例）

35歳以上の高齢妊婦の分娩数は前年より増加した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	324	391	383	394	395	373	368	321	263	212
35-39歳	85	89	108	121	112	107	100	116	76	79
40-44歳	21	21	23	33	25	28	27	19	22	24
45歳以上	-	-	1	-	-	2	2	-	2	1

7 合併症妊娠（例）

大きな変化はなかった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	8	7	25	20	23	26	14	25	14	9
子宮筋腫（核出術後）	-	-	5	2	-	-	-	1	1	5
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	1	9	11	11	6	11	8	8	3
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	1	1	8	-	2	3	10	10	8
子宮形態異常	-	-	-	2	4	1	5	3	-	1
甲状腺機能亢進症	1	2	6	5	4	3	5	5	5	5
甲状腺機能低下症	1	2	8	7	9	10	8	13	8	3
糖尿病（含GDM）	5	5	10	19	16	30	17	17	13	15
喘息	5	1	12	11	23	9	15	14	18	13
慢性腎炎	-	-	-	1	6	-	2	1	1	2
本態性高血圧	1	-	2	3	1	3	1	1	-	1
自己免疫疾患	-	-	-	2	3	1	2	1	1	1
循環器疾患	1	-	1	2	3	2	2	6	1	3
精神科疾患（含てんかん）	-	1	7	6	2	11	8	6	5	6
ウイルス性肝炎（※1）	-	2	3	1	3	-	1	1	1	3
消化器疾患（※2）	1	-	1	3	4	-	5	7	2	3
その他	-	-	-	-	4	-	-	40	18	7

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

本年より胎児発育不全の定義を胎内診断に限ったため、数が減少した。また、HELLP 症候群は産褥期の発症であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	58	73	63	61	205	201	272	231	109	44
妊娠高血圧症候群	10	13	28	16	9	9	18	27	12	13
胎児発育不全	11	28	18	19	24	35	28	27	11	2
多胎妊娠	-	-	-	1	3	2	2	2	2	1
前置胎盤	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-
産後出血（※3）	17	26	14	12	-	16	34	17	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	10	10	33	14	13	49
常位胎盤早期剥離	1	-	2	1	-	2	1	5	2	2
HELLP症候群	-	-	4	-	-	1	-	3	-	1
低置胎盤	-	-	1	3	1	-	-	1	2	2
血液型不適合	-	-	7	6	11	4	3	3	1	2
羊水過多	-	-	-	1	2	-	1	-	1	-
羊水過少	-	-	5	6	6	1	3	8	4	4
先天異常	-	-	1	1	6	3	1	-	-	-
その他	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

帝王切開創部妊娠に対して子宮動脈塞栓術を施行した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	5	2	8	6	14	5	5	4	8	3
卵巢嚢腫（腫瘍）摘出術	3	1	-	1	-	-	2	2	2	1
産道血腫除去術	2	1	1	2	-	3	-	-	2	1
子宮動脈塞栓術	1	-	2	1	-	1	2	5	1	1
子宮摘出術	-	-	-	1	-	-	-	1	2	-

10 輸血治療症例（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	2	2	2	3	1	3	2	4	2	-

11 多胎妊娠（例）

分娩様式はすべて予定帝王切開であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	-	-	-	1	3	2	2	2	2	1
うちMD（※1）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	-	-	-	1	3	2	2	2	2	1

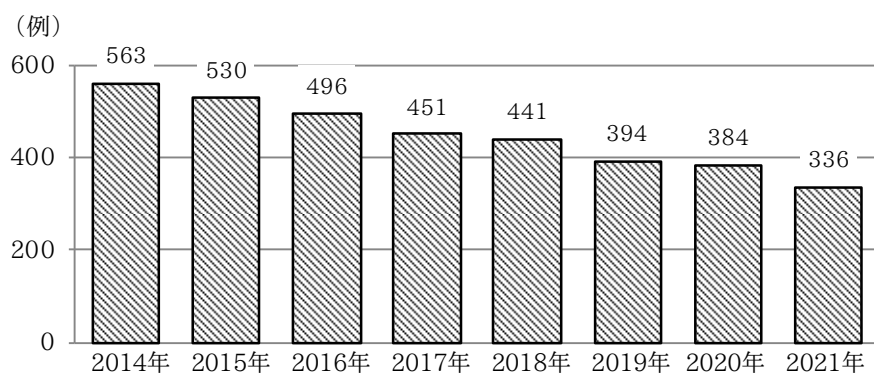
※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

12 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-
心室中隔欠損	2	-	-	-

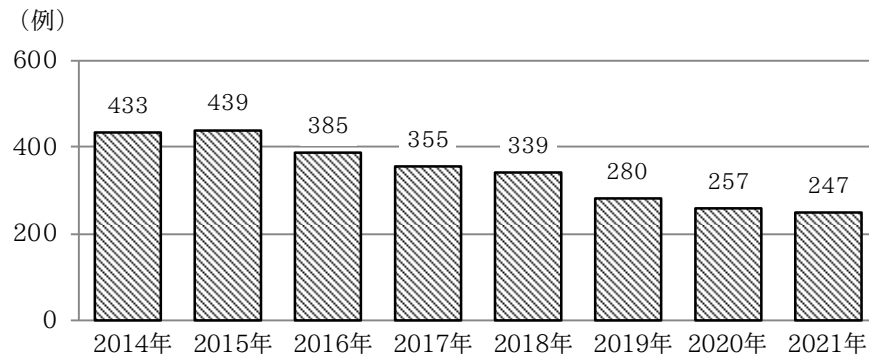
第2項 大和郡山病院

1 入院数



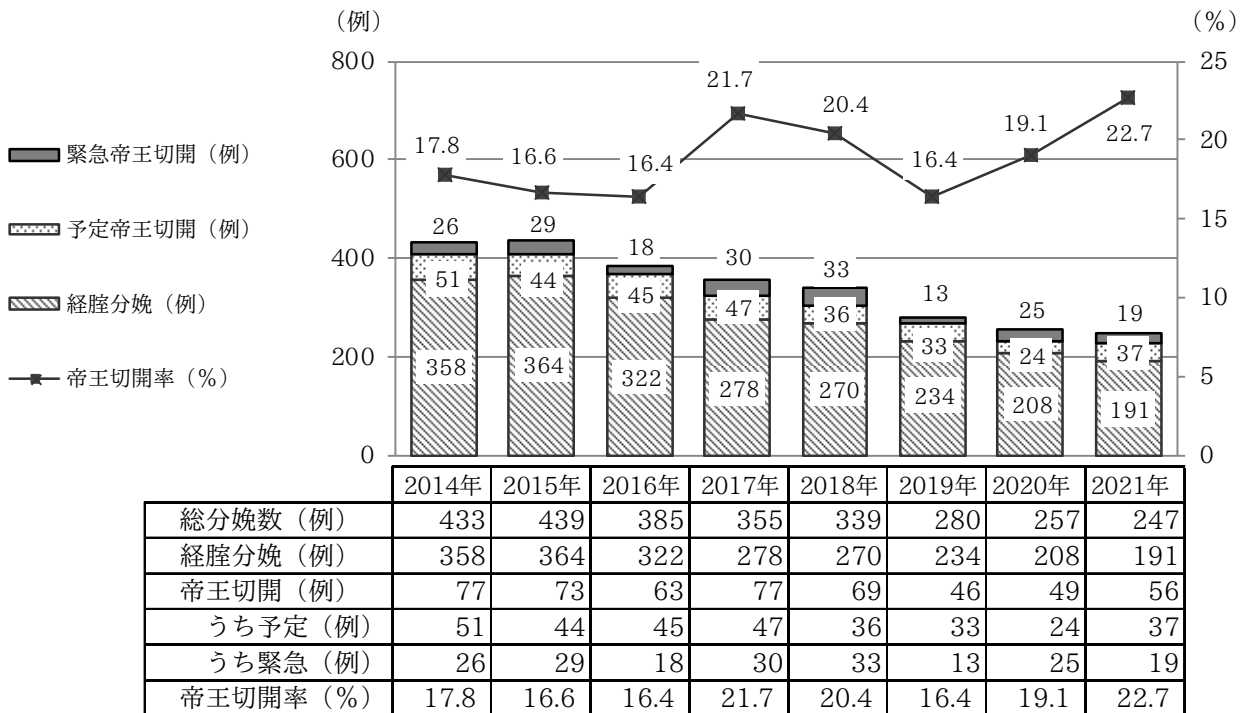
2 分娩数

本年4月にCOVID-19の院内発生があり診療制限、自院患者の分娩中止等があったが、前年とほぼ同数であった。



3 分娩様式

帝王切開率はほぼ変化がなかった。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

ほぼ例年と同様であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35週	1	3	2	3	3	1	1	2
36週	7	3	6	9	5	4	6	5
37週	45	44	42	33	38	25	28	20
38週	102	88	81	90	73	65	56	62
39週	120	131	125	102	113	82	71	63
40週	131	117	97	99	79	83	78	79
41週	29	39	28	16	27	17	17	15
42週以上	-	-	1	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,500-1,999g	2	1	1	1	1	-	1	1
2,000-2,499g	26	22	27	21	20	8	14	11
2,500g以上	407	402	356	330	317	269	242	234

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	326	308	292	241	249	202	189	174
35-39歳	96	98	74	94	79	64	53	59
40-44歳	18	23	19	17	10	14	14	14
45歳以上	-	-	-	-	1	-	1	-

7 合併症妊娠（例）

ほぼ例年と同様であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	3	2	2	4	12	2	2	2
子宮筋腫（核出術後）	2	6	-	1	3	-	2	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	2	-	-	-	-	2	-	-
子宮形態異常	-	-	-	-	1	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	2	-	1	-	3	2
甲状腺機能低下症	2	1	1	3	1	3	2	3
糖尿病（含GDM）	3	1	2	2	3	4	7	9
喘息	4	2	3	2	5	1	2	1
本態性高血圧	1	1	-	-	-	-	-	1
自己免疫疾患	-	-	-	-	-	-	1	-
循環器疾患	-	-	1	-	-	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	2	2	1	-	1	1
ウイルス性肝炎（※1）	-	1	-	-	-	-	-	1
消化器疾患（※2）	1	3	4	4	10	1	3	2

※1 HA,HB,HCなど／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	104	99	107	93	76	38	23	21
妊娠高血圧症候群	7	11	15	18	15	17	8	11
胎児発育不全	5	3	4	6	3	3	2	3
多胎妊娠	2	2	2	2	1	1	1	-
前置胎盤	-	1	-	-	-	1	-	2
産後出血（※3）	3	-	2	-	6	1	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	70	56	45	10	23	12
常位胎盤早期剥離	1	-	1	1	-	-	1	-
HELLP症候群	-	1	-	5	1	1	6	-
低置胎盤	-	1	1	-	1	1	-	2
血液型不適合	5	1	2	1	1	-	-	-
羊水過少	-	-	-	-	-	4	1	4
先天異常	-	5	5	2	2	-	-	1

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	7	3	5	3	1	-	2	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	2	-	-	1	4	2	1	-
産道血腫除去術	2	1	-	-	1	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	1	-	2	-	3	2	2	1

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	2	1	-	-
うちMD（※1）	1	-	-	-
うちDD（※2）	1	1	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

12 先天異常（例、重複あり）

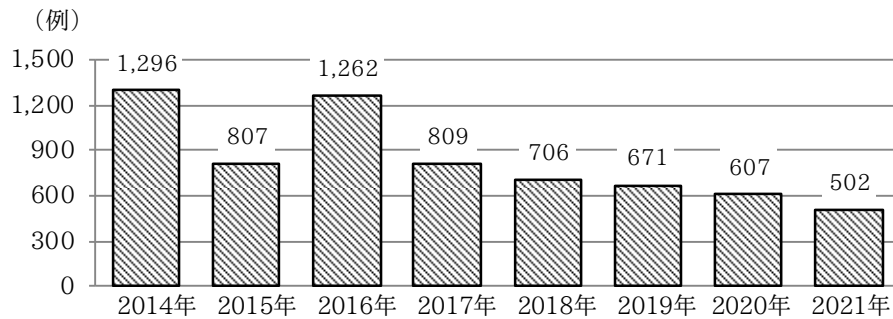
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	2	2	-	-	-	-	2	-
心室中隔欠損	-	-	-	-	2	-	1	-
水腎症	-	-	-	-	1	-	1	1

（※2018年より新規集計）

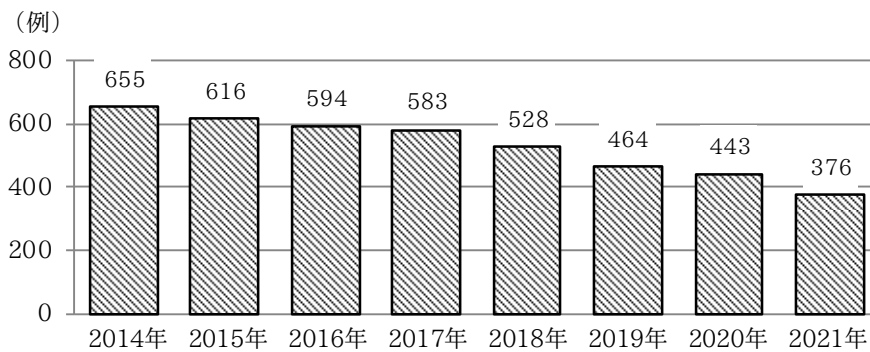
第3項 大和高田市立病院

入院数・分娩件数ともに減少した。

1 入院数

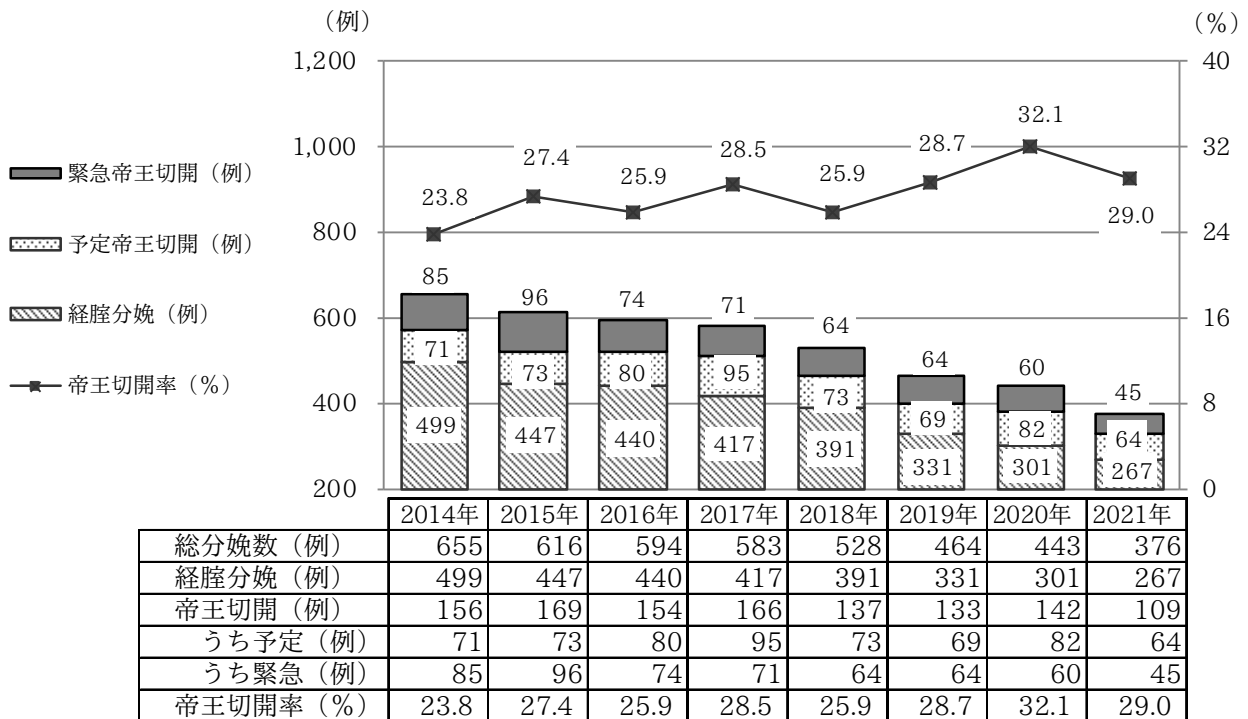


2 分娩数



3 分娩様式

帝王切開率はほぼ変化はなかった。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

42 週以上での出産が 1 例あった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
28週	-	-	-	-	-	-	1	-
29週	-	-	-	-	-	-	1	-
30週	-	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	1	-	-
35週	3	2	5	3	-	2	3	2
36週	23	14	17	15	21	22	12	9
37週	63	61	56	70	53	45	59	57
38週	166	138	134	136	115	115	100	84
39週	205	172	180	174	156	135	120	102
40週	172	193	167	155	143	115	126	108
41週	22	30	35	30	40	29	21	13
42週以上	-	-	-	-	-	-	-	1

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
500-999g	-	-	-	-	-	-	1	-
1,000-1,499g	-	-	-	-	-	-	1	-
1,500-1,999g	1	-	1	-	1	1	2	4
2,000-2,499g	65	51	34	40	35	33	26	26
2,500g以上	588	563	559	545	492	430	413	346

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	507	475	471	430	400	362	344	267
35-39歳	120	116	99	120	103	84	78	87
40-44歳	27	24	22	33	25	18	20	21
45歳以上	-	1	2	-	-	-	1	1

7 合併症妊娠（例）

合併症等もほぼ変化はなかった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	5	4	8	7	-	1	1	2
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	-	1	3	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	8	3	5	6	36	3	3
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	-	4	2	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	2	-	5	1	2	1	2	1
甲状腺機能低下症	4	-	4	5	-	-	1	1
糖尿病（含GDM）	18	9	10	7	10	14	9	7
喘息	4	2	3	3	-	-	1	2
慢性腎炎	2	-	-	2	-	1	-	2
本態性高血圧	-	-	-	-	-	17	2	-
ITP	-	-	-	-	-	1	1	-
自己免疫疾患	-	-	2	3	1	3	6	-
循環器疾患	-	2	2	2	5	-	7	2
精神科疾患（含てんかん）	1	-	2	1	1	2	-	-
ウイルス性肝炎（※1）	4	2	2	-	-	-	-	-
消化器疾患（※2）	3	1	4	5	4	40	3	5

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

件数にほぼ変化はなかった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	41	65	76	103	98	12	6	7
妊娠高血圧症候群	12	21	7	22	19	21	22	31
胎児発育不全	10	8	1	1	3	8	5	1
多胎妊娠	4	4	2	2	1	-	-	1
前置胎盤	2	1	1	2	-	1	-	-
産後出血（※3）	40	29	8	10	10	-	-	-
子癇	-	-	-	-	3	2	4	7
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	3	1	111	97
常位胎盤早期剥離	5	3	2	1	4	1	2	1
HELLP症候群	-	-	-	-	-	-	-	1
低置胎盤	2	2	-	-	-	1	-	2
血液型不適合	4	-	4	3	1	-	-	-
羊水過多	-	-	-	1	1	8	-	-
羊水過少	4	1	-	-	-	1	3	1
先天異常	1	1	2	-	1	1	2	1

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	2	2	1	55	1	3
産道血腫除去術	-	2	-	2	-	-	1	1
子宮摘出術	-	-	-	-	-	1	-	2

1 0 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	2	4	1	5	2	6	1	1

1 1 多胎妊娠（例）

双胎が1件あった。

	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	1	-	-	1
うちMD（※1）	-	-	-	-
うちDD（※2）	1	-	-	1

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

（※2018年より新規集計）

1 2 母体搬送収容数（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年
母体搬送収容数	-	1	1	-

（※2018年より新規集計）

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	-	1	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期

1 4 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
脳室拡大	1	1	-	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	5	-	-	-	-	-	1	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	1	2	1	2	1
水腎症	1	-	-	-	-	-	-	-
血管腫	6	-	-	-	-	-	-	-

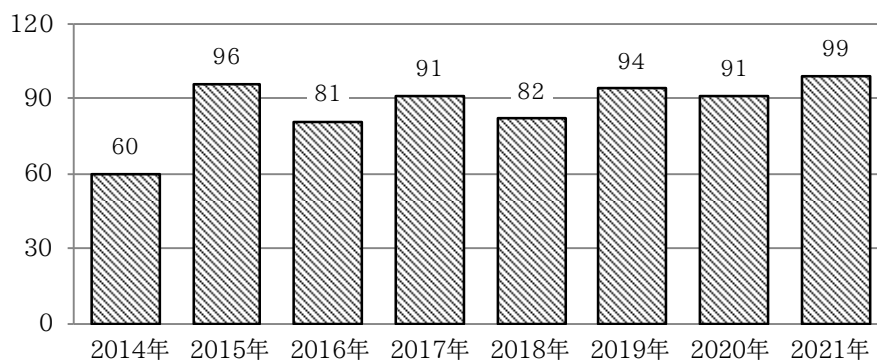
（※2018年より新規集計）

第4項 高井病院

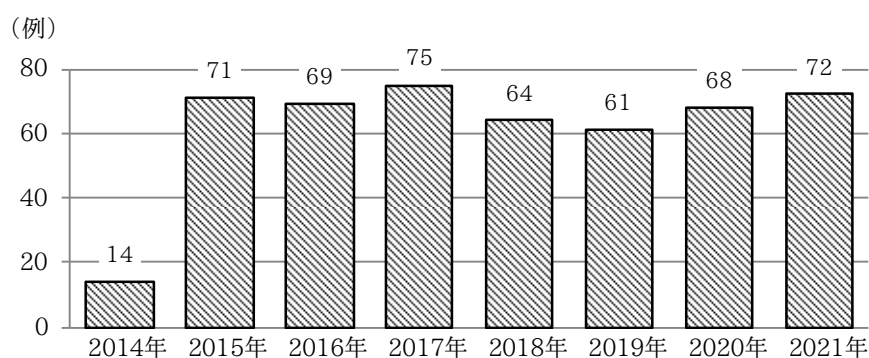
1 入院数

入院数、分娩数ともに大きな変化はなかった。

（例）

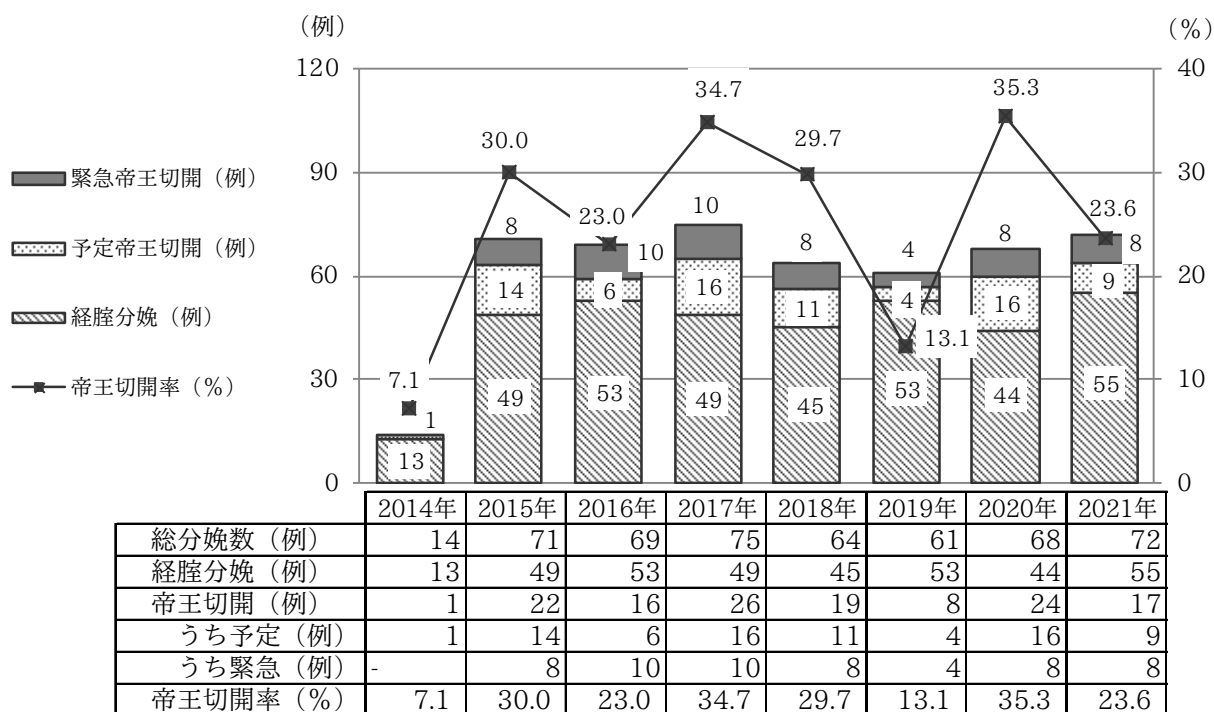


2 分娩数



3 分娩様式

反復帝王切開や骨盤位などの予定帝王切開が少なかったため、帝王切開率が前年より減少した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
31週	-	-	-	1	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	-	-	-
35週	-	1	-	2	2	-	-	-
36週	-	2	2	1	-	2	-	2
37週	1	12	5	11	12	4	6	12
38週	7	13	12	14	22	15	23	17
39週	1	16	19	24	9	15	19	16
40週	3	21	20	18	14	18	13	20
41週	2	5	11	4	5	7	7	5

5 出生体重（例、死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-	1	-
2,000-2,499g	-	7	4	7	5	3	-	7
2,500g以上	14	63	65	67	59	58	67	65

6 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	10	59	55	59	50	52	52	54
35-39歳	3	11	12	14	12	8	13	18
40-44歳	1	1	2	2	2	1	3	-

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	-	-	-	3	-	2	1	-
子宮筋腫（核出術後）	-	-	-	-	1	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	2	1	2	-	-	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	-	2	-	-	-
子宮形態異常	-	-	1	-	-	1	-	1
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1	-	-	-
糖尿病（含GDM）	-	-	-	-	-	2	2	2
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	-	1	-	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	-	7	10	9	5	11	4	6
妊娠高血圧症候群	-	1	3	4	2	-	-	1
胎児発育不全	-	1	1	2	-	-	1	2
多胎妊娠	-	-	-	1	-	-	-	-
産後出血（※3）	-	-	-	5	-	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	-	11	10	8
常位胎盤早期剥離	-	-	-	1	-	-	-	-
低置胎盤	-	-	1	-	-	1	-	-
血液型不適合	-	-	-	2	1	1	1	-
先天異常	-	-	-	2	-	1	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	-	-	-	-	-	-	-
子宮摘出術	5	-	-	-	1	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	-	-	-	-	1	-	-	-

11 多胎妊娠（例）

該当なし

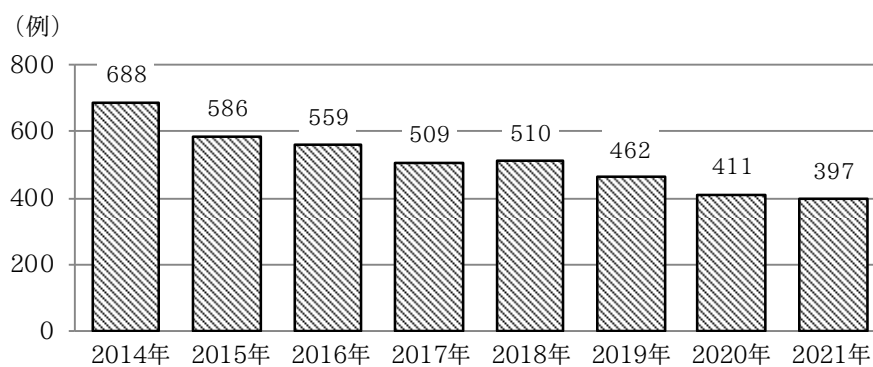
1 2 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	1	-	-	-	-

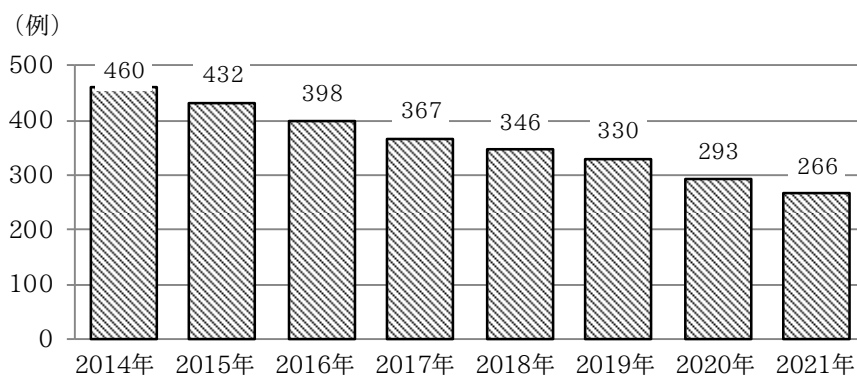
（※2018年より新規集計）

第5項 桜井病院

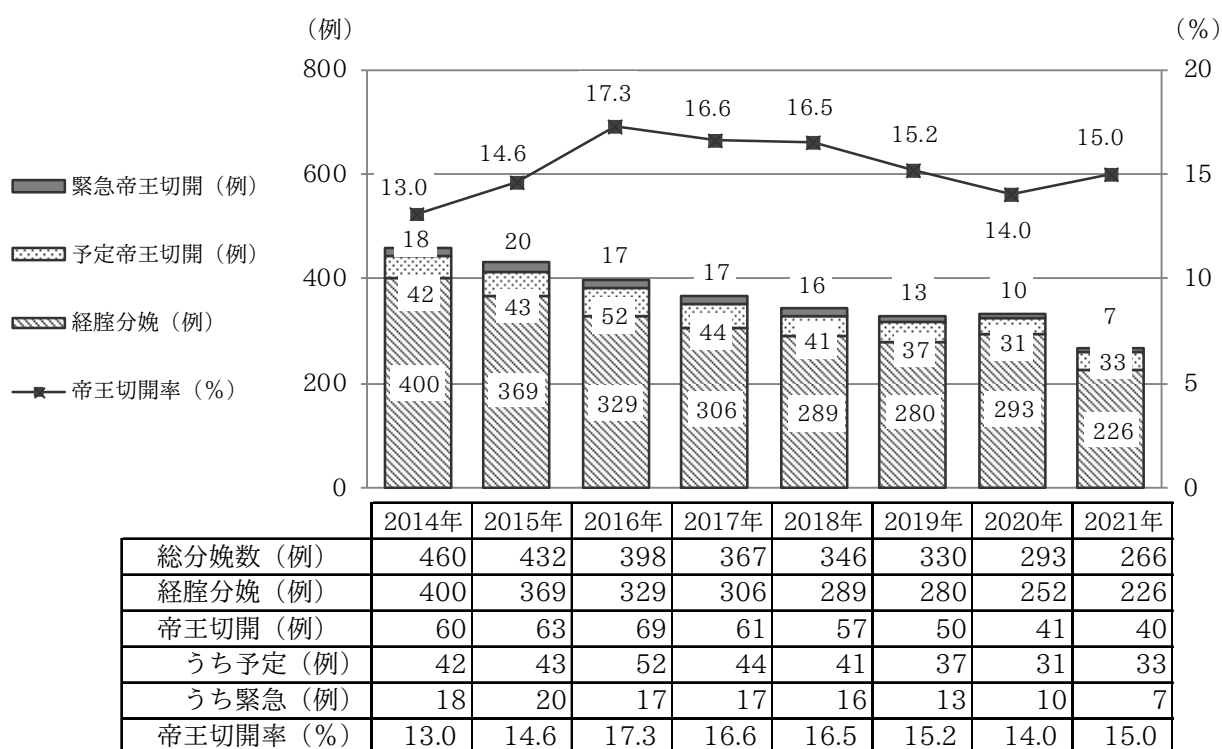
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
34週	-	1	-	-	-	-	-	-
35週	-	-	-	-	-	-	-	-
36週	7	5	4	5	3	4	2	2
37週	68	62	80	63	54	60	50	37
38週	70	74	65	66	46	65	40	51
39週	123	145	129	113	116	83	77	67
40週	144	102	88	89	95	87	91	74
41週	48	42	30	31	31	31	33	34
42週以上	-	1	-	-	1	-	-	1

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,500-1,999g	-	-	-	-	-	1	-	-
2,000-2,499g	17	17	23	13	19	28	17	21
2,500g以上	443	415	373	354	327	301	276	245

6 出産時年齢 (例)

35歳未満のうち、20歳未満に当たる若年妊婦は1名であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	360	344	304	278	266	256	240	210
35-39歳	87	78	83	78	66	61	49	47
40-44歳	13	10	9	11	14	13	4	9
45歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	9	10	4	5	6	9	9	11
子宮筋腫（核出術後）	-	1	-	2	2	2	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	3	6	10	1	8	4	5	4
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	2	1	-	1	1	-	-
子宮形態異常	-	-	-	-	-	1	1	-
甲状腺機能亢進症	4	4	-	3	2	5	4	1
甲状腺機能低下症	5	7	10	12	16	6	10	9
糖尿病（含GDM）	3	3	4	5	4	5	8	4
喘息	2	-	1	2	3	8	4	4
本態性高血圧	-	-	-	-	1	-	-	-
自己免疫疾患	-	-	-	-	-	-	-	1
循環器疾患	-	-	-	-	3	1	5	2
精神科疾患（含てんかん）	1	-	4	2	1	-	3	1
ウイルス性肝炎（※1）	2	-	-	1	-	1	-	-
消化器疾患（※2）	1	-	2	1	1	1	-	1
その他	12	-	4	5	-	10	9	4

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

弛緩出血 6 例の内 1 例は ART による妊娠で、癒着胎盤により 1,600ml 以上の出血を認めた。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	7	3	5	4	1	67	57	63
妊娠高血圧症候群	5	3	1	5	8	3	4	1
胎児発育不全	6	-	-	-	-	1	2	-
産後出血（※3）	8	11	4	4	1	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1
弛緩出血（※4）	-	-	4	4	6	-	4	6
常位胎盤早期剥離	5	5	1	2	1	-	1	-
低置胎盤	1	4	1	2	1	-	2	7
血液型不適合	-	6	3	2	3	3	5	2
先天異常	5	8	7	2	8	4	7	1
その他	-	-	-	1	6	3	4	-

※1 入院のみ、2014年～2018年は未集計／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	-	1	-	-	2	1	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	10	-	-	2	-	-	-
その他	-	-	-	-	2	1	-	-

10 輸血治療症例（例）

該当なし

11 多胎妊娠（例）

該当なし

1 2 先天異常（例、重複あり）

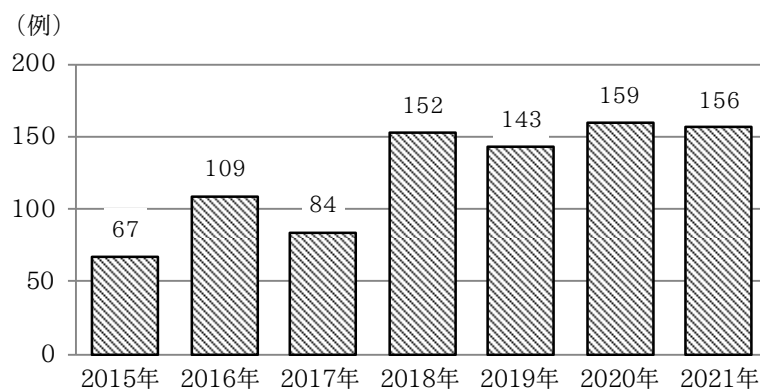
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	1	-	2	-
心室中隔欠損	-	-	2	2	1	1	-	-
ファロー四徴症	-	-	1	-	-	-	-	-
水腎症	8	8	2	2	1	2	1	1
内臓錯位	-	-	-	-	1	1	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	-	-	1	1	-	-
肺動狭窄	-	-	-	-	1	-	-	-
肛門ポリープ	-	-	-	-	1	-	-	-

（※2018年より新規集計）

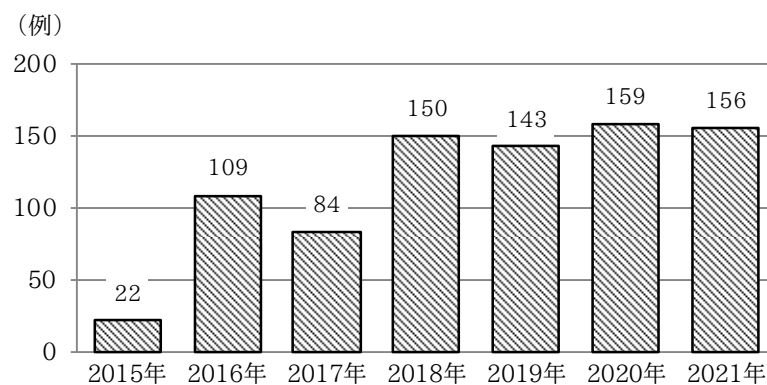
第6項 生駒市立病院

※2015年については、2015.6.1（開設日）～2015.12.31の期間で集計している。

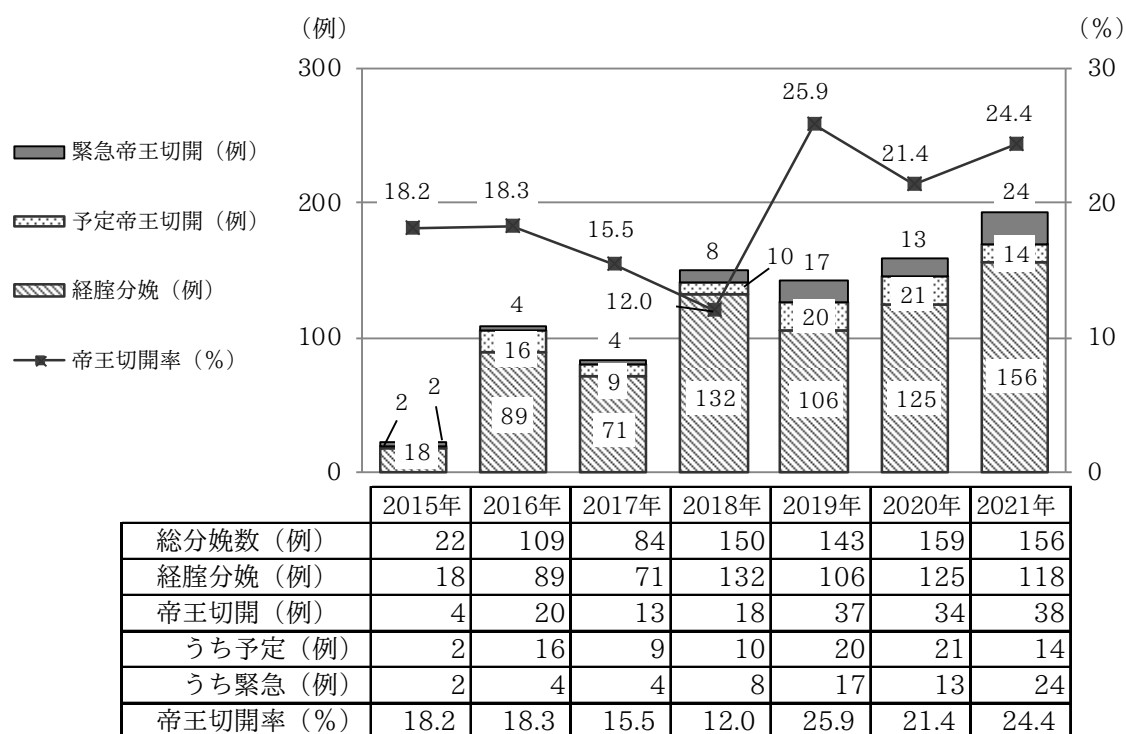
1 入院数



2 分娩数



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

原則として 35 週以前の早産は NICU のある施設に搬送している。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35週	-	-	-	1	-	-	1
36週	-	1	-	11	1	1	-
37週	-	6	8	8	14	12	7
38週	9	31	14	30	28	32	39
39週	8	28	30	42	35	52	40
40週	4	33	26	47	55	52	53
41週	1	10	6	11	9	11	15
42週以上	-	-	-	-	1	-	1

5 出生体重 (例、死産児は除く)

原則として 2,000 g 未満の児が出生することが予測される際には高次施設に母体搬送している。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-	1
2,000-2,499g	1	3	2	13	12	8	6
2,500g以上	21	106	81	136	131	152	149

6 出産時年齢 (例)

出産の高年齢化が進んでいる。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	15	67	50	101	131	113	103
35-39歳	4	35	23	39	10	35	39
40-44歳	3	7	10	10	2	11	13
45歳以上	-	-	1	-	-	-	1

7 合併症妊娠（例）

妊娠 26 週でブドウ糖付加検査を行い、陽性の場合は空腹時経口 75g ブドウ糖付加検査を行っている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	-	1	-	7	2	4	1
子宮筋腫（核出術後）	-	2	2	2	4	1	3
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	-	3	3
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	1	-	9	2
子宮形態異常	-	-	-	-	-	-	1
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1	-	-	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	1	5	3
糖尿病（含GDM）	-	1	3	4	7	12	6
喘息	-	-	3	2	2	3	5
本態性高血圧	-	-	-	1	-	-	-
自己免疫疾患	-	-	-	1	-	-	1
循環器疾患	-	-	-	-	-	-	2
精神科疾患（含てんかん）	-	-	1	-	-	2	1
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	-	-	1	-	-
消化器疾患（※2）	-	-	2	-	-	1	-
その他	-	-	2	1	1	1	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

リスクのある妊婦が多くなり、他科と連携し診療した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	1	3	2	2	-	-	1
妊娠高血圧症候群	1	2	3	4	4	19	7
胎児発育不全	-	-	1	-	-	1	-
多胎妊娠	-	-	-	-	1	1	-
前置胎盤	1	1	1	-	2	2	1
産後出血（※3）	-	1	-	-	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	1	7	5	5
低置胎盤	-	-	-	1	-	-	-
血液型不適合	-	-	-	1	-	2	-
羊水過多	-	7	-	-	-	-	-
羊水過少	-	8	-	-	-	-	-
先天異常	-	1	-	-	1	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	1

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量 800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

帝王切開後に腹腔内出血のため開腹手術を実施し、腹壁動脈性出血（輸血実施）が認められた。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	-	-	-	-	1	1	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	6	10	11	-	-	-
子宮摘出術	7	3	11	6	-	-	-
その他	-	-	31	32	2	-	1

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	-	-	2	-	3	1	2

1 1 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	-	1	1	-
うちMD（※1）	-	-	-	-
うちDD（※2）	-	1	1	-
うち不明	-	-	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

1 2 母体搬送収容数（例）

	2020年	2021年
母体搬送収容数	1	-

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年	2021年
切迫早産（入院のみ）・ 前期破水（早産期）	1	-

※1 入院のみ／※2 早産期

1 4 先天異常（例、重複あり）

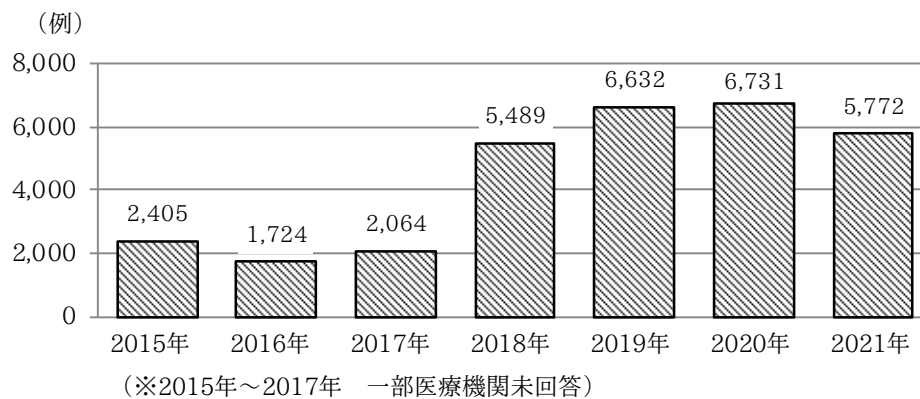
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	-	-	-	-	-

（※2018年より新規集計）

第7節 県内分娩取扱診療所

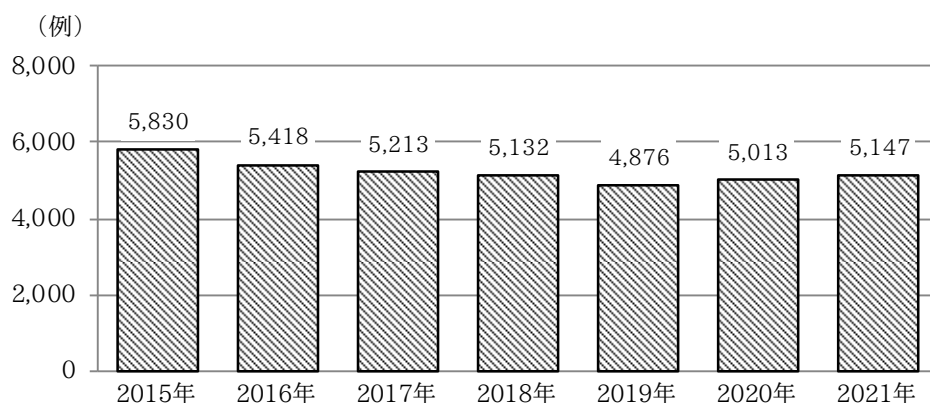
1 入院数

入院数は5,772例で前年より約1,000例減少した。



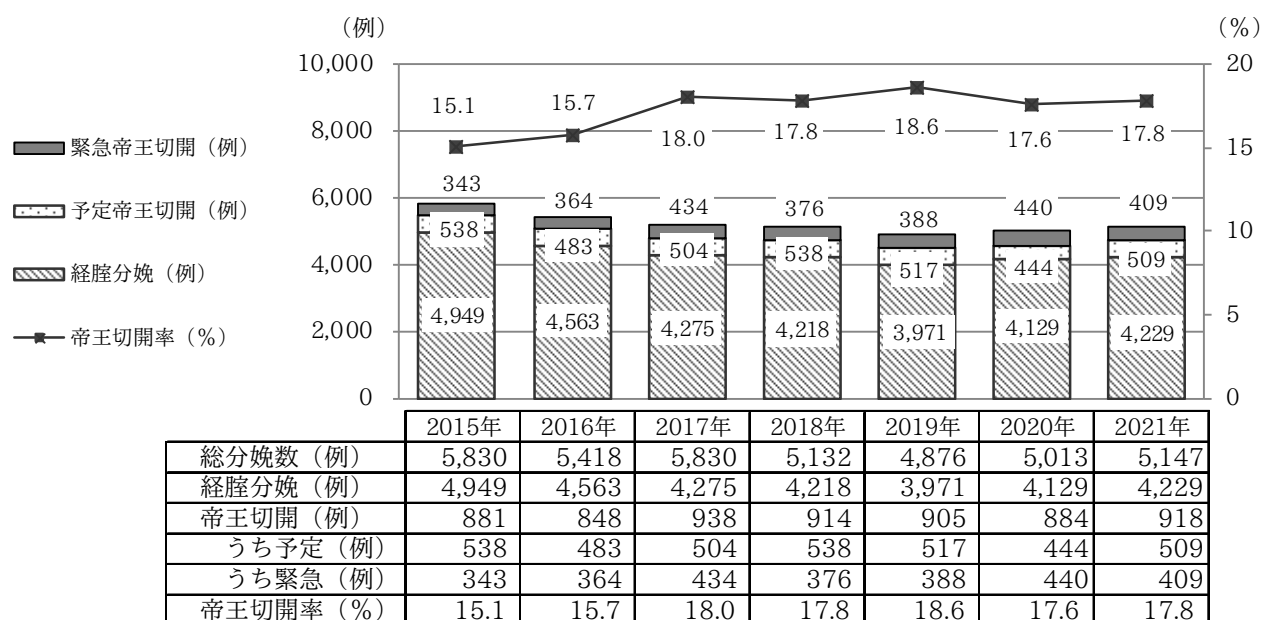
2 分娩数

分娩数は2015年から漸減していたが、前年比では本年は前年に引き続き増加した。



3 分娩様式

分娩様式の比率は例年と同様であった。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

突発的な早産分娩の症例を数例認めるが、概ね正期産症例が多数を占め、内訳は例年と同様であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
27週	-	-	-	-	1	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	1	-
30週	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	1	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	1	1
33週	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	3	1	1	1
35週未満	3	3	-	-	-	-	-

次ページへ続く

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35週	15	14	12	11	9	16	26
36週	98	89	94	91	94	77	124
37週	458	438	414	401	323	412	407
38週	1,172	1,133	1,203	1,016	1,101	1,127	1,146
39週	1,800	1,714	1,610	1,591	1,508	1,620	1,634
40週	1,660	1,513	1,384	1,467	1,398	1,348	1,350
41週	536	489	447	513	405	404	426
42週以上	31	12	26	24	15	8	14

(※2017年までは、35週未満はまとめて集計)

5 出生体重（例、死産児は除く）

出生体重は例年と同様であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,000-1,499g	-	-	-	-	1	-	-
1,500-1,999g	10	2	6	8	5	5	7
2,000-2,499g	280	244	247	250	198	225	226
2,500g以上	5,163	5,162	4,942	4,860	4,645	4,785	4,896

6 出産時年齢（例）

出産時年齢は例年と同様であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	4,118	4,043	3,877	3,832	3,633	3,853	3,839
35-39歳	1,158	1,171	1,099	1,089	1,016	1,003	1,118
40-44歳	180	207	226	210	223	159	189
45歳以上	2	-	6	1	4	4	1

(※2020年は死産6例を含む)

7 合併症妊娠（例）

子宮筋腫症例は前年より増加し、2019年以前と同程度となった。そのほかの合併症妊娠の内訳は例年と同様であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	58	103	47	73	92	38	90
子宮筋腫（核出術後）	18	18	12	10	17	6	6
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	20	19	21	18	15	14
子宮頸癌（含円錐切除後）	13	14	10	10	9	12	8
子宮形態異常	3	7	1	3	3	2	-
甲状腺機能亢進症	13	12	13	10	15	17	16
甲状腺機能低下症	21	22	28	34	29	41	31
糖尿病（含GDM）	9	20	40	18	18	22	15
喘息	27	28	46	56	41	52	48
慢性腎炎	-	-	1	-	-	-	-
本態性高血圧	3	-	-	-	6	-	-
ITP	-	2	1	-	-	-	-
自己免疫疾患	1	-	4	3	2	1	-
循環器疾患	3	-	1	4	2	-	-
精神科疾患（含てんかん）	16	13	5	10	12	7	13
ウイルス性肝炎（※1）	13	9	5	4	2	4	1
消化器疾患（※2）	8	2	6	1	3	11	4
その他	1	1	7	45	16	9	5

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

切迫早産、妊娠高血圧症候群、胎児発育不全は前年より減少した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	268	455	146	242	229	243	188
妊娠高血圧症候群	84	77	55	119	111	100	69
胎児発育不全	41	38	82	30	58	34	12
多胎妊娠	2	4	1	3	3	2	4
前置胎盤	3	2	-	1	-	3	2
産後出血（※3）	168	165	75	117	55	-	-
子癇	-	-	-	1	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	150	107	159	148
常位胎盤早期剥離	8	12	9	20	10	8	6
HELLP症候群	3	1	1	1	3	2	1
低置胎盤	5	17	15	3	8	8	4
血液型不適合	18	14	13	9	8	8	7
羊水過多	11	33	24	15	16	11	17
羊水過少	26	47	38	53	51	34	37
先天異常	24	6	7	36	17	13	15
その他	8	13	2	1	2	4	3

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

例年と概ね同様の産科手術症例を認めた。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮頸管縫縮術	23	4	10	20	28	11	11
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	7	2	1	-	-	1	3
産道血腫除去術	11	6	6	5	7	11	5
子宮動脈塞栓術	-	-	2	-	-	-	-
その他	5	1	-	-	12	-	-

10 輸血治療症例（例）

輸血症例数は前年と同程度であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
輸血治療症例数	14	8	8	7	10	2	3

11 多胎妊娠（例）

多胎妊娠は例年通りごく少数の症例を認めるのみであった。

	2018年	2019年	2020年	2021年
双胎	3	3	2	4
うちMD（※1）	2	-	1	2
うちDD（※2）	1	3	1	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

12 先天異常（例、重複あり）

先天異常症例は例年と同様であった。

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
cystic hygroma	-	-	-	-	-	-	1	-
21トリソミー	4	1	1	1	-	-	2	-
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	6	-	1	-
先天性横隔膜ヘルニア	2	-	2	-	-	-	-	-

次ページへ続く

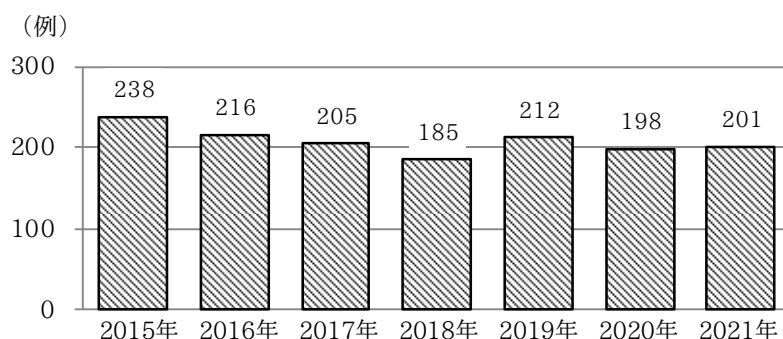
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
心室中隔欠損	6	-	5	-	15	5	3	-
胎児水腫	1	1	1	1	-	-	-	-
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-
無頭蓋症	-	-	-	-	1	1	1	-
尿道下裂	-	-	-	-	4	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	2	-	4	1	2	-	4	3
不整脈	1	-	-	-	-	-	-	-
胸腹水	-	-	-	-	-	-	2	2
無脳症	-	-	-	-	1	-	-	-
ファロー四徴症	1	-	-	-	1	-	-	-
水腎症	-	-	-	-	7	7	10	10
大血管転位	-	-	-	-	-	-	1	-
鎖肛	1	-	-	-	1	-	1	-
卵巣嚢腫	2	2	-	-	-	-	-	-
尿道閉鎖	1	-	2	-	-	-	-	-
大動脈離断症	-	-	1	1	-	-	-	-
血管腫	13	-	1	-	-	-	-	-
肺動脈狭窄症	-	-	-	-	-	-	1	-

(※2018年より新規集計)

第8節 県内分娩取扱助産所

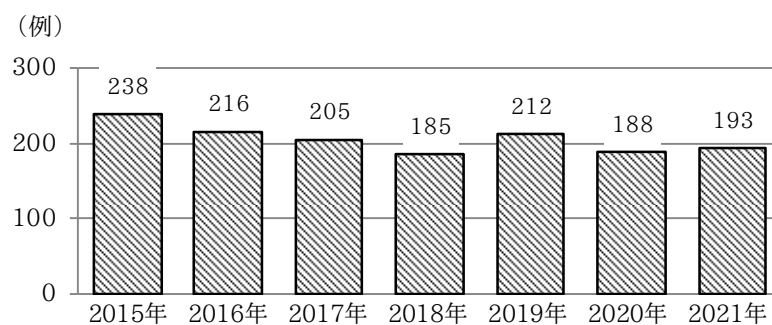
1 入院数

前年7施設で222例の妊婦管理が開始され、205例が分娩開始し助産所入院となっている。前年は95%の妊婦が助産所に分娩開始し入院となったが2021年は92%であった。(1施設 2021年3月31日から2022年5月12日まで一時休業)



2 分娩数

205例が分娩開始し12例がその後、転院搬送となった。搬送先は10例が嘱託医であった。原因は、遷延分娩が9例となっている。



3 分娩週数（例、死産児は除く）

40 週 6 日までの分娩が 95%と前年と同様の傾向であったが、39 週 6 日までの分娩が 58%と前年の 63%に比べやや減少し、予定日超過の増加が見られた。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
37週	14	-	12	9	18	7	8
38週	35	10	44	36	37	39	30
39週	94	43	68	66	73	74	74
40週	87	69	62	68	62	60	73
41週	7	84	19	6	22	8	8
42週以上	1	10	-	-	-	-	-

4 出生体重（例、死産児は除く）

5 例が低出生体重児であり、その体重は 2,400g 台が 2 例、2,300g 台が 1 例、2,200g 台が 2 例であった。低出生体重児の管理については、嘱託医に血糖値等の報告を綿密に行い母児分離なく安全に連携を行った。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
2,000-2,499g	1	3	2	1	7	-	5
2,500g以上	237	213	203	184	205	188	188

5 出産時年齢（例）

前年に比べ 35 歳未満の分娩取扱が減少し、40 歳以上の分娩取扱数が増加した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
35歳未満	183	141	146	133	126	133	114
35-39歳	48	67	50	44	73	51	64
40-44歳	7	9	9	8	12	4	15
45歳以上	-	-	-	-	1	-	-

6 合併症妊娠（例）

子宮筋腫合併妊娠が 2 例。嘱託医にて助産所での分娩が可能である事を確認している。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
子宮筋腫	3	1	5	-	1	4	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	3	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	-	-	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	1	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	1	-	-

7 産科合併症（例、重複あり）

前年 2 例だった弛緩出血が本年は 4 例と増加した。嘱託医及び後方支援病院との連携で、適切な治療が速やかに行われ搬送翌日にバックトランスファーとなっている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
切迫早産・前期破水	8	8	12	6	4	-	-
胎内胎児発育制限	2	-	-	1	-	-	-
産後出血（※1）	-	-	1	3	12	-	-
弛緩出血（※2）	-	-	-	-	-	2	4
常位胎盤早期剥離	-	-	-	-	-	1	-
先天異常	-	-	-	2	1	-	-
その他	-	1	-	1	1	1	-

※1 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／※2 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

8 助産所からの母児の転院症例（例）

助産所は医療法により安全確保の為に、嘱託医師および嘱託医療機関を定め、さらに本県では後方支援病院として奈良医大や県総合と契約が執り行われている。

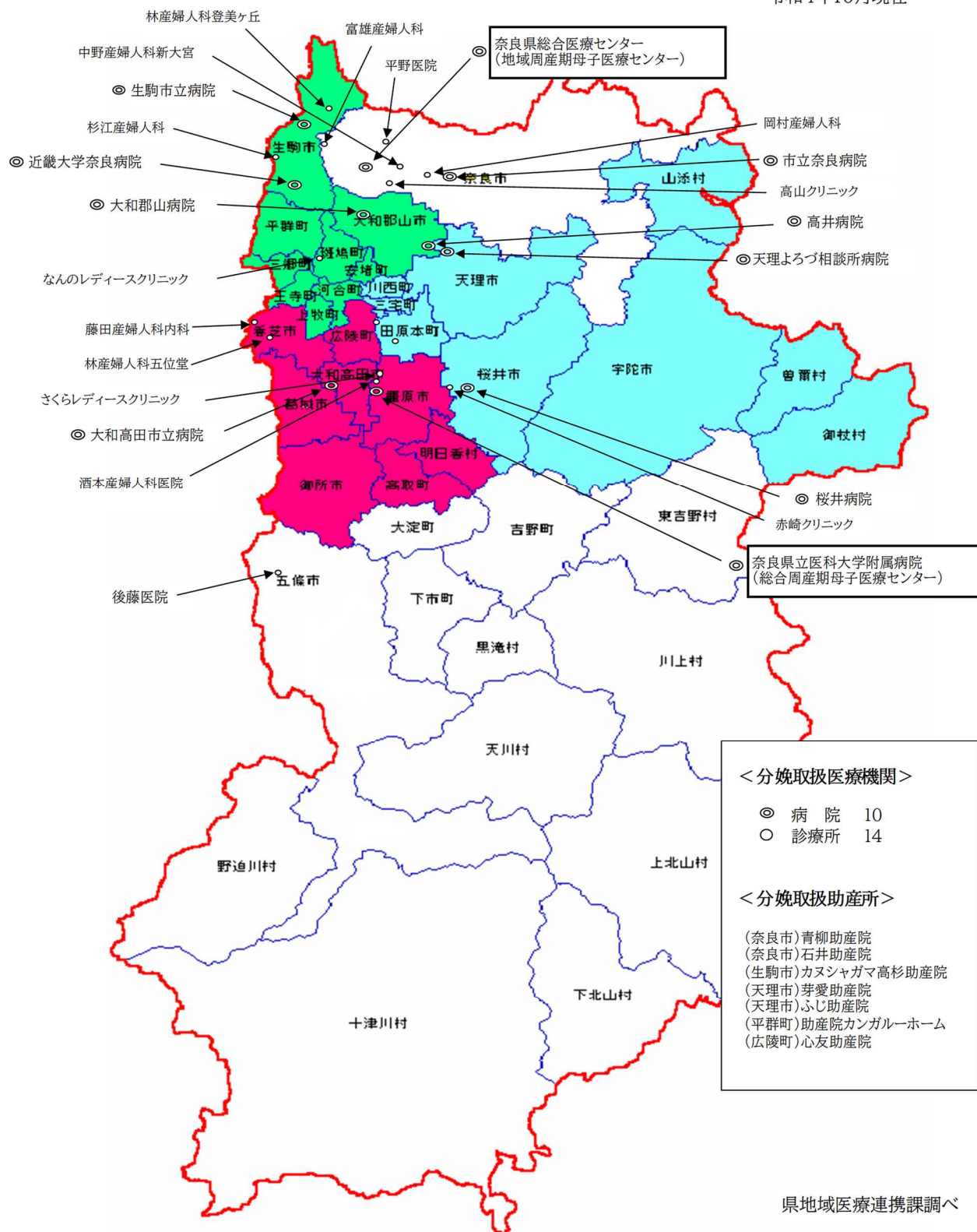
本年の妊娠中の転院症例は前年同様に切迫早産が一番多く 6 例、次に HDP が 5 例となり前年の 2 例から 2 倍以上に増加した。分娩中転院は前期破水後、遷延分娩となった症例が多かった。新生児期では心疾患 1 例、呼吸障害等の胎外循環適応障害が 2 例、感染症による呼吸障害と高ビリルビン血症が各 1 例であった。

転院先	2020年			2021年		
	妊娠中	分娩中	新生児	妊娠中	分娩中	新生児
嘱託医	6	6	-	13	8	1
奈良医大	3	2	1	6	2	2
県総合	4	4	2	4	3	2
その他	-	-	-	3	1	-

参考資料

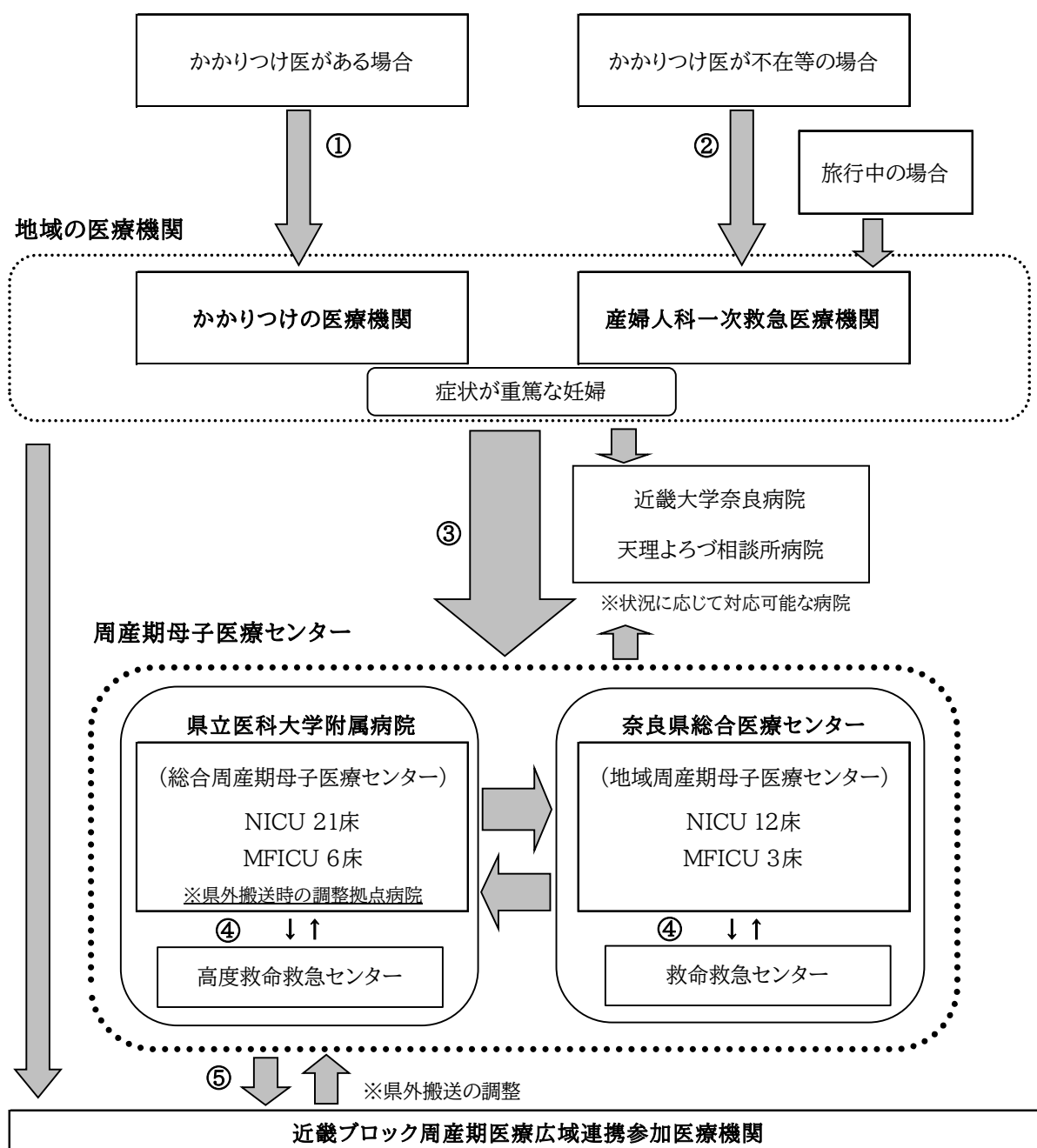
1. 奈良県産婦人科(周産期)医療体制図

令和4年10月現在



2. 母体搬送連携イメージ

令和4年10月現在



- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がいらないもしくは対応できない場合は、産婦人科一次救急医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、産婦人科一次救急医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は、周産期母子医療センターが対応（状況に応じて近畿大学奈良病院、天理よろづ相談所病院が対応）
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合は、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合は、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

3. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

(地域別、五十音順)
(令和4年10月現在)

地 域	医 療 機 関 名	住 所 及 び 電 話 番 号
北和	岡 村 産 婦 人 科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	き よ 女 性 ク リ ニ ッ ク	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市 立 奈 良 病 院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉 江 産 婦 人 科	生駒市本町1-11-3 0743-75-0123
	富 雄 産 婦 人 科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中 野 産 婦 人 科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大 和 郡 山 病 院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤 崎 ク リ ニ ッ ク	桜井市大字谷111 0744-43-2468
	酒 本 産 婦 人 科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜 井 病 院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内 藤 医 院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林 産 婦 人 科 五 位 堂 医 院	香芝市真美ヶ丘1丁目13-27 0745-71-5201

4. 産婦人科救急対応マニュアル(抜粋)

1. 一次救急編

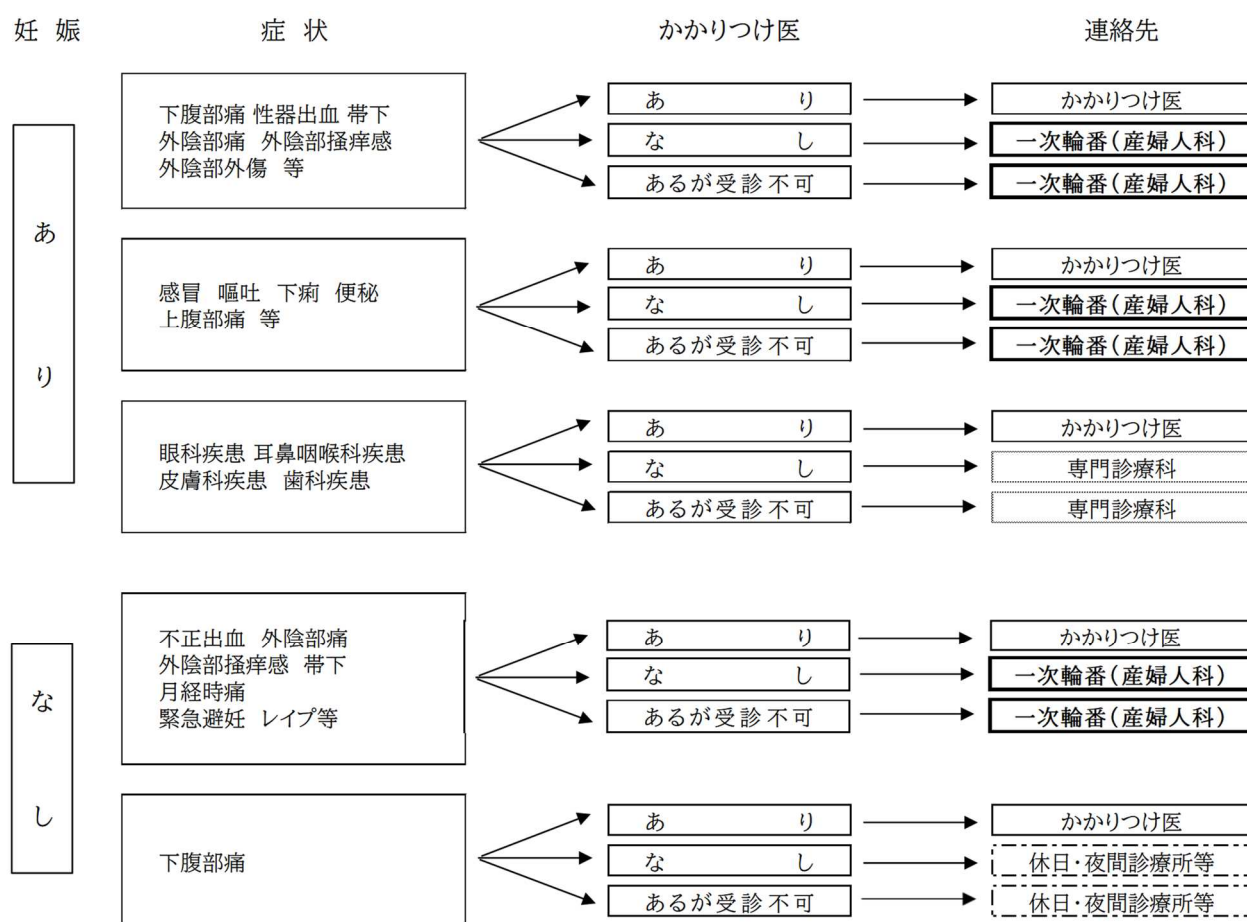
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいうまでもないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対応いただきますようお願いいたします。



5. 県内分娩取扱医療機関一覧

令和4年10月現在

医療圏	医療機関名		住所	
奈良	1	奈良県総合医療センター	630-8581	奈良市七条西町897番5号
	2	市立奈良病院	630-8305	奈良市東紀寺町1-50-1
東和	3	高井病院	632-0006	天理市蔵之庄町470-8
	4	天理よろづ相談所病院	632-0015	天理市三島町200番地
	5	桜井病院	633-0091	桜井市桜井973
西和	6	大和郡山病院	639-1013	大和郡山市朝日町1-62
	7	近畿大学奈良病院	630-0227	生駒市乙田町1248番-1
	8	生駒市立病院	630-0213	生駒市東生駒1-6-2
中和	9	奈良県立医科大学附属病院	634-0813	橿原市四条町840
	10	大和高田市立病院	635-0094	大和高田市磯野北町1番1号
病院 計		10		
奈良	11	高山クリニック	630-8031	奈良市柏木町190-5
	12	富雄産婦人科	631-0074	奈良市三松4丁目878番1
	13	平野医院	631-0821	奈良市西大寺東町2-1-52
	14	岡村産婦人科	630-8325	奈良市西木辻町30番地
	15	中野産婦人科新大宮	630-8014	奈良市四条大路1丁目3-57
東和	16	赤崎クリニック	633-0053	桜井市大字谷111
西和	17	杉江産婦人科	630-0257	生駒市元町1丁目11-3
	18	林産婦人科登美ヶ丘	630-0115	生駒市鹿畑町55番1
	19	なんのレディースクリニック	636-0123	生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
中和	20	酒本産婦人科	634-0804	橿原市内膳町4-4-26
	21	さくらレディースクリニック	634-0803	橿原市上品寺町528
	22	藤田産婦人科	639-0251	香芝市逢坂7丁目130番地の1号
	23	林産婦人科五位堂	639-0223	香芝市真美ヶ丘1-13-27
南和	24	後藤医院	637-0041	五條市本町1-7-23
診療所 計		14		
奈良	25	青柳助産院	630-8036	奈良市五条畑1丁目17番10-1号
	26	石井助産院	630-8107	奈良市奈保町5番21号
東和	27	芽愛助産院	632-0094	天理市前栽町274-1
	28	ふじ助産院	632-0063	天理市西長柄町388-2
西和	29	カヌシャガマ高杉助産院	630-0136	生駒市白庭台3丁目15番10
	30	助産院カンガルーホーム	636-0904	生駒郡平群町三里139-9
中和	31	心友助産院	635-0823	北葛城郡広陵町三吉赤部260-3
助産所 計		7		

(県地域医療連携課調べ)

6. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

令和4年3月31日現在

区 分	役 職	氏 名
総合周産期 母子医療センター	奈良県立医科大学附属病院 産婦人科学教室教授	木村 文則
	奈良県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター教授	西久保 敏也
関 係 団 体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県総合医療センター 周産期母子医療センター長兼産婦人科統括部長	喜多 恒和
	奈良県総合医療センター 産婦人科部長	佐道 俊幸
	奈良県総合医療センター 新生児集中治療部長	箕輪 秀樹
病 院	近畿大学奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
	近畿大学奈良病院 小児外科教授	米倉 竹夫
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	藤原 潔
	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
助産師会	奈良県助産師会	西川 佐稲子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良県広域消防組合警防部長)	徳永 達也
奈 良 県	福祉医療部 医療政策局長	平 夏来

7. 令和3年周産期医療年報編集会議委員名簿

所 属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学講座助教	赤坂 珠理晃
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門医局長	釜本 智之
奈良県総合医療センター	周産期母子医療センター長 兼産婦人科統括部長	喜多 恒和
	産婦人科部長	佐道 俊幸
	新生児集中治療部医長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科教授	大井 豪一
	診療講師	南方 俊祐
天理よろづ相談所病院	産婦人科副部長	富田 裕之
市立奈良病院	産婦人科部長	原田 直哉
大和郡山病院	産婦人科医長	水田 裕久
大和高田市立病院	産婦人科部長	堀江 清繁
高井病院	産婦人科師長	河本 由子
桜井病院	産婦人科副師長	森岡 由紀
生駒市立病院	総長	今村 正敏
診療所代表	奈良県産婦人科医会長 赤崎クリニック院長	赤崎 正佳
助産所代表	奈良県助産師会 心友助産院長	西川 佐稲子

8. 令和3年周産期医療年報編集ワーキンググループ委員名簿

所属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学教室助教	三宅 龍太
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門医局長	釜本 智之
奈良県総合医療センター	産婦人科部長	佐道 俊幸
	産婦人科医長	吉元 千陽
	新生児集中治療部医長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科診療講師	西岡 和弘

9. 奈良県周産期医療協議会設置要綱

(目的)

第1条 奈良県における周産期医療の現状と課題を踏まえ、県民が安心して子どもを産み育てることのできる周産期医療の推進に向け、具体的な対応策を協議・検討するため、奈良県周産期医療協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 周産期医療体制に係る調査分析に関する事項
- (2) 周産期医療体制整備計画に関する事項
- (3) 母体及び新生児の搬送の受入れ(県域を越えた搬送及び受入れを含む。)に関する事項
- (4) 総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターに関する事項
- (5) 周産期医療情報センター(周産期救急情報システムを含む。)に関する事項
- (6) 搬送の調整に関する事項
- (7) 地域周産期医療関連施設等の周産期医療関係者に対する研修に関する事項
- (8) その他周産期医療体制の整備に関し必要な事項

(組織)

第3条 協議会の委員は、次に掲げる者の管理者その他関係者により組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 周産期医療機関
- (3) 周産期医療関係団体
- (4) 周産期医療関係行政機関
- (5) その他適当と認められる者

(会長)

第4条 協議会に、会長1人を置く。

- 2 会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 3 委員から特に申し出のあった場合は、代理出席を妨げない。
- 4 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、奈良県福祉医療部医療政策局地域医療連携課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年 7月26日から施行する。
この要綱は、平成26年 4月 1日から施行する。
この要綱は、平成30年 4月 1日から施行する。

奈良県周産期医療年報

令和4年（2022年）12月

発行 奈良県周産期医療協議会